基本計画書

基本計画									
事項	記	入	欄	備	考				
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウセイダイン ショウトウカクケン 学校法人 修道学園								
フリガナ大学の名称	ヒロシマシュウドウダイク 広島修道大学 (Hiroshima shudo University)								
大学本部の位置	広島市安佐南区大塚東一丁目1-1								
大学の目的	<p>本学は、「道を修める」という建学の精神に基づき、「地域社会の発展に貢献できる人材の養成」、「地域社会と連携した人づくり」、「地域社会に開かれた大学づくり」を理念に掲げ、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を涵養することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>現代の教育と人間形成に関する諸問題に対応した教育観と学び続ける力を身につけた教育実践力を備えた人材を養成することを目的とし、教育学科は、「人間の発達と形成」に関して誕生・成熟・死に至る時間的連なりと、家庭・学校・社会に関わる空間的広がりにおいて理解する学際的・総合的視点からの教育を行う。</p> <p>また、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭(社会)、高等学校教諭(地理歴史)、特別支援学校教諭の各教諭免許課程および保育士、社会教育主事の資格課程を設置して、乳幼児教育から中等教育に至る複数の教育関係資格を取得させることをめざし、幼児教育や特別支援教育の充実、幼稚園・小学校、小学校・中学校、中学校・高等学校の学校段階間の連携、一貫教育を推進するなどの国や地域の教育政策上のニーズに応える。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	人文学部 [faculty of humanities and human sciences] 教育学科 [department of education] 計	4年	100人	-	400人	学士(教育学)	平成28年4月 第1年次	広島県広島市安佐南区 大塚東一丁目1番1号	
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	広島修道大学 人文学部人間関係学科(定員減)(△50)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	人文学部 教育学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	人文学部 教育学科	8人 (5)	5人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	13人 (5)	0人 (0)	31人 (40)
		計	8人 (5)	5人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	13人 (5)	0人 (0)	31人 (40)
	既	商学部 商学科	9人 (9)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	13人 (13)	0人 (0)	37人 (38)
		経営学科	9人 (10)	6人 (5)	0人 (0)	0人 (0)	15人 (15)	0人 (0)	34人 (35)
		全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	7人 (7)	4人 (3)	1人 (1)	0人 (0)	12人 (11)	0人 (0)	47人 (47)
教職課程担当		1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	1人 (1)	0人 (0)	1人 (1)	

組 織 の 概 要	経済科学部 現代経済学科	8 (9)	4 (3)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	9 (11)
	経済情報学科	8 (11)	4 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	6 (6)
	全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	4 (5)	4 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (8)	0 (0)	16 (16)
	教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	人文学部 人間関係学科 心理学専攻	5 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (5)	0 (0)	42 (43)
	人間関係学科 社会学専攻	5 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	43 (44)
	英語英文学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	29 (29)
	全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	7 (6)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	11 (9)	0 (0)	39 (39)
	教職課程担当	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	9 (9)
	法学部 法律学科	11 (7)	8 (6)	0 (0)	0 (0)	19 (13)	0 (0)	18 (19)
	国際政治学科	7 (8)	4 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	13 (13)
	全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	8 (9)	4 (2)	0 (1)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	22 (22)
	教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
	人間環境学部 人間環境学科	13 (13)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	32 (32)
	全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	3 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (5)	0 (0)	12 (12)
	教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計	117 (118)	52 (38)	4 (5)	4 (4)	177 (165)	0 (0)	412 (419)
	合計	125 (123)	57 (38)	4 (5)	4 (4)	190 (170)	0 (0)	443 (459)
	教員以外の職員 の概要	職 種	専 任		兼 任		計	
		事務職員	120 (110)	人	65 (75)	人	185 (185)	人
技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
図書館専門職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計	120 (110)		65 (75)		185 (185)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		
	校舎敷地	34,865 m ²	0 m ²	0 m ²		34,865 m ²		
	運動場用地	103,897 m ²	0 m ²	0 m ²		103,897 m ²		
	小 計	138,762 m ²	0 m ²	0 m ²		138,762 m ²		
	そ の 他	200,113 m ²	0 m ²	0 m ²		200,113 m ²		
合 計	338,875 m ²	0 m ²	0 m ²		338,875 m ²			
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	70,930 m ² (66,180 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)		70,930 m ² (66,180 m ²)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	97 室	17 室	48 室	18 室 (補助職員 - 人)	8 室 (補助職員 - 人)			
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	人文学部教育学科			13 室				

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	教育学科	67,913 [18,431] (41,935 [11,539])	427 [232] (274 [149])	889 [885] (572 [570])	1,693 (1,064)	— (—)	— (—)		
	計	67,913 [18,431] (41,935 [11,539])	427 [232] (274 [149])	889 [885] (572 [570])	1,693 (1,064)	— (—)	— (—)		
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体			
	11,700㎡	948		1,200,000					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	8,871㎡	屋内プール 1面	野球場 1面	陸上競技場 1面	アーチェリー場 1面				
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	676千円	676千円	676千円	676千円	—千円	—千円	図書費には電子ジャーナル・データベース整備費(運用コスト含む)を含む
		共同研究費等	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	
		図書購入費	6,108千円	8,047千円	10,165千円	11,565千円	12,372千円	—千円	
		設備購入費	9,440千円	18,340千円	6,528千円	9,821千円	16,679千円	—千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	商学部	1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円		
	人文学部人間関係学科心理学専攻	1,238千円	1,018千円	1,018千円	1,018千円	—千円	—千円		
	人文学部人間関係学科社会学専攻	1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円		
	人文学部教育学科	1,250千円	1,030千円	1,030千円	1,030千円	—千円	—千円		
	人文学部英語英文学科	1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円		
	法学部	1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円		
	経済科学部現代経済学科	1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円		
	経済科学部経済情報学科	1,250千円	1,030千円	1,030千円	1,030千円	—千円	—千円		
	人間環境学部	1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							
既設大学等の状況	大学の名称	広島修道大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	商学部	年	人	年次人	人		1.14		広島県広島市安佐南区 大塚東一丁目1番1号
	商学科	4	155	—	620	学士(商学)	1.17	昭和35年度	
	経営学科	4	155	—	620	学士(経営学)	1.11	昭和38年度	
	経済科学部						1.17		
	現代経済学科	4	115	—	460	学士(経済科学)	1.18	平成9年度	
	経済情報学科	4	115	—	460	学士(経済科学)	1.15	平成9年度	
	人文学部						1.18		
	人間関係学科		165		660		1.18		
	心理学専攻	4	55	—	220	学士(文学)	1.16	昭和48年度	
	社会学専攻	4	60	—	240	学士(文学)	1.11	昭和48年度	
	教育学専攻	4	50	—	200	学士(文学)	1.28	昭和48年度	
	英語英文学科	4	110	—	440	学士(文学)	1.18	昭和48年度	
	法学部						1.12		
	法律学科	4	220	—	880	学士(法学)	1.11	昭和51年度	
	国際政治学科	4	80	—	320	学士(国際政治学)	1.14	平成2年度	
	人間環境学部						1.18		
	人間環境学科	4	145	—	580	学士(人間環境学)	1.18	平成14年度	
	商学研究科						0.27		
	商学専攻						0.31		
博士前期課程	2	8	—	16	修士(商学)	0.12	昭和46年度		
博士後期課程	3	2	—	6	博士(商学)	0.50	昭和48年度		
経営学専攻						0.24			
博士前期課程	2	12	—	24	修士(経営学)	0.49	昭和52年度		
博士後期課程	3	3	—	9	博士(経営学)	0.00	昭和52年度		
経済科学研究科						0.27			
現代経済システム専攻						0.28			
博士前期課程	2	8	—	16	修士(経済学又は経済情報)	0.24	平成13年度		
博士後期課程	3	2	—	6	博士(経済学)	0.33	平成15年度		
経済情報専攻						0.26			

博士前期課程	2	8	—	16	修士（経済学又は経済情報）	0.37	平成13年度	
博士後期課程	3	2	—	6	博士（経済情報）	0.16	平成15年度	
人文科学研究科						0.11		
心理学専攻						0.10		
博士前期課程	2	5	—	10	修士（心理学）	0.20	昭和53年度	
博士後期課程	3	2	—	6	博士（心理学）	0.00	昭和56年度	
社会学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士（社会学）	0.00	昭和59年度	
教育学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士（教育学）	0.20	昭和59年度	
英文学専攻						0.15		
博士前期課程	2	5	—	10	修士（文学）	0.30	昭和53年度	
博士後期課程	3	3	—	9	博士（文学）	0.00	昭和56年度	
法学研究科						1.02		
法学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士（法学）	1.60	昭和56年度	
国際政治学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士（国際政治学）	0.45	平成6年度	
法務研究科								
法務専攻	3	—	—	—	法務博士（専門職）	—	平成16年度	
専門職学位課程 （法科大学院の課程）								平成27年度より 学生募集停止
大学の名称	鈴峯女子短期大学							
学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地
	年	人	年次 人	人		倍		
食物栄養学科	2	100	—	200	短期大学士 （家政学）	0.54	平成13年度	広島県広島市西区井口 四丁目6番18号
保育学科	2	100	—	200	短期大学士 （保育学）	0.90	平成16年度	
言語文化情報学科	2	—	—	—	短期大学士 （総合文化学）	—	平成18年度	
キャリア創造学科	2	50	—	100	短期大学士 （総合文化学）	0.70	平成26年度	
附属施設の概要	該当なし							

（注）

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の場合、学則の変更の届出を行う場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行う場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(人文学部教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
修道 スタン ダード 科目	修大基礎講座	1前		2		○			3	3					
	初年次セミナー	1後		2		○			8	2					兼4 オムニバス
	英語Ⅰ	1前	1					○							兼6
	英語Ⅱ	1後	1					○							兼6
	英語Ⅲ	1前	1					○							兼6
	英語Ⅳ	1後	1					○							兼6
	日本語Ⅰ	1前	1					○							兼1
	日本語Ⅱ	1後	1					○							兼1
	日本語Ⅲ	1前	1					○							兼1
	日本語Ⅳ	1後	1					○							兼1
	情報処理基礎(文書編集)	1・2前・後		2			○								兼6 ※実習
	情報処理基礎(表計算)	1・2前・後		2			○								兼6 ※実習
	情報処理基礎(プレゼンテーション)	1・2前・後		2			○								兼5 ※実習
	情報処理入門	1前	2				○								兼2 ※実習
	大学生活とキャリア形成	2前		2			○								兼6 オムニバス
	地域イノベーション論	1・2前・後		2			○								兼1
	地域コミュニケーション論	1・2前・後		2			○								兼1
	ひろしま未来協創プロジェクト(都心のコミュニケーション)	2・3前		2			○								兼1
	ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のコミュニケーション)	2・3前		2			○								兼1
	ひろしま未来協創プロジェクト(過疎地域のコミュニケーション)	2・3後		2			○								兼1
	ひろしま未来協創プロジェクト(過疎地域のイノベーション)	2・3前		2			○								兼1
	ひろしま未来協創プロジェクト(都心のイノベーション)	2・3後		2			○								兼1
	ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のイノベーション)	2・3後		2			○								兼1
	ひろしま未来協創特講(ファンリテーション入門)	1・2前		1					○						兼1
	ひろしま未来協創特講(ワークショップ・スキル入門)	1・2前		1					○						兼1
	ひろしま未来協創特講(広島地域のテーマ発見)	1・2後		1					○						兼1
	ひろしま未来協創特講(過疎地域のテーマ発見)	1・2後		1					○						兼1
	ひろしま未来協創特講(地域コミュニケーションデザイン:ツール)	1・2前		1					○						兼1
	ひろしま未来協創特講(発見・デザイン・しまなみ)	1・2前		1					○						兼1
	ひろしま未来協創特講(地域コミュニケーションデザイン:プログラム)	1・2後		1					○						兼1
	ひろしま未来協創特講(発見・デザイン・まちなか)	1・2後		1					○						兼1
	ひろしま未来協創特講(プロジェクトマネジメント入門)	1・2後		1					○						兼1
	ひろしま未来協創特講(体験から学ぶ人間関係づくり)	1・2後		1					○						兼1
広島学(歴史・産業)	3前		2			○								兼6 オムニバス	
広島学(広島県の経済構造)	3前		2			○								兼8 オムニバス	
広島学(広島・ヒロシマで学ぶ、広島・ヒロシマを学ぶ)	2前		2			○								兼4 オムニバス	
広島学(ひろしまの自然環境と景観)	3前		2			○								兼7 オムニバス	
小計(37科目)		—	10	46	0	—			8	4	0	0	0	兼62	—
共通 教育 科目	哲学	1・2前		2		○									兼1
	倫理学	1・2前		2		○									兼1
	美学	1・2前		2		○									兼1
	芸術学	1・2前		2		○									兼1
	日本文学	1・2前		2		○									兼1
	西洋文学	1・2前		2		○									兼1
	日本語学	1・2前		2		○									兼1
	心理学	1・2前		2		○									兼2
	文化論	1・2前		2		○									兼1
	文化人類学	1・2前		2		○									兼1
	日本史	1・2前		2		○									兼1
	東洋史	1・2前		2		○									兼1
	西洋史	1・2前		2		○									兼2
	地理学	1・2前・後		2		○									兼1
	社会学	1・2前		2		○									兼1
	法学	1・2後		2		○									兼1
	政治学	1・2前		2		○									兼1

教育課程等の概要														
(人文学部教育学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	経済学	1・2前		2		○								兼1
	統計学	1・2前		2		○								兼1
	情報社会論	1・2前		2		○								兼1
	物理学	1・2後		2		○								兼1
	化学	1・2前・後		2		○								兼1
	生物学	1・2前・後		2		○								兼1
	環境科学	1・2前・後		2		○								兼1
	数学	1・2前		2		○								兼1
	教養講義(現代の哲学)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(西洋の美術)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(西洋の音楽)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(江戸文学)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(ドイツ文学)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(西洋文化論)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(アジアの文化と社会)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(日本近代史)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(日本近現代史)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(東洋近世史)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(西欧近代史)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(西洋中近世史)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(生活の中の地理学)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(社会学のものの見方と考え方)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(社会と政治)	1・2前		2		○								兼1
	教養講義(現代経済学)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(応用統計学)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(情報環境論)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(ヒトの生命科学)	1・2後		2		○								兼1
	教養講義(応用数学)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(近現代の哲学)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(近現代の美学)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(西洋美術の図像学)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(浮世絵)	1・2前		2		○								兼1
	総合教養講義a(江戸時代の化粧・結髪)	1・2前		2		○								兼1
	総合教養講義a(神仏と芸能)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(現代日本語の特質)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(英語と日本語)	1・2前		2		○								兼1
	総合教養講義a(ことばと社会)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(ピアノ講座)	1・2前・後		2		○								兼1
	総合教養講義a(声楽と合唱)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(教育文化論)	1・2後		2		○			1					
	総合教養講義a(歴史と社会)	1・2前・後		2		○								兼1
	総合教養講義a(現代日本社会の諸相)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(日本の社会および経済の文化的基礎)	1・2前		2		○								兼1
	総合教養講義a(現代社会と会計)	1・2前・後		2		○								兼1
	総合教養講義a(ベーシック・ファイナンス)	1・2前		2		○								兼1
	総合教養講義a(コーポレートファイナンス入門)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(働く人のための経営学)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(環境経営入門)	1・2前		2		○								兼1
	総合教養講義a(現代社会と企業)	1・2前		2		○								兼1
	総合教養講義a(生活保障論)	1・2前		2		○								兼1
	総合教養講義a(市民と行政法)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(家族と法)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(事例で学ぶ民法)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(現代社会と企業法)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(国際社会と法)	1・2前		2		○								兼1
	総合教養講義a(情報と社会)	1・2後		2		○								兼1

教育課程等の概要														
(人文学部教育学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	総合教養講義a(生命の化学)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(病気の生物学)	1・2前・後		2		○								兼1
	総合教養講義a(大気環境問題と生態系)	1・2前・後		2		○								兼1
	総合教養講義a(生物多様性保全の環境問題)	1・2後		2		○								兼1
	総合教養講義a(宇宙と環境科学)	1・2前・後		2		○								兼1
	総合教養講義a(自然環境と災害)	1・2前		2		○								兼1
	総合教養講義b(芸術文化)	2前		2		○								兼1
	総合教養講義b(江戸時代の服飾)	2後		2		○								兼1
	総合教養講義b(和紙)	2後		2		○								兼1
	総合教養講義b(マスコミ論)	2後		2		○								兼1
	総合教養講義b(社会保障論)	2後		2		○								兼1
	総合教養講義b(労働問題と法)	2後		2		○								兼1
	総合教養講義b(国際理解)	2前		2		○								兼1
	総合教養講義b(生命情報論)	2前		2		○								兼1
	総合教養コース(世界の言語と文化)	1・2前		2		○								兼1
	総合教養コース(情報化社会と人間)	1・2前・後		2		○								兼1
	小計(89科目)	—	0	178	0	—			1	0	0	0	0	兼56
外国語科目 英語科目	英語文書表現Ⅰ	1・2前		2		○								兼3
	英語文書表現Ⅱ	1・2後		2		○								兼3
	英語文書表現Ⅲ	1・2前		2		○								兼1
	英語文書表現Ⅳ	1・2後		2		○								兼1
	英語読解Ⅰ	1・2前		2		○								兼4
	英語読解Ⅱ	1・2後		2		○								兼4
	英語読解Ⅲ	1・2前		2		○								兼1
	英語読解Ⅳ	1・2後		2		○								兼1
	英語聴解Ⅰ	1・2前		2		○								兼3
	英語聴解Ⅱ	1・2後		2		○								兼3
	英語聴解Ⅲ	1・2前		2		○								兼1
	英語聴解Ⅳ	1・2後		2		○								兼1
	英語コミュニケーションⅠ	1・2前		2		○								兼3
	英語コミュニケーションⅡ	1・2後		2		○								兼3
	英語コミュニケーションⅢ	1・2前		2		○								兼2
	英語コミュニケーションⅣ	1・2後		2		○								兼2
	英語語法研究Ⅰ	1・2前		2		○								兼2
	英語語法研究Ⅱ	1・2後		2		○								兼2
	英語語法研究Ⅲ	1・2前		2		○								兼1
	英語語法研究Ⅳ	1・2後		2		○								兼1
	資格英語Ⅰ	1・2前		2		○								兼4
	資格英語Ⅱ	1・2後		2		○								兼4
	資格英語Ⅲ	1・2前		2		○								兼3
	資格英語Ⅳ	1・2後		2		○								兼3
	英語プレゼンテーションⅠ	1・2前		2		○								兼1
	英語プレゼンテーションⅡ	1・2後		2		○								兼1
	アドバンスト英語(Japanese Film)	2・3・4前		2		○								兼1
	アドバンスト英語(Cross Cultural Communication)	2・3・4前		2		○								兼1
	アドバンスト英語(Contract Bridge and Card Game Culture)	2・3・4前		2		○								兼1
	アドバンスト英語(Aspects of Japanese Language and Society)	2・3・4後		2		○								兼2
	アドバンスト英語(Japanese Studies)	2・3・4後		2		○								兼1
	アドバンスト英語(Video Gaming from East to West)	2・3・4後		2		○								兼1
	オンライン英語実習Ⅰ	1・2前		1				○						兼1
オンライン英語実習Ⅱ	1・2後		1				○						兼1	
日本語Ⅴ	1・2前		1				○						兼1	
日本語Ⅵ	1・2後		1				○						兼1	
	小計(36科目)	—	0	68	0	—			0	0	0	0	0	兼24
外国語	ドイツ語Ⅰ	1前		1				○						兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		1				○						兼1

教育課程等の概要																	
(人文学部教育学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
科目 初修 外国語 科目	ドイツ語Ⅲ	1前		1				○						兼1			
	ドイツ語Ⅳ	1後		1				○						兼1			
	フランス語Ⅰ	1前		1				○						兼1			
	フランス語Ⅱ	1後		1				○						兼1			
	フランス語Ⅲ	1前		1				○						兼1			
	フランス語Ⅳ	1後		1				○						兼1			
	スペイン語Ⅰ	1前		1				○						兼1			
	スペイン語Ⅱ	1後		1				○						兼1			
	スペイン語Ⅲ	1前		1				○						兼1			
	スペイン語Ⅳ	1後		1				○						兼1			
	中国語Ⅰ	1前		1				○						兼1			
	中国語Ⅱ	1後		1				○						兼1			
	中国語Ⅲ	1前		1				○						兼1			
	中国語Ⅳ	1後		1				○						兼1			
	韓国・朝鮮語Ⅰ	1前		1				○						兼1			
	韓国・朝鮮語Ⅱ	1後		1				○						兼1			
	韓国・朝鮮語Ⅲ	1前		1				○						兼1			
	韓国・朝鮮語Ⅳ	1後		1				○						兼1			
	上級外国語Ⅰ(中国語)	2前		2			○							兼1			
	上級外国語Ⅱ(中国語)	2後		2			○							兼1			
	上級外国語Ⅰ(韓国・朝鮮語)	2前		2			○							兼1			
	上級外国語Ⅱ(韓国・朝鮮語)	2後		2			○							兼1			
	日本語Ⅶ	1・2前		1					○					兼1			
	日本語Ⅷ	1・2後		1					○					兼1			
	日本語Ⅸ	1・2前		1					○					兼1			
	日本語Ⅹ	1・2後		1					○					兼1			
	言語と文化Ⅰ(ドイツ)	2前		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅱ(ドイツ)	2後		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅲ(ドイツ)	2前		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅳ(ドイツ)	2後		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅰ(フランス)	2前		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅱ(フランス)	2後		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅲ(フランス)	2前		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅳ(フランス)	2後		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅰ(スペイン)	2前		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅱ(スペイン)	2後		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅲ(スペイン)	2前		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅳ(スペイン)	2後		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅰ(中国)	2前		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅱ(中国)	2後		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅲ(中国)	2前		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅳ(中国)	2後		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅰ(韓国・朝鮮)	2前		2			○							兼2			
	言語と文化Ⅱ(韓国・朝鮮)	2後		2			○							兼2			
	言語と文化Ⅲ(韓国・朝鮮)	2前		2			○							兼1			
	言語と文化Ⅳ(韓国・朝鮮)	2後		2			○							兼1			
	小計(48科目)		—	0	72	0		—			0	0	0	0	0	兼22	—
	保健 体育 科目	健康科学論	1・2前・後		2			○								兼2	
運動科学論		1・2後		2			○								兼1		
健康科学演習		1・2前		2					○						兼1		
運動科学演習		1・2後		2					○						兼1		
健康スポーツ実習(エアロビクス)		1・2前		1					○			1					
健康スポーツ実習(ゴルフ)		1・2前・後		1					○							兼3	
健康スポーツ実習(サッカー)		1・2前・後		1					○							兼2	
健康スポーツ実習(ソフトバレーボール)		1・2前		1					○							兼1	
健康スポーツ実習(ソフトボール)	1・2前・後		1					○			1				兼1		

教育課程等の概要																
(人文学部教育学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	健康スポーツ実習（卓球）	1・2前		1				○							兼2	集中
	健康スポーツ実習（テニス）	1・2前・後		1				○							兼2	
	健康スポーツ実習（ニュースポーツ）	1・2後		1				○							兼1	
	健康スポーツ実習（バスケットボール）	1・2前・後		1				○							兼1	
	健康スポーツ実習（バドミントン）	1・2後		1				○		1					兼2	
	健康スポーツ実習（ボディワーク）	1・2後		1				○	1							
	健康スポーツ実習（Shudo AP）	1・2後		1				○							兼1	
	健康スポーツ実習（アダブテッド・スポーツ）	1・2後		1				○		2					兼1	
	運動スポーツ実習（アグアティックスポーツ）	1・2前・後		1				○							兼1	
	運動スポーツ実習（エアロビクス）	1・2後		1				○	1							
	運動スポーツ実習（ゴルフ）	1・2前・後		1				○							兼2	
	運動スポーツ実習（サッカー）	1・2前・後		1				○							兼2	
	運動スポーツ実習（ソフトボール）	1・2前・後		1				○		1					兼2	
	運動スポーツ実習（卓球）	1・2前・後		1				○							兼2	
	運動スポーツ実習（ダンス）	1・2前		1				○	1							
	運動スポーツ実習（テニス）	1・2前・後		1				○							兼2	
	運動スポーツ実習（バスケットボール）	1・2前・後		1				○							兼1	
	運動スポーツ実習（バドミントン）	1・2前		1				○							兼2	
	運動スポーツ実習（バレーボール）	1・2前・後		1				○							兼1	
	運動スポーツ実習（ボディワーク）	1・2前		1				○	1							
野外運動実習Ⅰ（キャンプ）	2前		1				○		1					兼2		
野外運動実習Ⅰ（スキー）	2後		1				○							兼2		
野外運動実習Ⅱ（キャンプ発展）	2前		1				○							兼1		
野外運動実習Ⅱ（スキー発展）	2後		1				○							兼1		
小計（33科目）	—	—	0	37	0	—	—	—	1	2	0	0	0	兼17	—	
主専攻科目	人文学部総合科目															
	差別問題論	1前	2				○								兼1	集中
	日本文化史Ⅰ	1・2前		2			○								兼1	
	日本文化史Ⅱ	1・2後		2			○								兼1	
	Media EnglishⅠ	2・3前		2			○								兼4	
	Media EnglishⅡ	2・3後		2			○								兼4	
	Business EnglishⅠ	2・3前		2			○								兼3	
	Business EnglishⅡ	2・3後		2			○								兼3	
	憲法Ⅰ	1・2前		2			○								兼2	
	憲法Ⅱ	1・2後		2			○								兼2	
	人文学部特別講義（プレゼンテーション論）	1・2前		2			○								兼1	
人文学部特別演習（崩し字解読）	1・2前		2				○							兼1		
インターンシップ	2・3通		2					○	1					兼5		
小計（12科目）	—	—	2	22	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼15	—	
専攻科目	教育学基礎演習	1前	2					○		5	3				兼4	—
	教育研究演習Ⅰ	2前	2					○		8	2				兼4	
	教育研究演習Ⅱ	2後	2					○		8	2				兼4	
	教育学演習Ⅰ	3前	2					○		8	2				兼4	
	教育学演習Ⅱ	3後	2					○		8	2				兼4	
	教育学演習Ⅲ	4前	2					○		8	2				兼4	
	教育学演習Ⅳ	4後	2					○		8	2				兼4	
	卒業研究	4通	4					○		8	2				兼4	
小計（8科目）	—	—	18	0	0	—	—	—	8	4	0	0	0	兼4		
専攻科目A群	教育原理	1前	2				○			1						兼1
	教育制度論	1後	2				○								兼1	
	人権教育論	1後	2				○								兼1	
	教育哲学	2・3前		2			○		1							
	教育社会学	2・3前		2			○								兼1	
	教育文化史	2・3前		2			○		1							
	教育史	2・3後		2			○		1							
	教育政策論	2・3前		2			○								兼1	
生涯学習論Ⅰ	1・2前		2			○		1								

教育課程等の概要																
(人文学部教育学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	生涯学習論Ⅱ	1・2後		2		○			1							
	社会教育計画Ⅰ	1・2前		2		○			1							
	社会教育計画Ⅱ	1・2後		2		○			1							
	中等教育方法論	2・3前		2		○									兼1	
	初等教育方法論	2・3前		2		○									兼1	
	幼児理解の方法	2・3後		2		○									兼1	
	特別支援教育概論	2・3前		2		○			1							
	重複・発達障害概論	2・3後		2		○			1							
	小計（17科目）	—	8	26	0	—	—	—	4	0	0	0	0	0	兼4	—
専攻科目 専攻科目B群	教育学特論Ⅰ（教職教養研究）	3前		2		○				1					兼2	オムニバス
	教育学特論Ⅱ（初等・教科内容研究）	3後		2		○			2						兼1	
	教育学特論Ⅱ（中等・教科内容研究）	3後		2		○				2					兼1	
	教育学特論Ⅱ（幼児・教科内容研究）	3後		2		○									兼2	※講義
	教育学特論Ⅲ（体育実技指導研究）	2・3後		2				○							兼2	※講義
	教育学特論Ⅳ（ひろしまの教育）	2・3後		2		○			1	1					兼1	
	教育学特論Ⅴ（野外活動指導法）	2・3前		2			○		1						兼1	
	教育学特論Ⅵ（絵画表現）	2・3前		2			○			1					兼1	
	教育学特論Ⅶ（レクリエーション）	2・3前		1				○							兼1	
	教育学特論Ⅷ（音楽理論とピアノ実技）	2・3前		1				○			1				兼1	
	教育学特論Ⅸ（音楽理論とピアノ実技）	2・3後		1				○			1				兼1	
	教育学特論Ⅹ（発声法）	2・3前		1				○							兼1	
	社会教育演習	2・3前・後		2				○		1					兼1	
	社会教育実習	3通		2					○	1					兼1	※講義
学校教育インターンシップ	2・3通		2					○	1	1				兼3	※講義	
小計（15科目）	—	0	26	0	—	—	—	4	5	0	0	0	0	兼7	—	
専攻科目 教職専門科目群	教職入門	1前		2		○									兼1	
	教育心理学Ⅱ	2・3後		2		○									兼1	
	中等社会科教育法Ⅰ	3前		2		○									兼1	
	中等社会科教育法Ⅱ	3後		2		○									兼1	
	社会科・地理歴史科教育法	3前		2		○									兼1	
	社会科・公民科教育法	3前		2		○									兼1	
	中等道徳教育論	2後		2		○									兼1	
	中等特別活動論	2後		2		○									兼1	
	中等生徒指導論	2前		2		○									兼1	
	中等教育相談	2後		2		○									兼1	
	中等教育実習事前事後指導	3・4通		1		○									兼2	集中
	中等教育実習Ⅰ	3・4通		2				○							兼1	集中
	中等教育実習Ⅱ	4通		2				○							兼1	集中
	日本史概論Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	日本史概論Ⅱ	1・2後		2		○									兼1	
	東洋史概論Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	東洋史概論Ⅱ	1・2後		2		○									兼1	
	西洋史概論Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	西洋史概論Ⅱ	1・2後		2		○									兼1	
	人文地理学Ⅰ	2・3前		2		○									兼1	
	人文地理学Ⅱ	2・3後		2		○									兼1	
	自然地理学	2・3前		2		○									兼1	
	地誌Ⅰ	2・3前		2		○									兼1	
	地誌Ⅱ	2・3後		2		○									兼1	
	人間観の思想	1・2後		2		○				1					兼1	
	哲学概論Ⅰ	1前		2		○									兼1	
哲学概論Ⅱ	1・2後		2		○									兼1		
倫理学概論Ⅰ	1前		2		○									兼1		
倫理学概論Ⅱ	1・2後		2		○									兼1		
法律学概論	1・2後		2		○									兼4	オムニバス	
政治学概論	2・3前		2		○									兼1		

教育課程等の概要															
(人文学部教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	国際法	2・3後		4		○								兼1	Wコマ
	国際政治学Ⅰ	2・3前		2		○								兼1	
	国際政治学Ⅱ	2・3後		2		○								兼1	
	現代経済入門Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	現代経済入門Ⅱ	1後		2		○								兼1	
	教職実践演習(中・高)	4後		2			○							兼5	
	教職実践演習(幼・小)	4後		2			○							兼1	
	初等教育実習事前事後指導(小)	3後		1		○			2	1				兼1	集中
	初等教育実習事前事後指導(幼)	3・4後		1		○			1	1				兼1	集中
	初等教育実習Ⅰ	3後		2				○						兼1	集中
	初等教育実習Ⅱ	3後		2				○	1					兼1	集中
	初等教育実習Ⅲ	3・4後		2				○						兼1	集中
	教育心理学Ⅰ	2・3前		2		○								兼1	
	生活科教育法	3前		2		○			1						
	音楽科教育法	3前		2		○				1					
	図画工作科教育法	3前		2		○				1					
	体育科教育法	3前		2		○			1						
	家庭科教育法	3前		2		○								兼1	
	国語科教育法	2・3前		2		○				1					
	初等社会科教育法	2・3前		2		○								兼1	
	算数科教育法	2・3前		2		○			1						
	理科教育法	2・3後		2		○								兼1	
	初等英語教育論	2・3前		2		○								兼1	
	初等道德教育論	2・3前		2		○								兼1	
	初等教育相談	2・3前		2		○								兼1	
	初等生徒指導論	2・3前		2		○								兼1	
	初等特別活動論	2・3前		2		○								兼1	
	初等教育(国語)	1後		2		○				1					
	書写	1前		1				○						兼1	
	初等教育(社会)	1後		2		○								兼1	
	初等教育(算教)	1後		2		○			1						
	初等教育(理科)	2・3前		2		○								兼1	
	初等教育(生活)	2・3後		2		○			1						
	初等教育(体育)	2・3後		2		○			1						
	初等教育(音楽)	2・3後		2		○				1					
	初等教育(図画工作)	2・3後		2		○				1					
	初等教育(家庭)	2・3後		2		○								兼1	
	保育原理	2・3前		2		○			1						
	保育者論	1前		2		○								兼1	
	児童家庭福祉論	3前		2		○								兼1	
	社会福祉論	2・3後		2		○			1						
	相談援助演習	3後		2			○							兼1	
	社会的養護論	3後		2		○								兼1	
	幼児発達心理学	2・3前		2		○								兼1	
	幼児心理学演習	3前		2			○							兼1	
	子どもの保健Ⅰ	2・3前		2		○				1					
	子どもの保健Ⅱ	3前		2		○								兼1	
	子どもの保健演習	3前		2			○							兼1	
	子どもの食と栄養	3前		2		○								兼1	
	家庭支援論	3後		2		○								兼1	
	保育課程論	3前		2		○								兼1	
	保育内容総論	2・3後		2		○			1						
	保育内容(言葉)	3前		2		○				1					
	保育内容(健康)	3前		2		○				1					
	保育内容(人間関係)	2・3後		2		○								兼1	
	保育内容(環境)	2・3前		2		○			1						

教育課程等の概要															
(人文学部教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	保育内容（音楽的表現）	3後		2		○				1					
	保育内容（造形的表現）	2・3後		2		○				1					
	保育内容（身体的表現）	3後		2		○				1					
	乳児保育演習	2・3後		2			○							兼1	
	障害児保育演習	2・3前		2			○			1					
	社会的養護内容	3後		2		○								兼1	
	保育相談支援	2・3後		2		○								兼1	
	音楽表現技術Ⅰ	2・3前		2				○		1				兼1	
	音楽表現技術Ⅱ	2・3後		2				○		1				兼1	
	図画工作表現技術	2・3前		2				○		1				※講義	
	体育表現技術	2・3前		2				○		1				※講義	
	保育実習Ⅰ（保育所）	3通		2				○		1				集中	
	保育実習Ⅰ（施設）	3通		2				○		1				集中	
	保育実習Ⅱ（保育所）	3・4通		2				○		1				集中	
	保育実習Ⅲ（施設）	3・4通		2				○		1				集中	
	保育実習指導Ⅰ（保育所・施設）	3前		2				○		1	1			集中	
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	4前		2				○		1				集中	
	保育実習指導Ⅲ（施設）	4前		2				○		1				集中	
	保育実践演習	4後		2			○			1					
	知的障害者の心理・生理・病理	2・3後		2		○				2				兼1 オムニバス	
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2・3後		2		○				2				兼1 オムニバス	
	病弱者の心理・生理・病理	3前		2		○								兼3 オムニバス	
	知的障害教育学	2・3前		2		○				1					
	知的障害指導法	2・3後		2		○				1					
	肢体不自由の教育と指導	3前		2		○				1					
	病弱の教育と指導	3後		2		○								兼1	
	特別支援教育課程論	2・3後		2		○				1					
	視覚障害概論	3後		2		○								兼1	
	聴覚障害概論	3後		2		○								兼1	
	特別支援教育実習事前事後指導	4通		1		○				1	1				
	特別支援教育実習	4通		2				○			1				
	小計（118科目）	—	0	233	0	—	—	—	—	6	5	0	0	0	兼50
関連学科科目	心理学概論Ⅰ	1・2前		2		○								兼1	
	心理学概論Ⅱ	1・2後		2		○								兼1	
	ヒロシマ文化論Ⅰ	1・2前		2		○								兼1	
	ヒロシマ文化論Ⅱ	1・2後		2		○								兼1	
	社会心理学	1・2後		2		○								兼1	
	認知心理学	1・2後		2		○								兼1	
	発達心理学	1・2前		2		○								兼1	
	臨床心理学	1・2前		2		○								兼1	
	知覚心理学	1・2前		2		○								兼1	
	生理心理学	1・2後		2		○								兼1	
	パーソナリティ心理学	1・2前		2		○								兼1	
	心理療法	2・3前		2		○								兼1	
	健康心理学	1・2前		2		○								兼1	
	メディア論Ⅰ	1・2前		2		○								兼1	
	メディア論Ⅱ	1・2後		2		○								兼1	
	ジャーナリズム論Ⅰ	1・2前		2		○								兼1	
	ジャーナリズム論Ⅱ	1・2後		2		○								兼1	
	比較社会論	1・2前		2		○								兼1	
	共生社会論	1・2後		2		○								兼1	
	現代社会論A	2・3前		2		○								兼1	
	現代社会論B	2・3後		2		○								兼1	
	社会意識論A	2・3前		2		○								兼1	
	社会意識論B	2・3後		2		○								兼1	
	文化社会学A	2・3前		2		○								兼1	

教育課程等の概要														
(人文学部教育学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	文化社会学B	2・3後		2		○								兼1
	コミュニティ論A	2・3前		2		○								兼1
	コミュニティ論B	2・3後		2		○								兼1
	コミュニケーション論A	2・3前		2		○								兼1
	コミュニケーション論B	2・3後		2		○								兼1
	サブカルチャー論A	2・3前		2		○								兼1
	サブカルチャー論B	2・3後		2		○								兼1
	国際社会学A	2・3前		2		○								兼1
	国際社会学B	2・3後		2		○								兼1
	社会安全政策論	1・2前		2		○								兼1
	公共政策論	1・2後		2		○								兼5 オムニバス
	小計（35科目）	—	0	70	0	—			0	0	0	0	0	兼25
自由選択科目	他学部他学科の授業科目につき省略													
	小計（-科目）	—	0	0	0	—			—	—	—	—	—	—
合計（449科目）			—	38	778	0	—		8	5	0	0	0	兼232
学位又は称号		学士（教育学）			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
修道スタンダード科目10単位以上、外国語科目初修外国語科目2単位以上を含む共通教育科目18単位以上、専攻科目A群20単位以上・専攻科目40単位以上を含む主専攻科目78単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 履修制限単位数：前期または後期24単位（ただし4年次に限り28単位）、年間44単位							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 修 道 ス タ ン ド 科 目	全学 共 通 科 目	この科目は、一年次生が大学での学びや大学生活に円滑に移行するために、大学生としての態度や姿勢を身につけ、大学の学びに必要な学習スキルを習得することを目的としています。 大学でしっかり学ぶためには、一年次生は、大学4年間の目標を明確にし、高校までの教育とは違う大学の「学び」に特有なスキルを身につけ、主体的に学ぶことが必要です。また、大学生活を有意義にするために、大学の仕組みをよく知り、大学の教職員や先輩や友人と深く関わる必要があります。以上の内容を通して、一年次生が大学での学びと生活の基礎を築くことを目指します。	6クラスで運営 共通シラバス
大学院 修 道 ス タ ン ド 科 目	全学 共 通 科 目	本講義の目的は、教育学科各教員の専門分野をとおした講義により、教育学の多面的な性格についての理解を深め、2年次以降の専門的な学習への橋渡しをすることです。それにより、各自の問題意識の方向を定め、分野別の演習の選択などに資することをめざします。 (オムニバス方式/全15回) (1 木村恵子/1回) ガイダンス～この授業の位置づけと流れの説明 チュータークラスに分かれての学習状況の確認 まとめと、レポート課題についての説明 (1 木村恵子・2 光本弥生・3 菅尾尚代・4 相馬伸一・5 堀田哲一郎・6 松崎雅広・7 森川潤・8 山川肖美・10 谷口直隆・12 平田香奈子・21 大庭宣尊・25 岡本徹・38 笹尾省二・89 西森章子/各1回) 教員の専門分野についての講義 チュータークラスに分かれての学習状況の確認	オムニバス方式
大学院 修 道 ス タ ン ド 科 目	全学 共 通 科 目	英語 I	リスニング(音声インプット)を中心に基本的な英語コミュニケーション能力を身につけます。幅広い分野における様々な英語の音声に慣れ、正確に聞き取るための練習を行います。また、スタイルや速度の違いに留意しながら英語音声の特徴についても学びます。必要に応じて文法・語法を確認し、演習などを通して知識の定着を図ります。なお、レベル2・レベル3クラスでは、eラーニングを併用します。
大学院 修 道 ス タ ン ド 科 目	全学 共 通 科 目	英語 II	英語 I に引き続いて、リスニング(音声インプット)を中心に基本的な英語コミュニケーション能力を身につけます。更に発展的な内容に関する英語の音声に慣れ、要点などを整理しながら正確に聞き取るための練習を行います。また、速い発話などにおける音変化やイントネーション・リズムなどの音声特徴についても学びます。必要に応じて文法・語法を確認し、演習などを通して更なる知識の定着を図ります。なお、レベル2・レベル3クラスでは、eラーニングを併用します。
大学院 修 道 ス タ ン ド 科 目	全学 共 通 科 目	英語 III	リーディング(文字インプット)を中心に基本的な英語コミュニケーション能力を身につけます。幅広い分野における様々な題材の文章を読み、文章構成や主題文など(メインアイデアを含む)を学びます。また、異なる種類の英語で書かれた文書から速く正確に情報を探すためのスキミング/スキミングなどの練習も行います。必要に応じて文法・語法を確認し、演習などを通して知識の定着を図ります。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ダ ー ド ス タ ン 修 道 ス タ ン 科 目	全 学 共 通 科 目 英 語 Ⅳ	英語Ⅲに引き続いて、リーディング(文字インプット)を中心に基本的な英語コミュニケーション能力を身につけます。更に幅広い分野における様々な題材の文章を読み、文章構成や主題文など(メインアイデアを含む)の理解を深めます。必要に応じて文法・語法を確認し、演習などを通して知識の更なる定着を図ります。	
ダ ー ド ス タ ン 修 道 ス タ ン 科 目	全 学 共 通 科 目 日 本 語 Ⅰ	読解の練習を行います。教材は様々な種類の文章を集めたもので、この教材を利用して、語彙・表現の習得、文法的理解、そして内容の把握を目指します。一回につき、1～2の文章を扱います。原則的に毎回、前回の文章にある漢字及びことばの意味についてクイズを行います。 *留学生(正規学生)用科目	
ダ ー ド ス タ ン 修 道 ス タ ン 科 目	全 学 共 通 科 目 日 本 語 Ⅱ	日本語Ⅰに引き続き、読解の練習を行います。教材は様々な種類の文章を集めたもので、この教材を利用して、語彙・表現の習得、文法的理解、そして内容の把握を目指します。一回につき、1～2の文章を扱います。原則的に毎回、前回の文章にある漢字及びことばの意味についてクイズを行います。 *留学生(正規学生)用科目	
ダ ー ド ス タ ン 修 道 ス タ ン 科 目	全 学 共 通 科 目 日 本 語 Ⅲ	発音と聴解の練習を行います。リズム・ポーズ・アクセント・イントネーションなどの練習、また、様々な音変化の練習と聞き取りの練習、また、語彙の構成の練習を行います。 毎回、授業のはじめに、ニュースの聞き取りの練習と、表現と発音の練習を行います。また、毎回の授業内容についてクイズを行います。さらに、基本的に毎回短い文章について暗唱を行います。 *留学生(正規学生)用科目	
ダ ー ド ス タ ン 修 道 ス タ ン 科 目	全 学 共 通 科 目 日 本 語 Ⅳ	文章を書く練習、作文の授業です。だいたい6回作文を課します。教材によって、作文するために必要な表現や、気をつけたい表現をあらかじめ提示します。授業では、文構成に関する間違いや注意点、表現の間違いや類似の表現などをとりあげ、文章を練習し、表現の仕方に熟達することを目指します。また、この学期の間に、希望のテーマで、資料をそろえた論述文を完成することを目標とします。 *留学生(正規学生)用科目	
ダ ー ド ス タ ン 修 道 ス タ ン 科 目	全 学 共 通 科 目 情 報 処 理 基 礎 (文 書 編 集)	文書編集ソフトウェアの基本操作を確認し、さまざまな形式の文書を作成するための技術を学びます。具体的には複雑なレイアウトや図形を利用した文書作成、構造的な文書作成のためのアウトライン編集、また関連する技術について学びます。	
ダ ー ド ス タ ン 修 道 ス タ ン 科 目	全 学 共 通 科 目 情 報 処 理 基 礎 (表 計 算)	表計算ソフトウェアの基本操作を確認し、さらに高度なデータ処理ができる技術を学びます。具体的には関数や集計機能、複雑なグラフの作成について学び、データの加工や編集技術を修得します。	
ダ ー ド ス タ ン 修 道 ス タ ン 科 目	全 学 共 通 科 目 情 報 処 理 基 礎 (プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン)	プレゼンテーションソフトウェアの操作を学習し、効果的なプレゼンテーションのための資料作成、発表技法を学びます。具体的にはスライド資料の編集、アニメーション機能とオブジェクトの利用、また関連する技術について学びます。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部教育学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
ダ 修 道 ド ス タ ン 目	全学 共通 科目	情報処理入門	コンピュータ・ネットワークリテラシー、Wordの基礎、Excelの基礎の3つの要素を組み込むことを基本とし、他の授業で活用できる知識や技能の習得を目指します。Word文書処理技能認定試験2級以上、Excel表計算処理技能認定試験2級以上などの資格取得のための土台を固めることをねらいとします。	
ダ 修 道 ド ス タ ン 目	全学 共通 科目	大学生活とキャリア形成	<p>本講義では、自律的にキャリア形成していく力(思考、経験、態度(人間性))を育てることの意味・意義・位置づけを共有していきます。授業では、キャリア理論を学び、その上で、フィールド(社会人インタビュー)・個人・ペア・チームのワークを実施します。特に、チームビルディングを活用し課題に取り組み、学士課程教育の目標であるディプロマポリシー(思考・行動・態度)及び社会人基礎力を学んでいきます。更に、労働法や雇用環境等キャリア形成に必要な事項と接していきます。習慣化を目的としたホームワークも課題のひとつです。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(29 河口和也・103 山本和史/2回)(共同) オリエンテーション、総括</p> <p>(29 河口和也・211 古田由美・134 生咲菜摘子・103 山本和史/1回)(共同) プレゼンテーション</p> <p>(211 古田由美・103 山本和史/1回)(共同) キャリア理論とキャリア形成</p> <p>(211 古田由美・134 生咲菜摘子・103 山本和史/9回)(共同) 課題基礎力、自己認知、ジェネリックスキル、プレゼンテーションの基本、リテラシースキル コンピテンシースキルを養う、コンピテンシースキルを高める(P-D-C-A)、パワーポイント完成</p> <p>(103 山本和史/1回) キャリアの課題</p> <p>(122 小川孝之・185 西田麻衣・103 山本和史/1回)(共同) 卒業生による講演:先輩から後輩に贈るメッセージ</p>	オムニバス方式・共同(一部)
ダ 修 道 ド ス タ ン 目	全学 共通 科目	地域イノベーション論	<p>地域課題を自ら発見し、着想し、創造性を発揮するイノベーション人材を育成、ひいては広島地域で、イノベーションを起こす素地づくりを目指します。真摯に言葉を聴く力、対話する力、気づく力、かけあわせ進める力を醸成し、社会のロールモデルを生み出す協創的な精神を培います。そのために、課題発見やイノベーション、アイデアプランニングの演習を、初学者にも向く初歩的なプログラムで重ねながら、まだ見ぬものに立ち向かい、まだ見ぬ解決方法を編み出せる知恵の取得を対話によって導きます。</p>	
ダ 修 道 ド ス タ ン 目	全学 共通 科目	地域コミュニケーション論	<p>地域コミュニケーション論は、持続可能なコミュニティの発展に寄与できる人材ならびに地域課題から新しい価値の創造ができる人材の育成を図る「地域イノベーション教育」のひとつです。コミュニケーション力とデザイン力に着目して、地域イノベーションを実現できる立案力やバランス感覚を育みます。観察と情報整理をもとに、地域の人との会話や現地訪問で感じたことを発言やデザインにつなげていき、地域の未来を構想します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ダ ー ド ス タ ン 修 道 学 科 目	全 学 共 通 科 目 ひろしま未来協創プロジェクト (都心のコミュニケーション)	新しく開講するひろしま未来協創プロジェクトは、広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するPBL型の授業です。特に前期の「都市のコミュニケーション」においては、都心固有の地域課題・地域資源に着目し、それらの解決・価値化のための企画手法について演習し、かつ、地域実習においては(広島西区を予定)、具体的なデザインや企画実施を通して、課題発見・価値創造のためのコミュニケーション力を修得できます。地域イノベーションコースの目指す「地域イノベーション人材」としての行動の基礎を身につける授業です。	
ダ ー ド ス タ ン 修 道 学 科 目	全 学 共 通 科 目 ひろしま未来協創プロジェクト (中山間地域のコミュニケーション)	新しく開講するひろしま未来協創プロジェクトは、広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するPBL型の授業です。特に前期の「中山間地域のコミュニケーション」においては、中山間地域固有の地域課題・地域資源に着目し、それらの解決・価値化のための企画手法について演習し、かつ、地域実習においては(廿日市市を予定)、具体的なデザインや企画実施を通して、課題発見・価値創造のためのコミュニケーション力を修得できます。地域イノベーションコースの目指す「地域イノベーション人材」としての行動の基礎を身につける授業です。	
ダ ー ド ス タ ン 修 道 学 科 目	全 学 共 通 科 目 ひろしま未来協創プロジェクト (過疎地域のコミュニケーション)	PBL型授業のひろしま未来協創プロジェクトの前期における「過疎地域のコミュニケーション」の成果をもとに、この後期の「過疎地域のコミュニケーション」においては、具体的なデザインや企画実施を通して、問題解決・価値創造のためのコミュニケーション力を修得できます。前期で発見された過疎地域固有の地域課題や地域資源、それらの解決・価値化のプロセスをふまえ、地域実習を通して(北広島町を予定)過疎地域へ定着させ、イノベーションをおこなすための発信力を兼ね備えた具体的なデザインについての思考を深めていきます。 ただし前期「過疎地域のイノベーション」を履修済みであるかどうかは問いません。	
ダ ー ド ス タ ン 修 道 学 科 目	全 学 共 通 科 目 ひろしま未来協創プロジェクト (過疎地域のイノベーション)	新しく開講するひろしま未来協創プロジェクトは、広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するPBL型の授業です。特に前期の「過疎地域のイノベーション」においては、地域課題・地域資源の発見手法、それらの解決・価値化のための企画手法について演習し、かつ、地域実習においては(北広島町を予定)、地域の人々との対話を通して、課題発見・価値創造のためのコミュニケーション能力の修得を目論みます。地域イノベーションコースの目指す「地域イノベーション人材」としての行動の基礎を身につける授業です。	
ダ ー ド ス タ ン 修 道 学 科 目	全 学 共 通 科 目 ひろしま未来協創プロジェクト (都心のイノベーション)	PBL型授業のひろしま未来協創プロジェクトの前期における「都心のコミュニケーション」の成果を引き継ぐかたちで、この後期の「都心のイノベーション」においては、浮かび上がってきた地域課題・地域資源のコミュニケーションプランを一步推し進め、イノベーションと呼べるような具体的なアクションのデザイン力・実施力を地域にもたらすプロジェクト推進能力の修得を目論みます。地域実習(広島市西区を予定)が重要ですが、前期「都心のコミュニケーション」を履修済みであるかどうかは問いません。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ダ ー ド ス タ ン 修 道 学 科 目	全 学 共 通 科 目 ひろしま未来協創特 講(地域コミュニ ケーションデザイ ン:プログラム)	ひろしま未来協創特講は、持続可能なコミュニティの発展に寄与できる人材ならびに地域課題から新しい価値の創造ができる人材の育成を図る「地域イノベーション教育」のひとつです。 この講義では、地域コミュニケーションを実現するデザイン力について、その一端を具体的に取り上げ、技術や思想を育みます。 今期はデザイン要素の中から「プログラム」のデザインを取り上げ、講義をすすめます。	
ダ ー ド ス タ ン 修 道 学 科 目	全 学 共 通 科 目 ひろしま未来協創特 講(発見・デザイ ン・まちなか)	ひろしま未来協創特講は、持続可能なコミュニティの発展に寄与できる人材ならびに地域課題から新しい価値の創造ができる人材の育成を図る「地域イノベーション教育」のひとつです。 この講義では、特定地域を取り上げ、実際に固有の問題・利点に対峙し、適切にデザインを提案することで、技術や思想を育みます。 今期は「まちなか(横川等)」のエリアを取り上げ、デザインワークをすすめます。	
ダ ー ド ス タ ン 修 道 学 科 目	全 学 共 通 科 目 ひろしま未来協創特 講(プロジェクトマ ネジメント入門)	世の中では、たくさんのプロジェクトが行われ、時には成功し、時には失敗しています。プロジェクトを行う際に、何をどのように考え、管理すると、上手くいく可能性を高められるのでしょうか。 この授業では、PMBOK (Project Management Body of Knowledge) と呼ばれるプロジェクトマネジメントの知識体系を基に、プロジェクト遂行において考えるべき主要なポイントを、講義と演習を通じて学びます。 ※なお、教材や演習の内容については、PMI日本支部の協力を得ています。	
ダ ー ド ス タ ン 修 道 学 科 目	全 学 共 通 科 目 ひろしま未来協創特 講(体験から学ぶ人 間関係づくり)	あなたが新たな地域に足を運び、そこで課題を見つけ、その課題解決に取り組むとき、地域にとってあなたは「ヨソ者」になります。その「ヨソ者」に地域の現状や課題を簡単に話してくれるでしょうか?その地域のことを聞かせていただくには、まずその地域の方々と良い人間関係を構築しなければいけません。また今後、PBL (Project Based Learning) を進めていく際、初めて出会う人たちとグループを形成することになります。そのグループで作業を進める際、お互いの人間関係が良い場合と悪い場合、どちらの方がより良い結果が生み出せるのでしょうか? このように、「地域で学習する」「グループで学習する」ためには、その構成メンバーで良い人間関係を構築することが重要になります。この科目は、実際に簡単なグループワークを行い、そこで生じた現象を元にして、良い人間関係を構築するためには何が必要か、何に留意する必要があるのか、ということについて学習します。世間で「社会人として備えておいて欲しい力」などとして耳にすることがある「コミュニケーション能力」「対人スキル」「協力・協調性」などについて、楽しみながら学べる科目です。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ダ ー ド ス タ ン 修 道 科 目	全学 共 通 科 目 広島学(歴史・産業)	<p>広島で学び生活するみなさんが、広島の歴史、経済、産業、企業、文化などについて広く知識を得ることを目標にします。世界遺産などよく知られた観光スポットだけではなく、とくに日本でもユニークな地元の産業や企業などの歩みを取りあげたり、戦前の広島の歴史を学んだり、広島の伝統や文化を再認識したりして、授業を構成します。授業は各担当教員がそれぞれのテーマで講義します。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(33 川本明人/4回) ガイダンス、講義の目標と学習内容 広島通になる、講義のまとめとしてグループ発表または個人発表</p> <p>(37 坂根嘉弘/2回) 広島の歴史①②</p> <p>(33 川本明人・183 新居敏晴/1回) (共同) 広島の伝統産業</p> <p>(35 金原達夫/4回) 広島の産業と企業①②③④</p> <p>(63 古川裕朗/3回) 広島の文化と芸術①③④</p> <p>(63 古川裕朗・140 楠カトリン/1回) (共同) 広島の文化と芸術②</p>	オムニバス方式・共同(一部)
ダ ー ド ス タ ン 修 道 科 目	全学 共 通 科 目 広島学(広島県の経済構造)	<p>「広島県の経済構造」を中心に授業を行います。授業の概要は以下の通りです。</p> <p>① 広島県の現在の経済の歴史と現状について概説します。</p> <p>② 「広島で働く」ということについて、パソコン(Excel)を用いて実習型授業を行います。</p> <p>③ 広島の産業構造を、センサス・データを用いて把握します。</p> <p>④ 広島県の現在の経済構造を「広島県産業連関表」に基づいて分析し、広島県の経済・産業の特徴を把握します。分析の際にはパソコン(Excel)を用いて広島県の産業連関分析を行います。</p> <p>⑤ 広島県の農林業、自動車産業および造船業について分析を行います。造船業に関して、広島県は、多年にわたり造船王国と呼ばれてきましたが、この王国の形成には呉工廠の技術貢献がありました。第13回授業と大和ミュージアム実地観察においては、呉工廠の象徴といえる「大和」建造の背景、「大和」を生み出した呉工廠の発展過程、造船業をはじめとする多くの産業に対する技術移転について学びます。加えて、</p> <p>⑥ 広島県の経済・芸術・文化・スポーツ等を理解するために、各種の共通観察を行います。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(49 寺本浩昭/3回) 授業の概要と方針および広島の経済の歴史(近代)、広島の経済の歴史(現代)、広島県の産業概観</p> <p>(24 岡村和明/1回) 「広島で働く」ということ</p> <p>(24 岡村和明・187 西手満昭・20 太田耕史郎/1回) (共同) 共通観察(1)(野球観戦)</p> <p>(187 西手満昭/4回) 広島の産業構造、産業連関表とはなにか、レオンチェフ逆行列の作成、感応度係数・影響力係数の算出</p> <p>(20 太田耕史郎/1回) 投入係数表の作成</p> <p>(26 海生直人・187 西手満昭/2回) (共同) 共通観察(2)県立広島美術館・ひろしま美術館・ウッドワン美術館 共通観察(3)サンフレッチェ・広島交響楽団</p> <p>(36 坂口通則/1回) 広島県の産業(農林)</p> <p>(161 千田隆・36 坂口通則/1回) (共同) 造船王国広島の形成に果たした「大和」に象徴される呉海軍工廠の技術</p> <p>(26 海生直人・36 坂口通則・59 廣光清次郎/1回) (共同) 共通観察(4)(大和ミュージアム実地観察)</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ダ 修 道 ス タ ン 目	全 学 共 通 科 目	<p>広島学(広島・ヒロシマで学ぶ、広島・ヒロシマを学ぶ)</p> <p>講義の柱は二つです。 一つは、広島市が世界の大学に設置をすすめる「広島・長崎講座(被爆都市広島、長崎の事実を後世にいかにか伝えていくか)」の中味、いま一つは、「今・ここ」の広島を学ぶことです。広島修道大学が広島市に位置する以上、「ここで、今」学ぶことの意味を学生に体感させることです。 広島修道大学に来る留学生が増えてきている今、また、広島修道大学から海外に出て行く学生が増えている今、世界の国々に、「今・ここ」の広島を伝える中味・その伝え方を模索します。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(72 森島吉美/11回) 「広島学」概要説明、「広島学ー前半の平和問題の概要」、「平和問題とジャーナリズムのあり方」、「戦争と広島」ー現地学習のための事前授業、現地学習I(広島平和記念資料館)現地学習II(江田島海上自衛隊術科学校見学)、現地学習IV(上田宗箇流茶道体験)、福島原発事故のその後、講義のまとめとレポート課題提起</p> <p>(169 田城明/1回) 「広島・長崎講座とは？」</p> <p>(151 斉藤とも子・72 森島吉美/1回) (共同) 原爆小頭症患者の出会いと生きることの意味</p> <p>(15 腮尾尚子・72 森島吉美/2回) (共同) 宮島と町家通り、現地学習III(宮島)</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 ドクター 科目	広島学(ひろしまの 自然環境と景観)	<p>広島県に存する大学の学部として、その立地条件や自然特性を活用した「ひろしま」ならではの特徴ある「広島学」を開設します。この科目の目標は、人間環境学部が独自に設定した「ひろしまの自然環境と景観」というテーマに関して基本的知識を習得し、その概要が説明できる人材を養成することにあります。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(92 松川太一/6回) ガイダンス、〈自然環境〉フィールドワークふりかえり、〈自然環境〉広島湾プロジェクト、〈自然環境〉領域まとめ、〈景観〉景観について考える、〈景観〉領域まとめ</p> <p>(66 三浦浩之/2回) 〈景観〉広島の景観(1)、〈景観〉広島の景観(2)</p> <p>(146 桑原一司/1回) 〈自然環境〉広島の動物</p> <p>(129 金井塚務/1回) 〈自然環境〉西中国山地の生態系</p> <p>(231 山本恵由美/1回) 〈自然環境〉広島の森と人の関わり</p> <p>(129 金井塚務・133 菊間馨・92 松川太一/2回) (共同) 〈自然環境〉宮島フィールドワーク、〈自然環境〉宮島フィールドワーク</p> <p>(154 佐渡泰・92 松川太一/2回) (共同) 〈景観〉竹原フィールドワーク、〈景観〉竹原フィールドワーク</p>	オムニバス方式・共同(一部)
共通 教育科目	教養科目	哲学	近代哲学の展開について学びます。授業では、主要な哲学者の業績を取り上げていきます。例えば、デカルトの「方法序説」と「省察」、ロックの「人間知性論」、カントの「三批判書」などです。学生は単に講義を「聴く」だけではありません。事前にテキストを読みこんでくることが要求されます。授業は、学生がテキストを読み込んでいることを前提として展開されます。
共通 教育科目	教養科目	倫理学	西洋の倫理思想史を概観することを目指します。ただ、すべてを見渡すことは不可能なので、対象を絞って検討します。「講義計画」に示した順序で見に行きます。
共通 教育科目	教養科目	美学	「芸術」「自然」「天才」など、近代美学の基本概念に着目しながら、西洋近代美学がいかなる問題意識に根ざしていたのか、西洋近代美学の根本問題が何であるのかを、ゲーテの『若きウェルテルの悩み』に即しつつ探ります。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	芸術学	<p>(概要) 個々の芸術分野について研究する「美術史」や「音楽学」について学びます。</p> <p>(01クラス 古川 裕朗) 西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしており、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました。本講義ではギリシア・ローマ神話に基づいた美術作品を取り上げ、図像表現上の慣習的な約束事を学びながら、そこで表現されている場面がどのような物語の流れの中にあり、登場人物が誰であるのかなどについて理解を深めていきます。</p> <p>(02クラス 中畝 みのり) 西洋文化史、名曲鑑賞、そして、生演奏を通じてクラシック音楽(中世から現代まで)の変遷を理解し、歴史的背景とその時代の誇る音楽伝統と進化の度合いを探ります。グレゴリオ聖歌と能の謡曲を比較して西洋と東洋の宗教性をみるところから始まり、前期バロックのモンテヴェルディやフランスに帰化したリュリ(イタリア生まれ)、そして、カストラートの出現などは楽しめます。古典派では音楽作品の形式美学をも解明し、ロマン派、近代、現代では音楽芸術家達の業績を読み取ります。貴重なバーンシュタインやデュトワらの映像による演奏解説を披露し、プロフェッショナル演奏家を招いて生演奏も鑑賞します。時折の受講生の理解度を計るワンポイントクイズは、「考える音楽」として効力を示します。</p>	2クラスで運営
共通 教育科目	日本文学	日本文学史上、一部の特権階級だけのものだった文学が初めて一般大衆のものになったのは、江戸時代でした。江戸時代に読者層がこのように劇的变化をとげたのは、この時期に印刷技術が向上し、文学作品が出版(大量生産)されて市場に出たからです。この授業では、中学・高校で学んできた文学史とは違った視点から、文学史を解説します。	
共通 教育科目	西洋文学	<p>ラテンアメリカ(スペイン語圏に限定する)の歴史・社会・文化という背景を学びつつ、この地域の主要な作家たちを紹介します。短編小説や詩、あるいは長編小説の一節などを授業中に読み、その場でミニレポートを書くというアクティビティをできるだけ多く取り入れます。</p> <p>ラテンアメリカといっても、視覚的情報がないとイメージがわからない受講者も多いと思われるので、アルゼンチン出身の革命家チェ・ゲバラの若き日の南米縦断旅行を描いた映画『モーターサイクル・ダイアリーズ』と1973年のチリのクーデターを背景にした映画『マチュカ〜僕らと革命〜』を授業中に鑑賞します(これらについてもミニレポートを提出してもらいます)。</p>	
共通 教育科目	日本語学	<p>授業では、よく知られている国語の常識(五十音図、ローマ字、小さな「つ」)を手がかりとしながら、それらは本当に正しい知識なのか、言語学の観点から見直していきます。比較的やさしい日本語の規則性として、以下のテーマを取りあげ解説します。</p> <p>(1)日本語の音声(音節、拍、特殊拍) (2)日本語の韻律(リズム、アクセント、イントネーション) (3)日本語音声学(母音、半母音、音声記号)</p> <p>毎週の授業は講義と実習を組み合わせ、次の形式で実施します。</p> <p>1. 先週の復習 2. 今週の講義 3. ノートテイキング(実習) 4. まとめテスト</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 科目 心理学	<p>(概要) 人間の心の働きについて学びます。</p> <p>(01クラス 大隅 尚広) 感じること、考えること、思いやることなど、心にはさまざまな側面があり、そのような心の働きに関する科学的アプローチの一つが心理学という学問です。本講義では、心理学のさまざまな研究対象の中から毎回異なるトピックに焦点を当て、心理学の多様性や応用性を学習します。授業内容の確実な理解を促すために、小テストを毎回の授業で行います。</p> <p>(02クラス 獅々見 照) 何が不思議といって宇宙がその内部に意識を持った存在(人間)を有していることほど摩訶不思議なことではないでしょう。そこで、本講義では生物科学の一領域である心理学から人間の心(意識を含む)の問題にアプローチしてみることにします。講義の結果、受講生諸君に少しでも人間の“心理学的な(=生物学的な)見方”が理解されれば、と願っています。講義では「心理学の基礎領域(前半部分)」を主に取り上げて解説します。</p>	2クラスで運営
共通 教育 科目	教養 科目 文化論	<p>(概要) 文化の変容について学びます。</p> <p>(01クラス 森島 吉美) 人権問題を中心に、主にヨーロッパ文化の歴史をめぐる学びます。映画、ドキュメンタリー、文学作品、哲学書、聖書、音楽、絵画とあらゆる教材を駆使して、できるだけ生の事実の臨場感を与えられたらと思っています。講義のねらいは、新しい知識の提供というより、今まで取り入れた知識の点検作業です。頭がパニック状態に陥り、みんなが、「何をどうすればいいんだ」と考え始めることができればこの講義は成功したと言えるのでは?</p> <p>(02クラス 高崎 義幸) グローバル化の進展に伴い、世界のありとあらゆる事象が複雑に絡みあうようになった現代社会において、国家間の境界線の揺らぎや文化アイデンティティの変容が起こっています。こうした社会情勢を背景に文化(商品、ライフスタイル等)の均質化・混濁化・ローカル化が発生しています。本講義では、マクロ・メゾ・ミクロの観点から各分野の文化変容の考察を行います。第一部「文化のグローバル化」では、マクロレベルな観点から文化の変容にアプローチします。第二部「ローカル文化の変容」では、グローバル化が進展しナショナルな境界が薄れる中において、よりいっそう注目されるようになったローカルの文化に焦点を当て、その変容を考察します。事例として広島を神楽を取り上げます。</p>	2クラスで運営
共通 教育 科目	教養 科目 文化人類学	<p>文化人類学は(1)「住み込み型の調査(フィールドワーク)」と、(2)それにもとづいて描かれた「民族誌(エスノグラフィ)」によって支えられています。よって本講義では優れた民族誌の紹介と、講師自らの調査経験を交えながら、文化人類学の概念、方法、視角を習得することをめざします。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 科目	日本史 日本史を古代から近世まで講義します。その時代を特徴づけるテーマを選び、掘り下げることによって、歴史の流れを把握する感覚を養います。 学問は本来面白いものです。なかでも歴史は、熾烈な権力闘争があり、また、ときには血も涙もある人間の汗と涙の物語もあります。とりわけ、自分や家族の住んでいる地域や国のたどってきた過程を尋ねるのは、楽しいことです。「面白くなければ学問ではない」というコンセプトのもとに、歴史を学んでいきます。自分がその場にいたらという臨場感をもって、ふり返って欲しいものです。そうすれば歴史上の人物の思いや行動を実感をもって受け止めることができます。そして、そこから今後われわれはどう生きるべきかという問題を考えるヒントを得ることができます。	
共通 教育 科目	教養 科目	東洋史 この科目では、いまに残る中国の文物や歴史上の人物にスポットをあて、それらを通して中国史を概観してみます。 各時代の文物や人物の生き様には、その時代の特色が濃厚に反映されています。したがって、本科目では、ただ文物や人物だけに注目するのではなく、なぜそのモノが生み出されたのか、なぜその人がそう考え行動したのか、といったことにも関心を払い、それぞれの背景に広がる歴史的世界にも目配りをします。 本科目では、文物などの歴史的遺産を出来るだけ視覚的にも理解してもらうために、画像や写真、映像資料も使いながら授業を進めたいと考えています。	
共通 教育 科目	教養 科目	西洋史 (概要) 近代ヨーロッパの歴史について学びます。 (01クラス 藤田 哲雄) 本講義では、ヨーロッパと言う観念が成立した、中世から講義を始め、ヨーロッパ社会の発展の契機となった近代初期ヨーロッパ社会の歴史を扱います。講義の終わりに、毎回、小テストを実施して受講生の習熟度を測りながら講義を進めます。 (02クラス 河野 淳) 史学史とは歴史学の歴史であり「どのように歴史が書かれてきたか」を問う学問です。本講義では、西洋世界で歴史がどのように認識され、叙述されたか、詳しく見ていきます。「そもそも歴史とは何か」という問いから入り、古代世界の歴史認識、中世から近代にかけてのヨーロッパにおける歴史叙述を見ていきます。最後に歴史学の最新動向についても触れてみたいと思います。	2クラスで運営

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	教養 科目	地理学	地理学は、研究上の方法からまず系統地理学と地誌学に大きく分かれます。本授業は、系統地理学のうち、(人間の諸活動が反映した)地表空間を対象とする人文地理学について理解します。地理学の存在理由は、人口の疎密の違いにみるように、地表面上は決して均等な空間ではなく、諸事象の分布が地域的差異に満ちているという点にあります。系統地理学は、これらの諸事象の地域的差異および法則性について扱うものでありますが、この地表空間の差異はすなわち、まず自然環境を基盤とする人間活動の諸性質によって、さまざまな特徴ある地域形成から構成されています。本授業は、テーマとしてさらに「人文地域の諸形成(諸形態)」と題し、こうした人文地域(人々の活動範囲)の諸特徴について、理解していこうとします。その際、主要な各人文現象の立地・分布に関する規則性・法則性に着目した認識法を基本として、各種地区や日本・世界の事例を利用しながら、授業を進めていくことにします。
共通 教育科目	教養 科目	社会学	社会学とは、人間の営みに対して、徹底的に、恥じらうこともなく、倦むこともなく、強烈な関心を抱くことから始まる学問です。探検家や冒険家の記述が「見知らぬ世界を体験すること」による興奮を提供するのに対して、社会学は「見慣れた日常世界の意味を変容させること」によって知的興奮を提供します。
共通 教育科目	教養 科目	法学	現代社会の法の機能を考察するために、ここではジェンダーという切り口で法現象を検討していきます。たとえば、身近な課題としては、ミスコンテストは違法行為なのか、夫婦別姓制度を導入すべきなのか、といったことです。そうした学習を通して、「法とは何か」という命題を考える一助にしたいと思います。
共通 教育科目	教養 科目	政治学	政治学における基礎的な概念を、具体的な事例や問題に即して講義します。 この講義は、経済学や社会学、法学などの社会科学隣接分野、あるいは政治学の各分野をこれから履修していく上での基礎的科目として位置づけてもらいたいと思います。
共通 教育科目	教養 科目	経済学	ミクロ経済学の基礎的概念(経済学を学ぶ上で必要な用語・考え方など)や、需要と供給、家計・企業の行動、市場のしくみなどの基礎的理論についての解説を中心に講義を進めていきます(図や簡単な数式を用いた経済現象の解説を含む)。 講義の際には、ニュース・トピックスなどの事例も紹介していく予定であるので、日々の出来事(特に経済に関するもの)に関心を払い、メディアやインターネットなどから常に情報を得るようにすることです。
共通 教育科目	教養 科目	統計学	本講義の内容は、理論上の厳密性より応用面でのわかりやすさを求めて展開されたものです。統計データの処理から、統計解析、統計推計、仮説検定までという認識論のプロセスによって、統計学の基本概念、データの作成と整理の統計的扱い方、不確実の現象を把握するための確率分布のパターン、標本と母集団の関係、分析現象の姿を帰納的に推定しようという方法論の解説が本講義の構成となっています。統計学の基本的な内容と枠組みを理解したうえで、これを社会現象と自然現象の認識の基本道具として、意志決定を行う場合に役立てることが、本講義のねらいです。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 科目	情報社会論	この講義は、「情報社会」の未来論ではありません。現実の「情報社会」を解明しようとしています。そういう意味では、情報社会を主体的に生きていくための「マニュアル」になるはずで、情報社会において、どのような問題が発生し、それらの問題をどのように解決するのかを、自ら考え、模索してもらえたらと思います。
共通 教育 科目	教養 科目	物理学	物理学は自然現象を理解するための基礎として重要な学問です。本講義では物理学の分野の中で、力学や熱力学、電磁気学、量子力学、相対性理論の各分野についての基本的な考え方を学びます。力学の分野では速度、加速度の定義やニュートンの運動の法則について学びます。熱力学の分野では、熱と内部エネルギー、理想気体について学びます。電磁気学では電流の性質や電気と磁気の関係について学びます。また、講義の後半では量子力学や相対性理論の概要について学び、最後に物質を構成する素粒子について学びます。
共通 教育 科目	教養 科目	化学	この授業では化学者達が創ってきた物質の世界を概説します。私達の身の回りには人工あるいは天然の化学物質が満ちあふれています。化学とは、原子・分子あるいは化学反応を土台として物質の世界を理解し、新しい物質を創りその働きを見出す学問です。「化学物質=わからないもの・危ないもの」、「化学=暗記科目」、「化学式=難しい」という発想から抜けだし、周囲にあふれる化学情報を理解するための基礎を身につけることを目標とします。
共通 教育 科目	教養 科目	生物学	外界の変化を察知し、的確に行動することは、動物の生存に不可欠です。このため、動物には外界の変化を捉えるための感覚系とこれを中枢に伝え処理する神経系(脳と脊髄)、そして行動を引き起こすための筋肉系(運動)が備わっています。下等な動物では、生まれつき生存に必要な行動プログラムが中枢神経系に備わっており、感覚情報に基づきこのプログラムの中から最適を選択し、筋肉系を動作させて行動に移します。動物が高等になると、生きる過程で獲得した多くの情報(主に経験と学習)は神経系に記憶として蓄えられ、行動プログラムに影響します。本講義では動物行動の背景にある生物学的事項について、 ㊦ 細胞の種類と働き ㊧ 動物が営む生命現象(呼吸、血液循環、消化など) ㊨ 動物が生存するためにとる行動 ㊩ 行動の背景に潜むしくみ ㊪ 中枢神経系の役割 を中心に、最新の研究成果を交えて解説します。
共通 教育 科目	教養 科目	環境科学	環境や環境問題は現代のキーワードです。多様な環境問題のうち、この講義では熱帯林消失と生物多様性減少について現状とその原因を紹介し、さらに問題解決のために、どのような取組が行われているのか解説します。毎時間配布するプリントをもとに、講義を進めていきます。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	教養科目 数学	古代ギリシャ時代にユークリッドが解いた不定方程式からはじめて、18世紀までの初等整数論について述べます。その手法として、代表的な定理を数個挙げて数学の発展について考えていきます。解き方は分かっているけれども、膨大な計算量のある具体的な問題は解くことは困難を伴いますが、この講義では数学の予備知識が多くない文科系学生にも理解できる問題を選択して、その解法を説明していきます。	
共通 教育科目	教養講義(現代の哲学)	哲学という分野には、2000年以上前にプラトンが提出した問いをいまだに論じ続けている、という面があります。これは、2000年程度では人間の基本的なあり方は変わらないという事実を反映しています。その一方で、今を生きる私たちは現代社会の様々な問題に直面してもいます。この講義ではそれらの問題を取り上げ、哲学の観点から考察を加えていきます。講義で紹介する様々な見解を鵜呑みにするのではなく、それらを自分の頭で考え直していただきたいと思っております。	
共通 教育科目	教養講義(西洋の美術)	西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしており、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました。本講義では聖書およびそれに関連する物語に基づいた美術作品を取り上げ、図像表現上の慣習的な約束事を学びながら、そこで表現されている場面がどのような物語の流れの中にあり、登場人物が誰であり、いかなる図像的意味を持つのかなどについて理解を深めていきます。	
共通 教育科目	教養講義(西洋の音楽)	チェコ共和国の首都プラハは、18世紀にヨーロッパのコンセルヴァトワール(音楽院)と呼ばれ、ある時期、その主流に比肩する音楽の天才達が集いました。イギリスのルネサンス期にはチューダー王朝の下にシェイクスピアの演劇は栄え、海外からの文化人達が渡英した頃のバロックは名実ともに揺るぎ無い音楽が定着しました。チェコの宗教改革者フスを称える賛美歌は現代にもおよび、イギリス国教の賛美歌はチェコ同様、近代の作曲家に受け継がれています。それらの作品集を鑑賞し、歌い、比較もしていきます。イタリアと同様に芸術文化人を生んだチェコ、音楽の消費国として世界に貢献したイギリス、ともに歴史背景と文化史を読み取りながら、中世から現代までの音楽の変遷と進化の度合いを名曲鑑賞や実演を通して理解していきます。	
共通 教育科目	教養講義(江戸文学)	江戸時代中期から後期にかけて発達した大衆文学の作品例をあげ、その内容を講読します。	
共通 教育科目	教養講義(ドイツ文学)	「父権制の歴史(女性差別の歴史)」を中心テーマに、ヨーロッパの文学(ギリシャ神話から現代にいたるまで)を見ていきます。具体的文学作品にあたるというよりも、「文学をする営み」の意味、その深層を探っていこうと思っています。具体的に扱う教材は、ギリシャ神話『エレクトラ』、オペラ『サロメ』、ドイツ映画『マリア・ブラウンの結婚』、ドイツ小説『朗読者』(ベルンハルト・シュリンク)、在日韓国人作家李良枝(イ・ヤンジ)他	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	教養講義(西洋文化論)	講義題目でいう文化論(担当:森島)を取っていることが望ましいです。西洋文化論で扱ったヨーロッパの人権獲得の歴史と日本のそれとの比較を行います。ここでもやはり、映画、ドキュメンタリー、文学作品、音楽、絵画その他ありとあらゆる教材を使用します。中心テーマは「ヒロシマ」です。講義のねらいは、この世界が注目する平和都市広島にある大学で、広島人からヒロシマ人へ一歩踏み出すきっかけを見つけることです。 扱う教材は、原一男監督の映画『ゆきゆきて神軍』、ハラルト・ヴァインリッヒ著『<忘却>の文学史』、ドイツ映画『カスパー・ハウザー』、フォルカー・シュレンドルフの映画『ブリキの太鼓』他	
共通 教育科目	教養講義(アジアの文化と社会)	本講義では、視聴覚教材を活用しながら近現代の韓国・朝鮮の社会変動について考察します。とくに第二次世界大戦後から現在までの歴史・社会・文化の変動を日本との関係も交えながら考察していきます。具体的には、韓国および朝鮮半島における約1世紀間の出来事(植民地化、開放と分断国家の成立、朝鮮戦争、軍事独裁政権の成立と経済開発、日韓国交正常化、民主化運動、南北首脳会談など)を中心に振り返りながら、現在、朝鮮半島が抱える問題やいまの韓国・北朝鮮と日本との関係について考えていきます。	
共通 教育科目	教養講義(日本近代史)	明治維新以降の日本の歩みを学びます。別途、政治史中心の日本史_01(前期授業・坂根嘉弘)を開講していますので、経済の部面を中心に学びます。	
共通 教育科目	教養講義(日本近現代史)	日本史を、明治以降現代までの近現代史を中心に講義します。 現代の日本は様々な問題を抱えています。その問題は、歴史のどの時点で出現し、現在の姿に至ったのか、そしてそれは現在に至るまでどのような影響を与えているか、など歴史の流れを重視しつつ検討していきます。 歴史を明らかにするには、歴史史料によらねばならないのは勿論です。しかし、歴史を追体験するには、歴史史料の他、マンガ、ドキュメント、小説・日記、など多様な素材が有効です。これらを手がかりに、当時の実態に迫りながら、そのとき人々はどうかどう行動したかなど、多角的に検討していきます。	
共通 教育科目	教養講義(東洋近世史)	「日本」と「中国」の関係を語る際にしばしば用いられるのが「一衣帯水」という言葉です。この言葉は、一筋の帯のように狭い海によって隔てられているが両者の間は近接している、というほどの意味です。ここでの「海」は、両者の間を区切るものとしてイメージされているとも受け取れますが、実際に日中の関係の歴史を考えてみると、この海を往来した人やモノ、あるいはこの海を抛り所にして活躍した人々の動向を無視することは出来ません。つまり両者の間に広がる海自体が、その周辺に位置する諸地域を巻き込む歴史の舞台であったのです。 本科目では、「日本」と「中国」の関係の歴史について、その間にある海の様相にも着目しつつ取り上げてみたいと思います。なお、時間軸としては、主に9世紀以降19世紀初頭までを対象とします。この時期は、科目名にもある「近世」という時代を考える際にも重要な時期です。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養講義(西欧近代史)	ヨーロッパ社会の発展を歴史的に考察することを通じて、現代社会の成り立ちを考えていきます。高校時代に「世界史」を履修していない学生にとっても、興味のわく講義にしたいと思います。	
共通 教育 科目	教養講義(西洋中近世史)	中近世ヨーロッパの歴史について詳しく見ていきます。本講義では高校世界史に出てくるような事柄にも触れますが、中近世ヨーロッパの人たちが、人間や世界のあり方についてどのような考え方を持っていたのか、ということについても詳しく見ていきます。叙任権闘争後に起きた国家観の変化については特に詳しく論じます。	
共通 教育 科目	教養講義(生活の中の地理学)	前半は、比較的身近なトピックの中から、地理学的な現象をとりあげ解説します。後半は、近年の地理学の新しい潮流の中から、行動地理学、交通、ジェンダーの地理学、人口移動、地理情報システム(GIS)を取り上げ講義します。「地理学」(川瀬担当)では物足りなかった人にもこたえる、やや専門的ですが身近な内容です。	
共通 教育 科目	教養講義(社会学のものの見方と考え方)	社会学は(1)さまざまな方法による社会調査と、(2)それを説明する社会理論によって支えられています。よって本講義では優れた社会学のモノグラフを通じて、社会学の概念、理論、方法、視角などを習得します。具体的に講義で取りあげるのは、暴走族、建築業、性風俗業、ホームレスの人びとなどです。	
共通 教育 科目	教養講義(社会と政治)	政治学で使われる基本的な用語の解説をしながら、政治学の基礎的な考え方を習得します。理論の解説を授業の柱にしますので、日本政治や国際政治の「時事解説だけ」を期待される学生さんには向いていないかもしれません。政治に興味をもってもらえるように講義を準備しますので、政治には興味がない学生さんの履修も歓迎します。政治に興味がないのは、なぜなのかを考えてみましょう。	
共通 教育 科目	教養講義(現代経済学)	マクロ経済学の基礎的概念(経済学を学ぶ上で必要な用語・考え方など)や、GDP、国民所得の決定、投資、財政・金融政策、IS-LM分析、雇用の決定、国際マクロ経済学などの基礎的理論についての解説を中心に講義を進めていきます(図や簡単な数式を用いた経済現象の解説を含みます)。講義の際には、ニュース・トピックスなどの実例も紹介していく予定であるので、日々の出来事(特に経済に関するもの)に関心を払い、メディアやインターネットなどから常に情報を得るようにすることです。	
共通 教育 科目	教養講義(応用統計学)	統計学の研究対象とするものは、自然現象であっても、社会現象であっても、どの分野にも適用できる一般的方法論とみなします。本講義は統計的思考とその応用方法に重点をおいて統計推計の基本内容を説明します。高度情報化社会の進展とともに、統計情報の作成や統計推測は、不可欠な社会認識の手段となっています。本講義の内容は不確実の現象を把握するための連続的確率分布のパターン、統計推計及び仮説検定などの方法論の解説は本講義の構成となっています。これを社会現象と自然現象の認識の基本道具として、意志決定を行う場合に役立てることが、本講義のねらいです。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	教養講義(情報環境論)	「情報とは何か」をテーマに講義を行います。「情報」の創造・利用・伝達に実際に関わっていることを意識しながら講義を聴いてもらいたいです。後半は、情報の技術的な問題が多くあります。これは、自分のマシンを自分で守るにはどうすればいいのかということのヒントを提供しています。また、「情報社会」、「情報環境」を規律する規範を『情報社会の法律』を通して学びます。	
共通 教育科目	教養講義(ヒトの生命科学)	ヒトの身体は、60兆個もの細胞によって構成されています。個々の細胞は細胞外から栄養素や水などを得、生命活動に必要なエネルギーを産生し、またこのエネルギーを利用して生命維持に必要な物質を作り出しています。細胞に栄養素などを届けるため、ヒトには器官系(消化器系、呼吸器系や循環器系など)が備わっています。例えば、食物は口から入り、胃や腸を通過する間に消化されて栄養素や水となり吸収され、血管を通じて身体各部の細胞に運ばれます。エネルギー産生には酸素が不可欠であり、鼻から取り込まれて肺で血液中に入り、身体各部の細胞に運ばれます。また、生命活動によって生じた不要物・老廃物などは肝臓で分解され、血管を通じて腎臓にまで運ばれ、最終的に身体外に排出されます。このような生物の営みは、生命が続く限り止まらないです。本講義では『ヒトの生命維持のしくみ』に焦点を合わせ、 ⑦ エネルギー産生に必要なガス交換(呼吸) ⑧ 物質と熱の運搬(循環) ⑨ 水や物質の身体内への取り込み(消化と吸収) ⑩ 不要物や老廃物の身体外への排出(排泄) について最近の研究成果を交えて解説します。	
共通 教育科目	教養講義(応用数学)	この講義では、集合と写像の概念の応用として、あみだくじの作成・一筆書き問題・四色問題について論じます。また初等整数論の応用として2つの例を紹介します。1つは三山崩しゲームにおける必勝法の解析です。もう1つは公開鍵暗号システムにおいて、その暗号が有効に働くことを証明することです。また数学の別な応用として、線形計画法の概略についても述べます。 これらのテーマには、現代数学の考え方が入っていますが、なるべく易しく解説するつもりです。	
共通 教育科目	総合教養講義a(近現代の哲学)	柘植尚則『イギリスのモラリストたち』(研究社、2009年)を精読することで、イギリスの近現代哲学における人間観・道徳観を学びます。学生は単に講義を「聴く」だけではありません。事前にテキストを精読してくることが要求されます。授業は、学生がテキストを読み込んでいることを前提として展開されます。	
共通 教育科目	総合教養講義a(近現代の美学)	カントの美学は近代美学を代表する思想の一つです。本講義ではカントの美学書である『判断力批判』を読解します。特に「美しいものの分析論」(第1節～第32節)を中心に学びます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(西洋 美術の図像学)	西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしており、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました。本講義では主として旧約聖書を題材にした美術作品、特にシスティーナ礼拝堂内の天井画を取り上げます。受講者は、図像表現上の慣習的な約束事を学びながら、そこで表現されている場面がどのような物語の流れの中にあり、登場人物が誰であり、いかなる図像的意味を持つのかなどについて理解を深めていきます。	
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(浮世 絵)	浮世絵は、海外でも有名な日本の伝統文化の代表格といえますが、その実、浮世絵がどのようにして製作されるかといった基本的なことが意外に日本人の間で理解されていません。特に、広島には浮世絵の常設展示を行っているミュージアムもなく、浮世絵を実際に目にする機会が少ないためか、認識が低いように思われます。この授業では、知っているようで知らない浮世絵の製作工程・技法について解説します。	
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(江戸 時代の化粧・結髪)	日本人の伝統的美意識は、衣食住の様々な局面に表されてきましたが、化粧・結髪の形式も、その一局面です。化粧・結髪は、男女とも時代により階層により色々な形式がみられるが、この授業では、主に浮世絵を資料として用いることにより、江戸時代の町人女性・遊女に的をしぼって解説します。	
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(神仏 と芸能)	世界的にみても、芸能というものは多く信仰に根ざしています。この講義では、わが国の例として、いわゆる「三大伝統芸能」(能・狂言・歌舞伎)以外の、より直接的な招福除災の性格の強い伝統芸能の各種を紹介します。	
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(現代 日本語の特質)	授業では、学校文法として知られている国語の常識を手がかりとしながら、それらは本当に正しい知識なのか、言語学の観点から見直していきます。日本語の規則性を扱う日本語学の中で、比較的むずかしいものを取り上げて解説します。 扱うテーマは、以下の通りです。 (1)日本語の統語(活用、正格活用) (2)日本語形態論(語幹、形態素、異形態) (3)日本語の音声(子音、調音、IPA) (4)日本語音韻論(音素、異音、相補分布)	
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(英語 と日本語)	この授業では、日本語と英語を以下のような観点から比較します。 ・世界の諸言語の中での位置づけ ・歴史 ・音声 ・方言 ・語彙 ・文構造 ・未来の姿	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(こと ばと社会)	ネイチャーライティング(自然・環境に関する文学、芸術・メディア)を通じて、「ことばと社会」について考察します。 特に、日本と英米の文学作品や芸術・メディアの比較を行います。また、「場所の感覚」という視点から様々な文化現象について分析します。	
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(ピアノ 講座)	毎回の授業は、講義と実演とで構成します。 講義では、ピアノ作品を演奏する上で必要となる楽典事項について説明を行い、総合的な音楽的知識の習得を目的とします。 実演では、各々個人のレベルに応じた作品を取り上げ、ピアノ演奏技法の習得を目指し、音楽表現に必要な感覚や感性を育むことを目的とします。	
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(音楽 と合唱)	実技では、主に合唱曲を用いて、自らの演奏のために必要な発声や歌唱法および表現に関する基礎的な技法を習得することを目的とします。 また上記の事柄をより深く理解するために、講義による基本的な音楽理論も学びます。	
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(教育 文化論)	日清戦争が勃発した明治27(1894)年11月、英文の『日本及び日本人』が民友社から刊行されました。戦争のさなかに幾度か版をかさね、日露戦争終結したのち、『代表的日本人』と改題されます。東アジア世界に育った日本は、明治維新後、急激な脱亜の道をつきすすみ、帝国主義国の地位を確立します。『代表的日本人』は、キリスト教に帰依した内村鑑三が「キリスト教徒に優るとも劣らぬ立派な日本人」がいたことを欧米のキリスト教徒にむかって示すために著述したものです。内村は、5人の「代表的日本人」をとりあげ、かれらの生涯を紹介しながら日本的な道徳や倫理の美しさについて語ります。『代表的日本人』は、『茶の本』、『武士道』とともに、日本人が英語で日本の文化・思想を西欧社会に紹介した代表的な著作です。本講義では、『代表的日本人』を講読しながら、それぞれの人物が生きた時代について分析し、自己形成のあり方、価値観などについて検討します。	
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(歴史 と社会)	西洋史では16～18世紀を近世と呼びますが、近世はヨーロッパが周辺世界とかつてないほど深い関わりを持つに至った時代です。近世以降に関して、ヨーロッパからののはたらきかけを抜きに南北アメリカ、アジア、アフリカの変容を理解することはできないが、反対に、周辺世界との関わりを考慮せずにヨーロッパの変容を理解することもできません。本講義では、近世ヨーロッパと周辺世界の関係のなかでも、特にハ布斯ブルク家とオスマン帝国の關係に焦点を絞り、その關係からどのような変化がヨーロッパにもたらされたか、考えていきます。バルカン社会の変容、メディアを用いた世論操作、議会における情報の扱われ方、といったトピックについては特に詳しく見ていきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(現代 日本社会の諸相)	(英文) This course aims to give you a deeper understanding of some aspects of modern Japanese society. One of the themes of the course is minorities, which, in turn, is related to another important theme, human rights and discrimination. I have prepared selected vocabulary lists for each topic and, if you wish, I can give you a mini test every week of a few of those words, which you think may be of use to you. We will also be looking at some key Japanese concepts. In addition I will bring along some popular Japanese music to play to you before the class starts each week. (和訳) 現代日本社会の様々な諸相の理解を深めることを目的とします。ひとつは人権擁護や差別といった重要なテーマに関連するマイノリティについて取り上げます。トピックごとに単語のリストをまとめ、その中から役に立つ語彙があれば、毎回小テストを行います。また、日本人の基本的な考えについても触れていきます。毎回授業に入る前に、日本のポピュラー音楽を題材に取り上げます。	
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(日本 の社会および経済の 文化的基礎)	(英文) This course provides an introduction to Japanese society and culture. Weekly topics will examine the impact of spiritual and belief-related factors on social, economic, and political changes in Japan. The topics will include Japanese spirituality in comparative context, social, political and economic ideas and Japanese culture in international context. Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized economic and social changes and compare them with globally acceptable cultural norms and behaviours. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese unique cultural heritage which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable. The lecture series will cover two main areas: (1) conceptual and phenomenological foundations of modern Japanese societal, cultural and economic order, and (2) the empirical applications and cases (和訳) 日本の社会・文化についての概論を紹介します。毎週トピックで、日本人の精神的・信仰的な内面が日本の社会、経済、政治の変遷にどのように影響を及ぼしているかを考えます。トピックでは、相対的な見方での日本の精神性や、国際的背景から見た社会、政治、経済の考え方や日本の文化に関する事柄を含んでいます。 講義や事例に関する議論を通じて、文化的基礎に裏打ちされた経済的また社会的変遷の評価すべき点を注目し、これらの変遷を世界一般の文化的規範や行動様式と照らし合わせていきます。また、他の国々でも受入れ可能な日本の伝統文化の長所と、国際的に受け入れがたい短所についても議論します。 講義は、次の2つの分野からなります。(1) 近代日本の社会秩序、文化秩序、経済秩序の概念的かつ現象的な成立基盤 (2) 応用実践・ケーススタディ	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(現代 社会と会計)	本講義は、会計とはどういうことを学ぶ学問なのか、また会計が社会の中でどのように利用され、どのような役割を果たしているかについて学習します。学生の就職先をイメージすれば、商学部生のみならず他学部の学生においても、「お金」を扱う企業(組織)への就職が行われるはずですが、お金を扱う組織において必要不可欠なものが「会計」の知識です。したがって、会社における基本的な会計処理の知識を習得するとともに、日本経済新聞等の会計記事を読んで理解できるような知識の習得を目指し、さらに基本的な経営分析までも行える能力を身につけることが目標となります。また、より高度な会計学習内容に関心を抱くための契機を提供できる内容としていきます。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(ベー シック・ファイナ ンス)	企業の資金調達という意味でのファイナンスに焦点を当て、市場で取引されることの意義や諸現象並びに市場の仕組みを学びます。テキストを解説する講義形式で授業を進めます。新聞記事等の解説も行います。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(コー ポレートファイナ ンス入門)	企業の資金調達という意味でのファイナンスに焦点を当て、証券が市場で取引されることの意義や諸現象並びに市場の仕組みを学びます。テキストを解説する講義形式で授業を進めます。新聞記事等の解説も行います。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(働く 人のための経営学)	現代の日本は、働く人の約85%が企業やその他の組織に雇用される、いわゆるサラリーマン社会といわれています。そこで本講義では、まず日本の経営組織で働く人たちの側に立って、従来までの日本的経営の特質、モノづくり、人事・労務管理、日本企業を取り巻く経営環境の変化とその現状など「働く側の経営学」について取り上げ、次に経営学の基礎的諸事項、基本的視座や見方・考え方など「企業経営の基礎知識」を取り上げながら、近い将来、社会に出て「働く人のための経営学」について講義していきます。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(環境 経営入門)	人々に豊かさをもたらしてきた経済活動は、他方で深刻な地球環境問題を引き起こしています。企業にとって環境保護と事業活動の調和が不可欠になっています。そこでこの講義では、企業は、環境問題にどのように取り組んでいるのか、考えていきます。そして、個別の問題の取り組みを取り上げ、環境経営の実際を考えます。講義への積極的な参加を促すとともに、新聞記事を使った課題レポートの作成と発表を行います。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(現代 社会と企業)	今日私たちは、様々な組織や社会集団に所属しています。学校を卒業すると多くの人は企業や官庁といった組織で働き、様々な仕事に従事します。本講義では、組織という社会的装置、そこでの仕事や雇用、さらには組織を取り巻く経済社会の動向について基礎的な知識や洞察を深めます。 *扱うトピックスは、授業の進捗状況などにより変更する場合があります。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(生活 保障論)	私たちの暮らしの中で社会保障と私的な保障および企業の保障の関係をどう捉えるかについて考えます。社会保険は、基本的に、勤労をしている市民の権利としての保険です。アルバイトであろうが学生であろうが、誰かに雇われて仕事をしている限り、いろいろの制約はあっても、この権利は誰にもあります。いわんや、諸君達が卒業して就職したり、老人になったりしたときには、この社会保険は身近な問題として迫ってきます。この講義ではこうした私たちの暮らしを保障する手段としての、①個人保障 ②企業保障 ③社会保障 という保障の3本柱の相互の関係を論じます。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(市民 と行政法)	【1】授業の目標と内容 「行政書士試験にチャレンジしよう」 「行政法を学んで民間企業に就職しよう」 「行政法を学んで公務員試験に合格しよう」 「行政法に強い弁護士・裁判官になろう」。 この授業は、大学4年の在学期間の間に、以上の目標を達成するため、1年生の段階で、どの学部の学生の皆さんも、学んでおくべき基礎的なことから、身に付けることを目標としています。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(家族 と法)	プロポーズをすれば後で気が変わっても必ず結婚しなければならないのでしょうか。結婚すると夫婦それぞれが稼いだお金は誰のものになるのでしょうか。親子の縁を切ることは法律上できるのでしょうか。女性が結婚すれば親の財産を相続する権利を失うのでしょうか。この講義では、結婚や離婚、相続などの家族の問題についての基本的な法律のルールを学びます。日常的な問題を法律に結び付けて考えられるように、授業では具体的な事例を挙げて解説します。また、授業の内容を整理し、理解度を確認するために、授業の後半では課題に取り組む時間を設け、解説します。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(事例 で学ぶ民法)	本講義の目的は、各種資格試験・国家試験等で出題される民法択一式問題をもとにした事例問題の演習および解答・解説を通じて、民法の基礎的な論点(争点)についての理解を深めることです。本講義では、各学部で開講されている民法科目履修の前提となる知識を整理するとともに、やや発展的内容の学習にもとりくみ、また各種試験の択一式問題に対応できる知識・実践的能力を養うことを意図しています。本講義の検討対象は、民法の各分野(主要には財産法)の基本的な諸論点です。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(現代 社会と企業法)	現代社会において企業が法的にどのように位置づけられ、何を期待されているか、そしてどのような問題を内在しているのかについて、現在論じられている最新の法情報にも触れながら解説を行います。内容としては、企業法を中心とする「会社法」の仕組み、不正競争防止法、中小企業の事業承継問題、合併などの組織再編、また会社法との比較において一般社団法人及び一般財団法人に関する法律(一般法人法)と消費生活協同組合法を解説し、さらに企業のCSR活動、NPO法とNPOの活動および社会的企業論を概観します。小テスト(複数回)と期末試験を実施します。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(国際 社会と法)	国際社会は、冷厳な国際政治力学で展開される側面も強いが、国際法をはじめとする国際関係法の機能も重要です。本講義では、できるだけ時事的話題を中心にして講述して、国際法が身近な存在であることを認識してもらうことを目的としています。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(情報 と社会)	「情報社会論」「情報環境論」において取り上げられた個別問題について、各自の立場から探究して、発表します。発表は自分のGmailサイト上で行うものとします。	
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(生命 の化学)	この科目では生命とは何かを考える基礎となる、生命化学と生活に関わる化学を講義し、自然科学への関心を育て基礎知識を習得します。我々の身体を構成する物質がどのようなものであり、複雑な生命体の仕組みを知ることは、生活・産業・環境・医療・食糧・安全にまつわる様々な社会問題を考える基礎として重要です。生命はいわば分子を素材とする機械とも言えますが、機械にはない“何か”を持っています。その“何か”は科学者もはっきりと答えることはできません。尊い生命をはぐくんできた地球環境の大切さを考える土台をつくるために、生命の仕組みの奥深さと不思議さを学習します。	
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(病気 の生物学)	第二次世界大戦終了後、医療技術の発達、栄養の向上、そして衛生環境の改善によって日本では感染症が激減しました。ところが、高度経済成長期に入ると、生活の場には新たな化学物質が溢れ、これらは公害を生み、その後ガンやアレルギー疾患の発生へと繋がっていきました。また、社会構造が変化(高齢化社会)する中で、脳血管疾患や心疾患が表在化し、これらの発生には生活習慣が関係していることが明らかになってきました。近年、家庭環境や労働環境の変化が過度のストレスとなり、これが原因となって生じる精神疾患が増加の一途を辿っています。このような現代社会を健康に暮らすには、自分の健康に関心を持ち且つ管理することは当然であり、このために「身体機能の正常と異常」を知ることは不可欠です。 本講義では、 ㊦ 病気とは(死因と現代生活) ㊧ 生体防御のしくみ(自然免疫と獲得免疫) ㊨ アレルギーとアナフィラキシー(生体の防御過剰) ㊩ 見えない恐怖(ウイルス、細菌、カビの攻撃) ㊪ 心疾患と脳血管障害(高血圧、動脈硬化と糖尿病) ㊫ ガンとの戦い(正常細胞のガン化) ㊬ タバコの手害 などのテーマについて解説し、われわれが健康に生きるための術を授けます。	
共通 教育 科目	教養 科目 総合教養講義a(大気 の環境問題と生態系)	わが国では1980年代の後半から地球環境問題が注目されはじめました。その後20年以上たった現在でも、深刻な影響をおよぼす、未解決の問題としての位置づけはかわっていません。この講義では、地球環境問題のうち、オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨の問題と最近注目されている微小粒子状物質(PM2.5)問題を取り上げます。地球誕生以来生物の進化が大気の形成にどのようにかわり、現代の人間活動が大気環境をどのように変え、上記の四つの問題が生態系にどのような影響を与えているかについて講義します。さらにこれらの地球環境問題の解決のためにどのような試みがなされているかについて紹介します。毎時間配布するプリントをもとに講義を進めます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(生物 多様性保全の環境問 題)	現在、地球上の様々な環境で生物種や品種の多様性が失われ、また個体数が減少しています。このような現象はこれまで生物学者や自然愛好家だけが注目していましたが、近年環境問題の一つとして位置づけられ、その深刻さに対する理解も少しずつ進んできています。この講義では地球上に多様な生物が息することの価値、様々な生態系における生物多様性消失の現状とその問題点、生物多様性保全への取り組みについて解説します。講義は、毎時間配布するプリントをもとに進めて行きます。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(宇宙 と環境科学)	この科目では、生命誕生のサイエンスを宇宙環境の視点から概説し、自然科学への関心を育て基礎知識を習得します。現在、地球上で起こっている様々な問題は、宇宙規模で見れば小さなことかも知れませんが、我々にとっては大きな問題です。これを解決するためには宇宙・地球・生命の歴史を知ることが必要です。生命出現は、宇宙史の最大の出来事です。広大な宇宙において生命が存在するこの地球は最も尊いものでしょう。この科目では、地球の一員としての我々がどこから来たのか、生命と地球環境の尊さと自然の奥深さを講義・討論します。生命は、約40億年前の原始地球上で無生物から出現したと考えられています。この歴史を、地球外生命探査やバイオテクノロジーなどによる最新の成果を取り入れ講義します。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義a(自然 環境と災害)	近い将来、西日本の太平洋沿岸を震源とする南海トラフ巨大地震の発生が危惧されています。2011年3月の大震災では、地震や津波の知識が十分に理解されていなかったことが、人的被害を増大させた一因だと考えられています。自然環境や災害に関して正しい科学的知識は時には命を守ったり、被害を軽減することに役立ちます。また、地球温暖化やオゾン層の破壊など、自然環境に関しても同じことが言えます。高校で地学を履修しなかった学生にも理解できるように、地震災害を中心に自然災害と自然環境に関わる諸問題を分かりやすく解説します。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義b(芸術 文化学)	本講義ではドイツを中心としたドイツ語圏の映画芸術について学びます。特に近年の中心テーマ「移民」「ナチス」「東西統一」を扱った21世紀のドイツ映画を取り上げ、それぞれの作品が時代の社会状況といかに照応しているかに関して理解を深めます。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義b(江戸 時代の服飾)	日本の伝統的美意識は、衣食住のさまざまな局面に表されてきましたが、外出着の文様・形式も、その代表的な局面の一つです。外出着の文様・形式は、男女とも時代・階層によって色々なものがみられますが、本講義では、主として浮世絵を資料として用いることにより、江戸時代の町人女性・芸者・遊女の服飾に的を絞って解説します。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義b(和 紙)	和紙は現在、書や絵画に用いられるだけでなく、その独特な風合いを生かしてインテリア・服飾品の材料としても注目されていますが、和紙の広範な活用は今に始まったことではありません。この授業では、古来、日本人が和紙を情報記録媒体としてそのまま利用するだけでなく、様々な加工をほどこして衣料・調度品の材料としてきたことについて、解説します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義b(マス コミ論)	インターネット時代の到来で新聞など伝統的メディアだけでなく、テレビなど既存の映像メディアも生き残りのための変容を激しく迫られています。その中でマスコミ全般が世論の厳しい批判にさらされています。現代社会におけるマスコミの機能と役割、問題点と課題、および将来的な可能性について具体的な事例を取り上げながら検証し、報道の在り方とマスコミが進むべき道を考えます。考察の対象は主としてわが国のマスコミとしますが、比較論の対象として世界のマスコミの事例も取り上げます。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義b(社会 保障論)	社会保障の対象領域、基本構造、原理などを学び、その後に各領域の現行制度について講義します。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義b(労働 問題と法)	労働法のポイントとなる項目について、裁判例や実務上の問題点を素材として現実の労働問題と労働法とのかかわりを説明します。近年、労働法の分野では法改正が続いています。それらの動向もできる限り、授業内容に反映させます。授業は、各回の項目について、裁判例や実務上の問題点を取り上げて説明します。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義b(国際 理解)	テキスト『国際社会を学ぶ』を素材に、国際社会を分析するための多様なアプローチの仕方を理解します。アイデンティティ、地球文化、人類益がキーワードとなります。各章には具体的な問いが設定されているので、その問いに基づいてテキストを読み解きます。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養講義b(生命 情報論)	5億3千年程前、生物に眼が現れ、外界の光環境の変化を感知することが可能となりました。その後、眼には光感度の調節、波長弁別、そして動きの感知などの高度な視覚機能が加わり現在に至っています。眼の獲得によって、接触、臭い(あるいは匂い)そして物音などに頼っていた生活に『見る』という感覚が加わり、周囲を探索する能力が格段に向上したため、生物の行動範囲は相当広がったに違いありません。ヒトでは、生活に必要な情報の約80%を視覚から得ているといわれています。昨今のマルチメディア技術の発達とこれを媒体とした情報伝達の現状に鑑みると、他の感覚器に比べ視覚への依存度が高いことは肯けます。本講義では、眼球内に入った光がどのような生体内プロセスを経て『見る』という感覚を生むのかを、 ㊦ 光の性質 ㊧ 眼の構造と機能 ㊨ 眼から脳への視覚情報伝達 ㊩ 脳での視覚情報処理 の順序で、最新の研究成果を交えて解説します。	
共通 教育科目	教養科目 総合教養コース (世界の言語と文化)	元来、人間と言語、そして言語と文化は切っても切れない関係にあり、そのつながりを理解することは、人間と異文化理解に大いに役立つものと考えられます。講義は、東から西の方(アジア言語圏からヨーロッパ言語圏)の順に進みます。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部教育学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	教養 科目	総合教養コース(情報化社会と人間)	タイピング練習, Windopwsの操作の修得, ワードプロソフトWord, 製本エディタTexの修得, HTMLの修得, ホームページの作成を行います。	
共通 教育 科目	外国 語科目 英語 科目	英語文書表現 I	<p>(概要) 基本的文法、文型、表現、語彙、イディオムを駆使して、文字での自己表現力の養成を目指します。</p> <p>(71クラス J. D. Herbert)</p> <p>(英文) The aim of this class is for students to improve their English written expression. In order to do so, we will carry out exercises in all four skills with an emphasis on vocabulary development and clearly-structured writing.</p> <p>(和訳) 英作文の表現を向上させることを目的とします。そのためには、単語力の強化を図り、明快な文章での作文に重点を置き、4つの技能を実習します。</p> <p>(72クラス 高橋 豊子)</p> <p>簡単なセンテンスを書くことから始め、ある程度まとまった内容をもつ文章を作成できる力をつけることを目標とします。Eメールやレターなど、実生活で必要とされる機会の多い文書の基本的な書き方も学んでいきます。</p> <p>パソコンを使った文書作成を行います。</p> <p>(73クラス P.E. Jensen)</p> <p>(英文) Part one of an introduction to writing paragraphs in English</p> <p>(和訳) 英語パラグラフの作成入門のパート1です。</p>	3クラスで運営
共通 教育 科目	外国 語科目 英語 科目	英語文書表現 II	<p>(概要) 英語文書表現 I に引き続いて、基本的文法、文型、表現、語彙、イディオムを駆使して、文字での自己表現力のさらなる養成を目指します。</p> <p>(71クラス J. D. Herbert)</p> <p>(英文) The aim of this course is for students to further improve their English written expression. In order to do so, we will carry out exercises in all four skills with an emphasis on vocabulary development and clearly-structured writing.</p> <p>(和訳) 英作文の表現を向上させることを目的とします。そのためには、単語力の強化を図り、明快な文章での作文に重点を置き、4つの技能を実習します。</p> <p>(72クラス 高橋 豊子)</p> <p>簡単なセンテンスから始めて、エッセイ(小論文)・ビジネスレポートなど、ある程度まとまった内容をもつ文章を作成できる力をつけることを目標とします。Eメール、レター、履歴書など、実生活で必要とされる文書の基本的な書き方も学んでいきます。</p> <p>パソコンを使った文書作成を行います。</p> <p>(73クラス P.E. Jensen)</p> <p>(英文) Part two of an introduction to writing paragraphs in English</p> <p>(和訳) 英語パラグラフの作成入門のパート2です。</p>	3クラスで運営

授 業 科 目 の 概 要 (人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	外国語科目 英語科目	<p>(英文) This course aims to give learners the opportunity to explore and practise a variety of English writing styles, and increase awareness of different written genres. Peer feedback, vocabulary development and error correction activities will also feature prominently in the course.</p> <p>(和訳) 様々なスタイルの英作文を見つけ、違った種類の作文がある事の理解を進めることを目的とします。学習者の意見、語彙の向上、間違いの訂正もまたこのコースの際立った特色となっています。</p>	
共通 教育科目	外国語科目 英語科目	<p>(英文) The goal of the class this semester is to expand writing skills for different types of English paragraphs then expanding to essays. Attention will be given to written grammar and format.</p> <p>(和訳) エッセイにつながるように英文パラグラフの様々な形態についてライティング技能の幅を広げるようにします。文法や構成に対する注意が払われることにもつながります。</p>	
共通 教育科目	外国語科目 英語科目	<p>(概要) 英語の発音、リズム、抑揚に耳を慣らし、まとまった英文を聞きとる能力の養成を目指します。 (71クラス 今石 正人) パラグラフごとにポイントをつかんでいく速読と、やさしい英文を大量に読む多読を組み合わせて読解力と語彙力の養成を目指します。</p> <p>(72クラス 竹内 孝美) (英文) This course helps you develop your reading skill by working on specific reading skills such as scanning, skimming, making inferences, and making predictions. You will enjoy interesting passages of each unit of the textbook, and many reading activities provided during the class. Basic grammar will be covered in this course as well. You will be given quizzes of several units of the reference book, "Basic Grammar in use." (和訳) スキャニング、スキミング、推理し予測するなど特別な読解方法を学習することによりリーディング能力の向上を計ります。テキストのユニットの中の興味のある内容、授業での多読による読解を楽しめるようになっています。基本文法も当然に講義中に扱うこととなっています。またクイズや基本文法といった参考文献を用いています。</p> <p>(73クラス 熊谷 次絨) 本年度は今日的なトピックを扱ったテキストを使用します。比較的平易な英語を、正確に早く読んでいきます。幅広い総合的な英語読解力アップをめざす皆さんにとって大変好適です。インターネットから本文に関係する興味深い英語資料を多数蒐集して配布します。 語彙力の強化がこの授業の一つの重要な目的です。毎回「語彙と表現」のプリントを配布します。各自で調べてもらいます。</p> <p>(74クラス 住田 光子) 英語読解力の向上を目的とし、アメリカ映画『ブレイス・ビヨンド・ザ・パインズ / 宿命』(2012)の脚本(草稿段階における脚本)を通して、辞書を活用して語彙を増やし、ストーリーを読み取るための演習を行います。アメリカの街を転々とする、移動遊園地のバイク・ライダーとして気ままな暮らしを送っていた若者ルークは、ある日、かつて愛した人の子どもの父親が自分である事実を知ります。ルークとその息子ジェイソンの二代に渡る人間の生涯を描いたサスペンス映画です。授業では、各受講者に発表させ、精読と多読というふたつの演習形式で、テキストを読み進めてゆきます。多読では、一定量の英文を読み、読み取った内容を正確に伝えることを学びます。授業を通して、アメリカ人の会話におけるフレーズを学び、さらには、銃の存在する社会で多発する犯罪、多民族社会における親子の絆を考えることで、映画スクリプトとその映像表象の理解に役立てたいです。</p>	4クラスで運営

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目 英語科目	<p>(概要) 英語読解Iに引き続き、英語の発音、リズム、抑揚に耳を慣らし、まとまった英文を聞きとる能力の養成を目指します。</p> <p>(71クラス 今石 正人) パラグラフごとにポイントをつかんでいく速読と、やさしい英文を大量に読む多読を組み合わせて読解力と語彙力の養成を目指します。</p> <p>(72クラス 竹内 孝美) (英文) This course helps you improve your English skills by fun reading in simple and natural English. You will read a wide variety of topics, including movies, music, sports, food, travel and more. Many reading activities and exercises for vocabulary and comprehension will be provided during the class. You will be also given quizzes of several units of the reference book, "Basic Grammar in use." (和訳) 単純で自然な英語を楽しく読むことで英語力の向上を図ります。映画、音楽、食べ物、旅行など様々な内容を取り上げます。授業中は、語彙力・理解力向上のため、多読や練習問題を行います。 また、参考書の"Basic Grammar in use"のユニットからクイズを行います。</p> <p>(73クラス 熊谷 次統) レベル2の授業ですが、レベル3の人も受講できます。 前期科目「英語読解I」を発展させて、今日的トピックを扱った比較的平易な英語を、正確に早く読んでいきます。前期よりもやや難度が高くなります。幅広い総合的な英語読解力アップをめざす皆さんに大変最適なクラスです。前期と同様、インターネットから本文に関係する興味深い英語資料を蒐集して配布することがあります。 前期同様、語彙力強化を目的として毎回「語彙と表現」のプリントを配布します。各自辞典を使って調べます。</p> <p>(74クラス 住田 光子) 英語読解力の向上を目的とし、アメリカ映画『ブレイス・ビヨンド・ザ・パインズ / 宿命』(2012)の脚本(草稿段階における脚本)を通して、辞書を活用して語彙を増やし、ストーリーを読み取るための演習を行います。アメリカの街を転々とする、移動遊園地のバイク・ライダーとして気ままな暮らしを送っていた若者ルークは、ある日、かつて愛した人の子どもの父親が自分である事実を知ります。ルークとその息子ジェイソンの二代に渡る人間の生涯を描いたサスペンス映画です。授業では、各受講者に発表させ、精読と多読というふたつの演習形式で、テキストを読み進めていきます。多読では、一定量の英文を読み、読み取った内容を正確に伝えることを学びます。授業を通して、アメリカ人の会話におけるフレーズを学び、さらには、銃の存在する社会で多発する犯罪、多民族社会における親子の絆を考えることで、映画スクリプトとその映像表象の理解に役立てたいです。</p>	4クラスで運営
共通教育科目	外国語科目 英語科目	<p>レベル3の学生のためのクラスで、精読と多読の組み合わせで構成されます。精読では文法事項を確認しながらテキストを読解していきます。ただ日本語に全訳して理解することよりもパラグラフごとにポイントをつかみ、できるだけ速く読むことを目指します。毎回テキストに基づいた小テスト(語彙、訳、ディクテーション)を行います。多読はGraded Readersを使いながら、やさしい読み物を多量に読むことで英語を英語のまま理解する読解力を養成し、1学期に10万語以上読むことを目標にします。</p>	
共通教育科目	外国語科目 英語科目	<p>英語読解IIIの発展クラスで、精読と多読の組み合わせで構成されます。精読では文法事項を確認しながらテキストを読解していきます。ただ日本語に全訳して理解することよりもパラグラフごとにポイントをつかみ、できるだけ速く読むことを目指します。毎回テキストに基づいた小テスト(語彙、訳、ディクテーション)を行います。多読はGraded Readersを使いながら、やさしい読み物を多量に読むことで英語を英語のまま理解する読解力を養成し、1学期に10万語以上読むことを目標にします。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部教育学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	外国 語 科 目 英 語 科 目	英語聴解Ⅰ	<p>(概要) 英語の発音、リズム、抑揚に耳を慣らし、まとまった英文を聞き取る能力の養成を目指します。</p> <p>(71クラス 吉川 史子) 英語のポップスやロックを題材にしたテキストを用いて、英語のリズムやストレス、音の同化に関して理解を深め、それをもとに英語を聞き取る力を伸ばす訓練をします。また、実際に英語で歌を歌ったり、早口言葉を練習することで、英語のリズム感を体得します。</p> <p>(72クラス 辰己 明子) イギリスを題材にしたテキストを用いて、異文化理解に対する理解を深め、リスニング力を養うことを目指します。</p> <p>(73クラス 岡田 あずさ) 映画を通して、英語の会話表現や音声を味わいながらコミュニケーションの手段としての英語習得を目指します。また、身の回りのできごとを分かりやすい英語で表現するための練習を行います。</p>	3クラスで運営
		英語聴解Ⅱ	<p>(概要) 英語の発音、リズム、抑揚に耳を慣らし、まとまった英文を聞きとる能力の養成を目指します。</p> <p>(71クラス 吉川 史子) 英語のポップスやロックを題材にしたテキストを用いて、英語のリズムやストレス、音の連結に関して理解を深め、それをもとに英語を聞き取る力を伸ばす訓練をします。また、実際に英語で歌を歌ったり、早口言葉を練習することで、英語のリズム感を体得します。</p> <p>(72クラス 辰己 明子) 映画を題材にしたテキストを用いて、会話で使われる表現を学び、リスニング力を養うことを目指します。</p> <p>(73クラス 岡田 あずさ) 映画を通して、英語の会話表現や音声を味わいながらコミュニケーションの手段としての英語習得を目指します。また、身の回りのできごとを分かりやすい英語で表現するための練習を行います。</p>	3クラスで運営
共通 教育 科目	外国 語 科 目 英 語 科 目			

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	英語 科目	英語 科目	英語 科目
	英語聴解Ⅲ	<p>(英文) In order to have a successful conversation in a foreign language, not only do you need to be able to express your thoughts in that language but you also need to understand what the other person says to you. If your listening ability is not good, it will be difficult to have a successful conversation. That is common sense. So the activities for this class will be as follows:</p> <p>(1) Weekly listening activity. I will bring in a variety of different materials on DVD & CD. You will be able to hear the different accents of North American, British, Australian as well as non-native English speakers.</p> <p>(2) Weekly mini tests. It is very important for all of you to continue to learn new vocabulary and expressions as well as to review grammar. The mini test will also act as listening practice since I will ask a question by describing the situation in which you might use a particular expression. In order to answer my question, you will have to listen carefully to my description.</p> <p>(3) Weekly pop song. I will distribute the lyrics of a song, which you will listen to and write in the missing words. I hope you will enjoy this.</p> <p>(和訳) 外国語での会話を成立させるためには、単に自分の考えを表現するだけでなく、相手が何を言っているかを理解する必要があります。リスニング能力が十分でないと会話がうまく成立しないこととなります。そのため授業は以下の内容を行います。</p> <p>(1) リスニングの練習：毎週様々なDVDやCDを用います。北米、英国、豪州の英語をはじめ、英語を母国語としない人々の英語を聴きます。</p> <p>(2) 小テストの実施：文法の復習同様、新しい単語や表現を学び続けることはとても重要です。小テストはリスニングの練習には効果的なものとなっています。というのは小テストは特別な表現を要する場面での質問になっているからです。正確に答えられるよう、場面説明に注意して聴かなければいけません。</p> <p>(3) ポピュラー音楽：毎週歌詞の聞き取りを行い、配布した歌詞の空欄を埋める作業を行います。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	外国 語科 目 英語 科目	<p>英語聴解Ⅳ</p> <p>(英文) In order to have a successful conversation in a foreign language, not only do you need to be able to express your thoughts in that language but you also need to understand what the other person says to you. If your listening ability is not good, it will be difficult to have a successful conversation. That is common sense. So the activities for this class will be as follows:</p> <p>(1) Weekly listening activity. I will bring in a variety of different materials on DVD & CD. You will be able to hear the different accents of North American, British, Australian as well as non-native English speakers.</p> <p>(2) Weekly mini tests. It is very important for all of you to continue to learn new vocabulary and expressions as well as to review grammar. The mini test will also act as listening practice since I will ask a question by describing the situation in which you might use a particular expression. In order to answer my question, you will have to listen carefully to my description.</p> <p>(3) Weekly pop song. I will distribute the lyrics of a song, which you will listen to and write in the missing words. I hope you will enjoy this.</p> <p>(和訳) 外国語での会話を成立させるためには、単に自分の考えを表現するだけでなく、相手が何を言っているかを理解する必要があります。リスニング能力が十分でないと会話がうまく成立しないこととなります。そのため授業は以下の内容を行います。</p> <p>(1) リスニングの練習：毎週様々なDVDやCDを用います。北米、英国、豪州の英語をはじめ、英語を母国語としない人々の英語を聴きます。</p> <p>(2) 小テストの実施：文法の復習同様、新しい単語や表現を学び続けることはとても重要です。小テストはリスニングの練習には効果的なものとなっています。というのは小テストは特別な表現を要する場面での質問になっているからです。正確に答えられるよう、場面説明に注意して聴かなければいけません。</p> <p>(3) ポピュラー音楽：毎週歌詞の聞き取りを行い、配布した歌詞の空欄を埋める作業を行います。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	外国 語 科 目 英 語 科 目	<p>(概要) 様々な日常会話の場面を想定し、定型的・慣用的な表現が自由に使えるよう、スピーキング及びリスニング能力の修得を目指します。</p> <p>(71クラス T.B. Curtis) (英文) In this course, you will practice speaking in a variety of situations that you will likely encounter in the future. At the same time, we will study various strategies to assist you when speaking English. (和訳) 将来起こりうる様々な場面に対応したスピーキングを練習します。同時に英語で話す際の手助けになる様々な方法について学習します。</p> <p>(72クラス Ariel Sorensen) (英文) In this class we will focus on developing communication skills in a variety of situations. We will engage in conversation activities to boost confidence in using English. We will also focus on vocabulary building. (和訳) 様々な場面でのコミュニケーション能力の向上に焦点を置き、英語を使う自信をつけさせるよう、会話練習を中心に授業を行います。又、語彙の組み立てにも力を入れます。</p> <p>(73クラス D.B. Fowler) (英文) Improving listening skills using clips from NHK BS news programs. (和訳) NHK BSを題材にリスニング能力の向上を図ります。</p>	3クラスで運営
		<p>(概要) 英語コミュニケーションIに引き続いて、様々な日常会話の場面を想定し、定型的・慣用的な表現が自由に使えるよう、スピーキング及びリスニング能力の一層の修得を目指します。</p> <p>(71クラス T.B. Curtis) (英文) In this course, you will practice having basic, short conversations in English, and learn some strategies for having good conversations. (和訳) 基本的な、短い会話を練習し、適切な会話ができる方法を学びます。</p> <p>(72クラス Ariel Sorensen) (英文) This class builds on skills developed in class "English Communication I". In this class we will focus on developing communication skills in a variety of situations. We will engage in conversation activities to boost confidence in using English and increase grammar skills. (和訳) この授業は英語コミュニケーションIを発展させたものとなっています。特にさまざまなシチュエーションでのコミュニケーション能力の向上に焦点をあてています。英語を使う自信をつけさせ、文法のスキルアップにつながる会話の訓練を行うこととしています。</p> <p>(73クラス D.B. Fowler) (英文) To improve listening skills by listening to interviews conducted by native speakers and then employing the language learned in conversations with classmates. (和訳) ネーティブスピーカーによるインタビューや、クラスメート同士の会話から学ぶことで、リスニング能力の向上を図ります。</p>	3クラスで運営
共通 教育 科目	外国 語 科 目 英 語 科 目		

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	外国 語科 目 英語 科目	<p>(概要) 調査、インタビュー、ロールプレイなどを通じて、英語で意見を述べる力を高めます。主にネイティブ教員が担当します。</p> <p>(71クラス J.L. Nolin) (英文) This course helps learners to explain Japanese lifestyle and culture. The speaking activities support the development of fluency and communicative competence. (和訳) 日本のライフスタイルとカルチャーについて説明ができるようにします。話す訓練を行うことで流暢さやコミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>(72クラス C.J.A. Lister) (英文) The aim of this course is for you all to be able to (a) gain confidence in speaking English and (b) improve your listening skills. To begin with we will be covering everyday English, the English used in travel and common idioms. There will be activities such as games, pair work, video activities and asking and answering questions. To help you to improve your listening, every week I will be distributing the lyrics of a song and you will have to fill in the missing words as you listen to the music. I hope you will enjoy this. (和訳) この授業は、(a) 英語で話す自信を持ってもらうこと、(b) リスニング能力の向上を目的としています。最初に日常英語、旅行英語、日常で使用するイディオムを取扱います。ゲーム、ペアワーク、ビデオ学習や質疑応答といった授業内容を行います。リスニングの向上を図るため、毎週歌詞の聞き取りを行い、配布した歌詞の空欄を埋める作業を行います。</p>	2クラスで運営
		<p>(概要) 英語コミュニケーションⅢに引き続いて、調査、インタビュー、ロールプレイなどを通じて、英語で意見を述べる力をさらに高めます。主にネイティブ教員が担当します。</p> <p>(71クラス J.L. Nolin) (英文) This course develops basic English conversation and communication skills. The four themes of the course are (i) creative thinking puzzles, which will give extensive practise in basic 'yes/no' questions, (ii) short 'speed' questions, aimed at developing automaticity in speech, (iii) questions for communication, which focus on fluency and conversational skills, and (iv) 'Wh-' quiz questions, which focus on developing the skill of asking questions for information. (和訳) この授業は、基本的な会話やコミュニケーション能力の一層の上達を目的としたものです。授業は4つのテーマから構成されています。(i)パズルゲーム：簡単なyes/noの質問による広範囲な練習を行います。(ii)短く迅速な質問：スピーチが自然に出てくるように訓練します。(iii) コミュニケーションのための質問：流暢さと会話能力の向上に焦点を置きます。(iv) Whクイズ：情報収集するために質問するスキルの向上に焦点をあてます。</p> <p>(72クラス C.J.A. Lister) (英文) The aim of this course is for you all to be able to (a) gain confidence in speaking English and (b) improve your listening skills. We will be covering everyday English, the English used in travel and common idioms. There will be activities such as games, pair work, video activities and asking and answering questions. To help you to improve your listening, every week I will be distributing the lyrics of a song and you will have to fill in the missing words as you listen to the music. I hope you will enjoy this. (和訳) この授業は、(a) 英語で話す自信を持ってもらうこと (b) リスニング能力の一層の向上を目的としています。最初に日常英語、旅行英語、日常で使用するイディオムを取扱います。ゲーム、ペアワーク、ビデオ学習や質疑応答といった授業内容を行います。リスニングの向上を図るため、毎週歌詞の聞き取りを行い、配布した歌詞の空欄を埋める作業を行います。</p>	2クラスで運営

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	外国 語科 目 英 語 科 目	英語語法研究Ⅰ (概要) 英語の語法・文法についての具体的で広く深い知識の養成を目指します。 (71クラス 吉川 史子) 高等学校までに学んだ英文法、語法を復習します。単に復習するだけでなく、各文法事項を実際の英文の読解、英作文にどのように役立てることができるのか実感できるまでとことん勉強することを目標とします。 (72クラス 高橋 豊子) 中学以来習ってきた英語の基本文法事項を整理し直し、どのような場合にどのような表現をしたらよいかを知り、文法知識を使えるものにするのを目標とします。授業の初めに基礎的な説明をし、その後、エクササイズにより理解を確認しながら進みます。Eメール、日記、レターなど、実生活に即した文書の書き方も学びます。	2クラスで運営
		英語語法研究Ⅱ (概要) 英語語法研究Ⅰに引き続き、英語の語法・文法についての具体的で広く深い知識の養成を目指します。 (71クラス 吉川 史子) 前期とは異なるトピックで高等学校までに学んだ英文法、語法を復習します。後期はより細かな文法事項を取り上げますが、各文法事項を実際の英文の読解、英作文にどのように役立てることができるのか実感できるまでとことん勉強することを目標とします。 (72クラス 高橋 豊子) 中学以来習ってきた英語の基本文法事項を整理し直し、どのような場合にどのような表現をしたらよいかを知り、文法知識を使えるものにするのを目標とします。授業の初めに各文法項目の基本を説明とエクササイズで確認し、それが実際の英語表現(著名人の言葉、ニュース記事、詩など)の中に具体的にどのように活かされているかを考えます。そのうえで、さらに詳しい使い方の練習をします。Eメール、日記、レターなど、実生活に即した文書の作成も行います。	2クラスで運営
共通 教育 科目	外国 語科 目 英 語 科 目	英語語法研究Ⅲ (概要) 英語の語法・文法のより細かな事項を修得し、その知識を応用する力を養成する上級クラスです。 テキストをまとまりのあるものにするための文法的もしくは語彙的結束装置 (grammatical/lexical cohesive device) について、具体的にテキストを分析しながら学んでいきます。英語で書かれた教科書を用いて、文法・語法に関する専門用語を英語で学び、英語で書かれた文法書も臆せず利用できるような訓練をします。	
共通 教育 科目	外国 語科 目 英 語 科 目	英語語法研究Ⅳ (概要) 英語Ⅲに引き続き、英語の語法・文法のより細かな事項を修得し、その知識を応用する力を養成する上級クラスです。 類義語の語源の違いに基づくニュアンスの違いや、話者の心的態度(法; mood)を表すいくつかの手段などについて学び、現代の英文法・語法をより総合的かつ俯瞰的に考えられるようにすることを目標とします。そのため、現代の英文法・語法に至るまでの英語の歴史的な変化についても学びます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目 英語科目	<p>資格英語Ⅰ</p> <p>(概要) TOEFL、英検、TOEICなどの資格試験を視野に入れて、聴解、口頭表現、読解、英語構文理解などの発展的な能力の養成を目指します。</p> <p>(71クラス 村川 康二郎) この授業では全体的な英語力の改善に取り組みます。ここでいう英語力とは特に、語彙、文法、読解、そして聴解における知識・技能のことを言います。それぞれの分野における知識・技能を磨くことで、全体としての英語力の向上を目指し、その結果TOEIC、TOEFL、そして英検等のテストで一定の水準を満たすことができるようになることを目指します。</p> <p>(72クラス 水野 由美) TOEIC対策となりうるリスニング、リーディング教材を用い、ビジネス英語の語彙や表現を学ぶこと、ビジネス英語の運用能力を高めることを目標とします。とりわけ語彙力の強化を図ります。 リスニング問題には、必要に応じて、ディクテーションを加え、内容がわかるように配慮していきたいと考えています。また、リーディング問題は、どこが問題なのか、どこを読めばポイントがわかるのかなどがはっきり理解できるように、説明を加えながら進めていきたいと思っています。文法の難しいものに関しては、プリントなどで更に強化していきます。語彙力を高める為の小テストも行います。</p> <p>(73クラス 大西 玲江) 資格として国際的に通用する英語力を養うことが、目標です。様々な国際資格英語テストの中でも、特に需要と普及度の高さという観点から、TOEICテストを取り上げ、その対策を通じて、総合的な英語運用能力の向上を図ります。具体的な学習として、TOEIC予想問題の演習、又、適時、テープやビデオ教材を使用してのリスニング強化、授業中の音読練習、必要に応じて配布する関連教材を用いての文法説明、等を盛り込み、テキストを中心に進めていきます。</p> <p>(74クラス 貫名 緑) TOEICを中心とした各種英語資格試験への理解を深め、合格・得点アップを目指して演習問題に取り組みます。</p>	4クラスで運営
		<p>資格英語Ⅱ</p> <p>(概要) 資格英語Ⅰに引き続き、TOEFL、英検、TOEICなどの資格試験を視野に入れて、聴解、口頭表現、読解、英語構文理解などの発展的な能力の養成を目指します。</p> <p>(71クラス 村川 康二郎) この授業では全体的な英語力の改善に取り組みます。ここでいう英語力とは特に、語彙、文法、読解、そして聴解における知識・技能のことを言います。それぞれの分野における知識・技能を磨くことで、全体としての英語力の向上を目指し、その結果TOEIC、TOEFL、そして英検等のテストで一定の水準を満たすことができるようにすることを目指します。</p> <p>(72クラス 水野 由美) TOEIC対策となりうるリスニング、リーディング教材を用い、ビジネス英語の語彙や表現を学ぶこと、ビジネス英語の運用能力を高めることを目標とします。とりわけ語彙力の強化を図ります。 リスニング問題には、必要に応じて、ディクテーションを加え、内容がわかるように配慮していきたいと考えています。また、リーディング問題は、どこが問題なのか、どこを読めばポイントがわかるのかなどがはっきり理解できるように、説明を加えながら進めていきたいと思っています。文法の難しいものに関しては、プリントなどで更に強化していきます。語彙力を高める為の小テストも行います。</p> <p>(73クラス 大西 玲江) 資格として国際的に通用する英語力を養うことが、目標です。様々な国際資格英語テストの中でも、特に需要と普及度の高さという観点から、TOEICテストを取り上げ、その対策を通じて、総合的な英語運用能力の向上を図ります。具体的な学習として、TOEIC予想問題の演習、又、適時、テープやビデオ教材を使用してのリスニング強化、授業中の音読練習、必要に応じて配布する関連教材を用いての文法説明、等を盛り込み、テキストを中心に進めていきます。</p> <p>(74クラス 貫名 緑) TOEICを中心とした各種英語資格試験への理解を深め、合格・得点アップを目指して演習問題に取り組みます。</p>	4クラスで運営

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	外国 語科 目 英語 科目	<p>資格英語Ⅲ</p> <p>(概要)「資格英語Ⅰ・Ⅱ」を一層発展させる科目です。TOEFL、英検、TOEICで上位レベルを目標とします。</p> <p>(71クラス 貫名 緑) TOEICを中心とした各種英語資格試験への理解を深め、合格、得点アップを目指して演習問題に取り組みます。</p> <p>(72クラス T.B. Curtis) (英文) In this course, you will practice the listening and reading skills that are required not only for the TOEIC, but also for real life. (和訳) リスニングとリーディング技能の向上を図り、TOEIC対策だけでなく、実生活に用いられる内容を学習します。</p> <p>(73クラス 大槻 きょう子) 英語を母語としない学習者のアカデミックな英語運用能力をはかるTOEFLの対策を行います。TOEFLに対応できる基礎英語力をつけるため多読を行います。その上で、readingとlisteningセクションのテスト問題への対応の仕方、note-takingなどの解答の際のストラテジーを習得することを目標とします。本講義では、指定のテキストを用い、まずTOEFLの出題形式と意図を理解した上で、解答ストラテジーのポイントを押さえ、そのストラテジーを実際に使って演習を行います。更には、同じような問題を繰り返し解くことによって、ストラテジーの定着をはかります。講義では、テスト対策の問題演習に終始することなく、それぞれの設問がどのようなコミュニケーションから出題されているのか、あるいは、どのようなコミュニケーションへ応用できるかを示し、英語によるコミュニケーション実践につながるように、問題から見えてくる英語とその使用方法についても触れます。また、英語圏の大学の授業などで扱われるトピックなどについても触れ、アカデミックな英語運用能力(英語での講義を理解できる、課題を完成できる、プレゼンテーションができる、事務的な手続きが行えるなどの力)を身につけて、将来的な英語圏への留学を想定した内容を扱います。</p>	3クラスで運営
		<p>資格英語Ⅳ</p> <p>(概要)「資格英語Ⅰ・Ⅱ」を一層発展させる科目です。TOEFL、英検、TOEICで上位レベルを目標とします。</p> <p>(71クラス 貫名 緑) TOEICを中心とした各種英語資格試験への理解を深め、合格・得点アップを目指して演習問題に取り組みます。</p> <p>(72クラス T.B. Curtis) (英文) In this course, you will practice more listening and reading skills that are required not only for the TOEIC, but also for real life. (和訳) リスニングとリーディング技能の向上を図り、TOEIC対策だけでなく、実生活に用いられる内容を学習します。</p> <p>(73クラス 大槻 きょう子) 英語を母語としない学習者のアカデミックな英語運用能力をはかるTOEFLの対策を行います。TOEFLに対応できる基礎英語力をつけるため多読を行います。その上で、readingとlisteningセクションのテスト問題への対応の仕方、note-takingなどの解答の際のストラテジーを習得することを目標とします。本講義では、指定のテキストを用い、まずTOEFLの出題形式と意図を理解した上で、解答ストラテジーのポイントを押さえ、そのストラテジーを実際に使って演習を行います。更には、同じような問題を繰り返し解くことによって、ストラテジーの定着をはかります。講義では、テスト対策の問題演習に終始することなく、それぞれの設問がどのようなコミュニケーションから出題されているのか、あるいは、どのようなコミュニケーションへ応用できるかを示し、英語によるコミュニケーション実践につながるように、問題から見えてくる英語とその使用方法についても触れます。また、英語圏の大学の授業などで扱われるトピックなどについても触れ、アカデミックな英語運用能力(英語での講義を理解できる、課題を完成できる、プレゼンテーションができる、事務的な手続きが行えるなどの力)を身につけて、将来的な英語圏への留学を想定した内容を扱います。</p>	3クラスで運営
共通 教育 科目	外国 語科 目 英語 科目		

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目 英語科目	<p>(英文)</p> <p>The aim of this course is to develop students' ability to analyze, prepare, and deliver presentations in English. They will learn how to analyze model presentations, brainstorm for ideas, organize and develop content, and write short presentations of their own. They will learn how to learn to speak with confidence, use appropriate eye contact, gestures, stress, emphasis, and visual aids in their presentations, and they will also listen to and give feedback on other students' presentations. They will deliver four presentations: a short self-introduction, an introduction of a classmate, a description of their favorite place, and a description and history of their favorite possession.</p> <p>(和訳)</p> <p>この授業の目的は、英語でプレゼンテーションを行う際に、プレゼンテーションの方法を分析したり、準備したり、実際に行うなどして学生のプレゼンテーション能力を養成することです。具体的には、モデルとなるプレゼンテーションを分析したり、アイディアを出し合うためにブレインストーミングを行ったり、発表内容を練ったり、プレゼンテーションの原稿を作成したりします。また、自信を持った話し方や、アイコンタクト、ジェスチャー、抑揚、強調、機器などの使用方法も学習します。さらに、他の学生のプレゼンテーションを聞くことによってフィードバックを得ることができます。自己紹介、他己紹介、好きな場所、好きなものについて全部で4回のプレゼンテーションを行います。</p>	
		<p>(英文) Presentations in English II</p> <p>The goal of this course is to further develop students' ability to analyze, prepare, and deliver presentations in English. Students will deliver four presentations that are longer and more challenging than the ones in Presentations in English I: a medium-length self-introduction, a story about an important event in their life, a 'how-to' demonstration of a skill or talent, and a review of a movie they've seen.</p> <p>(和訳)</p> <p>この授業の目標は、英語プレゼンテーションIで学習した内容に続けて、英語でプレゼンテーションを行う際に、プレゼンテーションの方法を分析したり、準備したり、実際に行うなどして学生の能力をさらに上達させることです。学生は、英語プレゼンテーションIで行った4回のプレゼンテーションよりも長くて、レベルの高いプレゼンテーションを4回行います。具体的には、ある程度の長さの自己紹介、今までの人生の中の重要な出来事、ある能力のデモンストレーション、今までに見た映画の感想についてです。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	外国 語科 目 英語 科目	アドバンスト英語 (Japanese Film)	(英文) This course will focus on the main issues of Japanese film after the 2nd world war. The filmography of major Japanese directors will be reviewed with particular emphasis in Yasujiro Ozu, Akira Kurosawa, and several modern film directors. The main film genres will be discussed in historical context and from international viewpoint. (和訳) 戦後、日本映画の主な作品について焦点をあてます。特に小津安二郎、黒澤明や何人かの近代映画監督を取り上げて日本の映画監督の関連文献を考察していきます。また、主な映画ジャンルについて、歴史的背景と国際的な評価をもとに議論していきます。
共通 教育 科目	外国 語科 目 英語 科目	アドバンスト英語 (Cross Cultural Communication)	(英文) The Cross Cultural Communication class consists various student presentations and topics designed to introduce students to communication between cultures. We will explore many aspects of communication, culture and how the two interact. (和訳) 異文化コミュニケーション授業は、学生に対するプレゼンテーションと異文化間のコミュニケーションのトピックを紹介して行います。
共通 教育 科目	外国 語科 目 英語 科目	アドバンスト英語 (Contract Bridge and Card Game Culture)	(英文) In this course, students will be introduced to contract bridge, studying aspects of both the bidding and the play of the hand. Students will learn both the terms necessary to communicate during the auction and the techniques required to declare and defend well. (和訳) トランプのゲーム、コントラクトブリッジ(ブリッジ)を紹介します。このゲームの「ビッド(「オークション」中、自分の主張するコントラクトを宣言すること)」と「プレイ」について勉強します。また、「オークション」でのコミュニケーションに必要な用語と、宣言(契約)する時と防御する際の必要な手法を学びます。
共通 教育 科目	外国 語科 目 英語 科目	アドバンスト英語 (Aspects of Japanese Language and Society)	(英文) The aim of this course is to provide an introduction to the study of sociolinguistics in a Japanese context. This will be conducted through lectures and readings, and through research projects undertaken by students and presented to the class. (和訳) この授業の目的は、日本語での社会言語学の入門部分を紹介することです。授業は、講義・講読形式、学生による調査プロジェクトと発表により行います。

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部教育学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育科目	外国 語科目 英語科目	アドバンスト英語 (Japanese Studies)	<p>(英文) In this 15 week class, students will study in English the history of Hiroshima dating from the first building discovered in this area to the present day industries. Since this is an advanced English class, all 4 skills of communicating in English will be utilized. The history of Japan will also be studied from the earliest settlers to the present. Students will study and present on historical topics of their interest.</p> <p>(和訳) 15週の授業で、最初の建造物から現在の産業に至る広島歴史について英語で学びます。この授業は上級者向けの英語クラスなので、英語コミュニケーションに必要な4つの技能(聴く、読む、話す、書く)全てが用いられます。日本の歴史では、昔から現在まで居住している人々について学びます。また、歴史に関して自分の興味のあるトピックについて学習し、発表します。</p>	
共通 教育科目	外国 語科目 英語科目	アドバンスト英語 (Video Gaming from East to West)	<p>(英文) This is a course on video games and their connection to society and culture. Students will learn about and discuss historical, technical, and social aspects of video games in a multicultural environment. They will work in small groups to develop ideas for an original video game, and they will later present their ideas to the class. At the end of the semester, they will deliver individual presentations on a video game-related topic of their choosing.</p> <p>(和訳) この授業は、ビデオゲームについてと、ビデオゲームと社会や文化とのつながりについて学習します。学生は、多文化環境の中におけるビデオゲームの歴史的、技術的、社会的側面を学習し、議論を行います。また、少数のグループに分かれて、オリジナルのビデオゲームを開発するためのアイデアを出し合います。その後クラス全体でそれぞれのアイデアについて発表して議論します。学期の最後には、自分が選んだビデオゲームに関するトピックについて、一人ずつプレゼンテーションを行います。</p>	
共通 教育科目	外国 語科目 英語科目	オンライン英語実習 I	<p>(英文) In this class, we will use technology, including computers, cell phones, and especially the Internet, to perform various tasks in English. Examples of such tasks include finding information about a favorite musician, or comparing ticket prices for a flight to another country. After completing each task, we will discuss and review the vocabulary, grammar, and other English skills necessary for doing similar tasks.</p> <p>(和訳) コンピューターや携帯電話、特にインターネットを用いて英語による様々な学習を行います。例えば、好きなミュージシャンの情報を見つけたり、海外旅行の航空チケットの価格を比較したりという作業を行います。その後、これらの作業に関して討論し、これらの作業を行うために必要な語彙、文法等の英語のスキルを見直します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目 英語科目 オンライン英語実習Ⅱ	(英文) In this class, we will use technology, including computers, cell phones, and especially the Internet, to perform various tasks in English. Examples of such tasks include finding information about a favorite musician, or comparing ticket prices for a flight to another country. After completing each task, we will discuss and review the vocabulary, grammar, and other English skills necessary for doing similar tasks. (和訳) オンライン英語実習Ⅰに引き続き、コンピュータや携帯電話、特にインターネットを用いて英語による様々な学習を行います。例えば、好きなミュージシャンの情報を見つけたり、海外旅行の航空チケットの価格を比較したりという作業を行います。その後、これらの作業に関して討論し、これらの作業を行うために必要な語彙、文法等の英語のスキルを見直します。	
共通教育科目	外国語科目 英語科目 日本語Ⅴ	読解と文章表現を総合したクラスとします。特に、文章表現に重点を置き「は/が」の用法の練習や、文と文との接続の表現や、文章の構成などについて練習します。 *留学生(正規学生)用科目	
共通教育科目	外国語科目 英語科目 日本語Ⅵ	読解と文章表現を総合したクラスとします。このクラスでは、複文の練習により、文章表現の上達をめざします。複文は、修飾節を含む文、接続表現のある文、両方を含む文などを扱います。また各種の複文を使って、一まとまりの内容を表現する文章の練習をします。 *留学生(正規学生)用科目	
共通教育科目	初修外国語科目 外国語科目 ドイツ語Ⅰ	ドイツ語を初めて学ぼうとする人に、基本的に文法を中心に授業を進めていきます。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々(ドイツ、オーストリア、スイス等)をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅰからドイツ語Ⅱへと難度が高くなり、Ⅰ、Ⅱ合わせて、ドイツ語文法がマスターできます。	
共通教育科目	初修外国語科目 外国語科目 ドイツ語Ⅱ	前期ドイツ語Ⅰの続きです。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々(ドイツ、オーストリア、スイス等)をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅰからドイツ語Ⅱへと難度が高くなり、Ⅰ、Ⅱ合わせて、ドイツ語文法がマスターできます。ドイツ語Ⅱでは、辞書を引きながら自分でドイツ語の文章を読み、書くことができるようになることを目標にしています。	
共通教育科目	初修外国語科目 外国語科目 ドイツ語Ⅲ	ドイツ語を初めて学ぼうとする人に、基本的に読本を中心に授業を進めていきます。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々(ドイツ、オーストリア、スイス等)をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅲからドイツ語Ⅳへと難度が高くなり、Ⅲ、Ⅳ合わせて、簡単な日常会話が話せ、簡単なドイツ語の読み物を辞書を使いながら読めるようになることを目標にしています。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初修外国語科目	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語Ⅲの続きです。基本的に読本を中心に授業を進めていく。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々(ドイツ、オーストリア、スイス等)をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅲからドイツ語Ⅳへと難度が高くなり、ここでは、具体的な場面での日常会話が話せ、ドイツ語の簡単な読み物(物語等)を辞書を使いながら読めるようになることを目標にしています。	
共通教育科目 初修外国語科目	フランス語Ⅰ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰとフランス語Ⅲは、ともに履修することで、フランス語を初めて学ぶ人が、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法を修得し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検5級を取得できるレベルを目指します。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	再履修者もフランス語Ⅲを聴講することが好ましい。
共通教育科目 初修外国語科目	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰ、Ⅲにつづいて、フランス語Ⅱとフランス語Ⅳは、ともに履修することで、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法の学習をさらに展開し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検4級を取得できるレベルを目指します。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	再履修者もフランス語Ⅳを聴講することが好ましい。
共通教育科目 初修外国語科目	フランス語Ⅲ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰとフランス語Ⅲは、ともに履修することで、フランス語を初めて学ぶ人が、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法を修得し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検5級を取得できるレベルを目指します。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	再履修者もフランス語Ⅰを聴講することが好ましい。
共通教育科目 初修外国語科目	フランス語Ⅳ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰ、Ⅲにつづいて、フランス語Ⅱとフランス語Ⅳは、ともに履修することで、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法の学習をさらに展開し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検4級を取得できるレベルを目指します。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	再履修者もフランス語Ⅱを聴講することが好ましい。
共通教育科目 初修外国語科目	スペイン語Ⅰ	スペイン語Ⅰ～Ⅳ(スペイン語初級)では、初修者を対象として、スペイン語の基礎を学習します。1年間を通しての学習で、「読む」「書く」「聞く」「話す」という4種類のスペイン語運用能力の向上をはかると同時に、スペイン語の学習を通して、スペイン語圏世界の文化の豊かさや多様性にも触れてゆきます。スペイン語Ⅰ～Ⅳは共通の教科書を用いますが、Ⅰ・Ⅱでは文法説明が中心になります。Ⅲ・Ⅳでは、Ⅰ・Ⅱとの密接な連携を保ちつつ、表現学習や、文法知識を応用する形での各種練習に重点を置きます。前期のスペイン語Ⅰでは、文字と発音、名詞の性・数、形容詞、冠詞、重要な動詞の現在形などを学びます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初修外国語科目	スペイン語Ⅱ	前期に引き続き、スペイン語Ⅳと連携しつつ、スペイン語の基礎文法を学びます。重要な動詞の現在形の学習を継続するとともに、再帰動詞、目的語代名詞、比較表現、不定語と否定語などの事項を学び、最後に現在進行形と現在完了形に触れます。前期よりも内容が難しくなるので、気を抜かないようにしてください。	
共通教育科目 初修外国語科目	スペイン語Ⅲ	スペイン語Ⅰの文法授業との密接な連携を保ちながら授業を進めます。会話練習、作文練習、ヒアリング練習、読解練習などを通して、スペイン語Ⅰで学んだ文法事項を定着させるとともに、語彙力を強化し、スペイン語のコミュニケーション能力の向上を目指します。前期は挨拶からはじめて、日常生活の表現にチャレンジします。	
共通教育科目 初修外国語科目	スペイン語Ⅳ	前期に引き続き、スペイン語Ⅱの文法授業との密接な連携を保ちながら授業を進めます。会話練習、作文練習、ヒアリング練習、読解練習などを通して、スペイン語Ⅱで学んだ文法事項を定着させるとともに、語彙力を強化し、スペイン語のコミュニケーション能力のさらなる向上を目指します。後期は前期よりも複雑で高度な内容をスペイン語で表現することにチャレンジします。	
共通教育科目 初修外国語科目	中国語Ⅰ	本講義は「中国語Ⅲ」と連動して行います。最初の4週で中国語の発音を習得するとともに、発音記号であるピンインを学びます。その後、基本的な文法事項と会話表現を系統的に学びます。すなわち「是」を使う判断文に始まり、形容詞述語文、名詞述語文、動詞述語文の基本形を学びつつ、それらを使った実用的な文を組み立てる練習をします。また、日常会話に欠かせない、年齢、時刻、金額などの数詞を使った文の作り方も学びます。	
共通教育科目 初修外国語科目	中国語Ⅱ	本講義は、「中国語Ⅰ」の続きの講義であり、「中国語Ⅳ」と連動して行われます。「中国語Ⅰ」で学んだ文法事項をふまえて、助動詞を用いる文(願望や可能の表現)、アスペクト(経験、過去、持続、進行、将来)の表し方、副詞、前置詞を用いる文など、やや複雑な語法を学びます。「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」をあわせると、中国語検定試験4級合格レベルの文法事項を修得することができます。	
共通教育科目 初修外国語科目	中国語Ⅲ	本講義は「中国語Ⅰ」と連動して行います。最初の4週は発音練習に充てます。その後は「中国語Ⅰ」で学ぶ文法事項を用いた会話表現の実践練習を行います。中国語による自己紹介の練習や他人の自己紹介を聞き取る練習をはじめとして、中国語のオーラルコミュニケーション(聴くことと話すこと)の力を養います。授業では履修者同士の練習が主たる内容となります。	
共通教育科目 初修外国語科目	中国語Ⅳ	本講義は「中国語Ⅲ」の続きの授業であり、「中国語Ⅱ」と連動して行われます。「中国語Ⅱ」で学ぶさまざまな文法事項を用いて、実用的な会話表現の実践練習を行います。履修者同士の練習を主とし、自己の願望の表現や、過去、現在の叙述、接続詞を用いる複文など、中国で生活するうえで基本となる会話表現をマスターします。会話では話す力とともに聴く力が重要であるので、中国語のリスニング能力の向上も重視します。	
共通教育科目 初修外国語科目	韓国・朝鮮語Ⅰ	韓国・朝鮮語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成する。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。なお、総合的な能力を養成することを目指すので、各クラスの前期ペアの授業は内容的に区別せず連続して行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初修外国語科目 韓国・朝鮮語Ⅱ	前期に引き続き、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成する。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。なお、総合的な能力を養成することを目指すので、各クラスの後期ペアの授業は内容的に区別せず連続して行う。	
共通教育科目	初修外国語科目 韓国・朝鮮語Ⅲ	韓国・朝鮮語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成する。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。なお、総合的な能力を養成することを目指すので、各クラスの前期ペアの授業は内容的に区別せず連続して行う。	
共通教育科目	初修外国語科目 韓国・朝鮮語Ⅳ	前期に引き続き、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成する。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。なお、総合的な能力を養成することを目指すので、各クラスの後期ペアの授業は内容的に区別せず連続して行う。	
共通教育科目	初修外国語科目 上級外国語Ⅰ(中国語)	1. 語学知識：中国語の基礎文法や、簡単な会話など一通り終えた学生はこの授業で、更に最も現実に生きている言葉を学ぶことができます。授業中、各課の語句、構文などに関する理解を深め、なるべく中国語という言語の表現の特徴を学生が把握することに主眼を置いて、その表現形式を学生がマスターするようにします。それに伴い、学生が一段上の中国語を勉強しながら中国語能力の向上を図れるようにします。 2. 文化知識：授業中に中国社会・文化に関する最新事情の紹介などを通じて、学生が飽きない楽しい内容を学び、現代中国社会への理解を深めます。また、目下の中国の若者たちがよく使用する言葉も紹介し、説明したりして、これからの一層のコミュニケーションによる交流を深めます。	
共通教育科目	初修外国語科目 上級外国語Ⅱ(中国語)	1. 語学知識：中国語の基礎文法や、簡単な会話など一通り終えた学生はこの授業で、更に最も現実に生きている言葉を学ぶことができます。授業中、各課の語句、構文などに関する理解を深め、なるべく中国語という言語の表現の特徴を学生が把握することに主眼を置いて、その表現形式を学生がマスターするようにします。それに伴い、学生が一段上の中国語を勉強しながら中国語能力の向上を図れるようにします。 2. 文化知識：授業中に中国社会・文化に関する最新事情の紹介などを通じて、学生が飽きない楽しい内容を学び、現代中国社会への理解を深めます。また、目下の中国の若者たちがよく使用する言葉も紹介し、説明したりして、これからの一層のコミュニケーションによる交流を深めます。	
共通教育科目	初修外国語科目 上級外国語Ⅰ(韓国・朝鮮語)	3年間韓国・朝鮮語関連科目を履修した受講生を対象に、最上級レベルの韓国語力を目指します。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。最上級の韓国語講座であるため、授業はできるだけ韓国語で行う予定です。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初修外国語科目 上級外国語Ⅱ(韓国・朝鮮語)	前期に引き続き、3年間韓国・朝鮮語関連科目を履修した受講者を対象に、最上級レベルの韓国語力を目指します。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。最上級の韓国語講座であるため、授業はできるだけ韓国語で行う予定です。	
共通教育科目	初修外国語科目 日本語Ⅶ	日本語能力を総合的に磨くことを目指したクラスです。ある一定の筋と内容の展開をもったTVドラマなどの視聴覚教材を使用し、その内容や展開を把握し、それについて意見を言い合い、展開の予想を論じたりします。毎回、視聴したものについてクイズを行います。 ドラマは、「ハゲタカ」(全6話)を使い、二回で1話ずつ視聴し、語彙、表現を修得練習します。 *留学生(正規学生)用科目	
共通教育科目	初修外国語科目 日本語Ⅷ	日本語能力を総合的に磨くことを目指したクラスです。ある一定の筋と内容の展開をもったTVドラマなどの視聴覚教材を使用し、その内容や展開を把握し、それについて意見を言い合い、展開の予想を論じたりします。毎回、視聴したものに関してクイズを行います。 ドラマは、「女神の恋」(全20話)を使い、1回で2話ずつ視聴し、語彙、表現を修得練習します。 *留学生(正規学生)用科目	
共通教育科目	初修外国語科目 日本語Ⅸ	文章表現の向上を目指すクラスとします。文と文の関連や論理的な構成を中心として、ことばや文字・記号の使い方・表記法も含め、レポートや論文などの論述文を書くための練習をします。 以下の授業計画は受講生のレベル、あるいは受講人数に応じて、対応します。 *留学生(正規学生)用科目	
共通教育科目	初修外国語科目 日本語Ⅹ	文章表現の向上を目指すクラスとします。文と文の関連や論理的な構成を中心として、ことばや文字・記号の使い方・表記法も含め、レポートや論文などの論述文を書くための練習をします。 以下の授業計画は受講生のレベル、あるいは受講人数に応じて、対応します。 *留学生(正規学生)用科目	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅰ(ドイツ)	初級～中級レベルの教材を使用し、復習を兼ねて一年次で習得したドイツ語の基礎知識を発展させることが当講義の目的です。易しいドイツ語で書かれたテキストを読解しながら、ドイツ語力を伸ばすと同時にドイツの社会、文化、歴史への理解を深めていきます。ドイツ語をもっと極めたい方はもちろん、ドイツ語に自信がない、せつかくのドイツ語を忘れかけている方も是非とご参加ください。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅱ(ドイツ)	後期は、ドイツが近代国家になった頃から現在に至って、様々な時代的・社会的背景を物語る「ドイツ語」に挑戦します。 例えば、19世紀を代表する言語学者のGrimm兄弟の童話や20世紀の戦争の恐怖を表現するBrechtの作品に触れたいと思います。なお、ドイツ初の漫画、そして現代の社会問題をピックアップする、生きている話し言葉で書かれている漫画などを用意しております。それぞれのテキスト、分かりやすい、短いものにします。そして、授業で一緒に読んで、解説し、ドイツの社会、文化、歴史などについて考えて行きたいと思います。 もっとドイツ語を深めたい、思い出したい、そして幅広くドイツのことを知りたい方のご参加をお待ちしています。	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅲ(ドイツ)	ここでは、少なくともドイツ語Ⅰ、Ⅱあるいは、ドイツ語Ⅲ、Ⅳを受講した学生を対象に、さらにドイツ語の上達はもちろん、ドイツ文化に接する機会を提供しようとするクラスです。ドイツ映画、オペラ、演劇などを見る機会を提供します。	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅳ(ドイツ)	ここでは、少なくともドイツ語Ⅰ、Ⅱあるいは、ドイツ語Ⅲ、Ⅳを受講した学生を対象に、さらにドイツ語の上達はもちろん、ドイツ文化に接する機会を提供しようとするクラスです。ドイツ映画、オペラ、演劇などを見る機会を提供します。教科書を使用しますが、それは、「言語と文化Ⅲ(ドイツ)」で使用しているものです。したがって、「言語と文化Ⅲ(ドイツ)」を受講していることが望ましいです。	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅰ(フランス)	「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で習得した基礎をしっかりと固め、さらに未習の文法事項の学習へと発展させます。それと同時に、フランスの最新の文化事情と、フランスから見た日本を考えつつ、実践的なフランス語によるコミュニケーション能力を高めます。日仏の歴史・文化・経済・政治を比較しつつ、今われわれが生きつつある世界の変容について考えます。	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅱ(フランス)	「言語と文化Ⅰ(フランス)」(前期)に引き続き、フランス語の未習事項を学び、実践的コミュニケーション力を向上させます。同時に、フランスの最新の文化事情を知り、過去の歴史との関連の中で、理解を深めます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅲ(フランス)	(仏文) Les étudiants qui ont déjà étudié le français pendant au moins un an (100 a 200 heures de français). Ce cours est destiné aux étudiants qui veulent découvrir la vie quotidienne des Français, la société et la culture françaises d'aujourd'hui, tout au long des saisons, grâce a des documents écrits, des vidéos et des films. Les cours auront lieu en français ou en japonais. (和訳) フランス語を既に少なくとも1年間(100~200時間のフランス語学習)学んだ事のある学生を対象に行います。この講義は、フランス人の日常生活や社会、そして今日のフランス文化や四季を通してのフランスを、資料、ビデオや映画を使いながら発見していきたいという学生を対象とします。講義はフランス語また日本語で行われます。	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅳ(フランス)	(仏文) Les étudiants qui ont déjà étudié le français pendant au moins un an (100 a 200 heures de français). Ce cours est destiné aux étudiants qui veulent découvrir la vie quotidienne des Français, la société et la culture françaises d'aujourd'hui, tout au long des saisons, grâce a des documents écrits, des vidéos et des films. Les cours auront lieu en français ou en japonais. (和訳) フランス語を既に少なくとも1年間(100~200時間のフランス語学習)学んだ事のある学生を対象とします。この講義は、Ⅲをさらに発展させフランス人の日常生活や社会、そして今日のフランス文化や四季を通してのフランスを、資料、ビデオや映画を使いながら発見して行きたいという学生を対象とします。講義はフランス語また日本語で行います。	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅰ(スペイン)	「言語と文化Ⅰ・Ⅱ(スペイン)」では、「スペイン語Ⅰ~Ⅳ」の単位取得者を対象に、日本人大学生がラテンアメリカ諸国を旅行するという設定の教科書を用いて、読解力を中心にスペイン語力のさらなる向上をはかるとともに、ラテンアメリカの社会や文化についても学びます。	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅱ(スペイン)	前期開講の「言語と文化Ⅰ(スペイン)」の継続です。前期に引き続き、ラテンアメリカの国々について学びつつ、読解力を中心にスペイン語力のさらなる向上をはかります。	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅲ(スペイン)	A.-スペイン語の基礎を学び続けます。多国で話されている言語になじみ、理解力を高めながら、引き続きスペイン語の会話、読解、作文の学習を行います。 B.-スペインの文化と接しながら、視野を広げて国際理解や価値観の違いに気付く機会をもちます。 a.1) スペイン語基礎の復習。 a.2) スペイン語の直説法の過去形。Imperfecto線過去、indefinido点過去、perfecto現在完了、pluscuamperfecto大過去。 a.3) 会話の練習。 次の二つのテーマをもとにスペインの文化の理解を深めます。 b.1) スペインの多様性：言語、歴史、地理、食文化等を日本と比較。 b.2) サッカーと闘牛 “Fútbol y Toros”。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅳ(スペイン)	A.-スペイン語の基礎を学び続けます。多国で話されている言語になじみ、理解力を高めながら、引き続きスペイン語の会話、読解、作文の学習を行います。 B.-スペインの文化と接しながら、視野を広げて国際理解や価値観の違いに気付く機会をもちます。 a. 1) スペイン語基礎の復習 a. 2) Futuro (未来形)、Condicional (過去未来) Imperativo (命令形)、Subjuntivo (接続法) a. 3) 会話の練習 次の二つのテーマをもとにスペインの文化の理解を深めます。 b. 1) スペイン人の平日のスケジュール、余暇の使い方、夏休み等を日本と比較。 b. 2) 都市計画と人間関係。Gaudi (ガウディ)。	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅰ(中国)	中国語Ⅰ～Ⅳを修得した学生を対象とした、中国語と中国文化についての理解を深めるための授業です。講義は中国の身近な話題についての会話を学ぶとともに、資料映像などを用いて現代中国及び日中文化の相違についても紹介します。	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅱ(中国)	「言語と文化Ⅰ(中国)」を修得した学生を対象とした、中国語と中国文化についての理解を深めるための授業です。講義は中国の身近な話題についての会話を学ぶとともに、資料映像などを用いて現代中国及び日中文化の相違についても紹介します。	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅲ(中国)	この科目は中国語Ⅰ～Ⅳをすでに履修している人を対象として、中国語の文章を読解しながら、①中国語のレベルアップを図り、②中国の伝統的な文化について学ぶとともに、③グローバル化のなかでの中国社会・文化の変化の様子を紹介します。	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅳ(中国)	この科目は「言語と文化Ⅲ(中国)」に引き続き、中級レベルの中国語文章の読解を通じて、中国語の力(特に読解力とリスニング力)をひき上げ、それとともに中国の社会・文化への理解を深める科目です。「言語と文化Ⅲ(中国)」につづく科目とはいつても、「言語と文化Ⅲ(中国)」の内容理解を直接に前提とする授業構成ではありませんので、「言語と文化Ⅲ(中国)」を履修していない学生の履修も大歓迎です。	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅰ(韓国・朝鮮)	韓国・朝鮮語Ⅰ～Ⅳを履修し、韓国語の文字と発音及び基礎的な文法事項を習得している受講者を対象に、中級レベルの韓国語力を目指します。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。	
共通教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅱ(韓国・朝鮮)	前期に引き続き、韓国語の文字と発音及び基礎的な文法事項を習得している受講者を対象に、中級レベルの韓国語力を目指します。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅲ(韓国・朝鮮)	本講義では、歴史的な観点から現代の朝鮮半島の文化を理解することを目指します。20世紀初めに日本の植民地支配を受けた朝鮮半島は、第二次大戦後に南北に分断されたまま「ポスト冷戦」の今日にまで至っています。私たちの生活とも深く関係のあるこの地域の歴史を学び、そこに生きる人々の生き方や思考様式を理解する糸口をさがっていきたくと考えています。現在の政治社会状況との関係性を意識しながら授業を進めます。各時代を映し出したドキュメンタリーや映画、文学作品等も取り上げ、議論を通して理解を深めていきます。(本講義ではとくに近代から1980年代までを扱います。)	
共通 教育科目	初修外国語科目 言語と文化Ⅳ(韓国・朝鮮)	本講義では、歴史的な観点から現代の朝鮮半島の文化を理解することを目指します。20世紀初めに日本の植民地支配を受けた朝鮮半島は、第二次大戦後に南北に分断されたまま「ポスト冷戦」の今日にまで至っています。私たちの生活とも深く関係のあるこの地域の歴史を学びながら、そこに生きる人々の生き方や思考様式を理解する糸口をさがっていきたくと考えています。現在の政治社会状況との関係性を意識しながら授業を進めます。各時代を映し出したドキュメンタリーや映画、文学作品等も取り上げ、議論を通して理解を深めていきます。本講義ではとくに1980年代以降の韓国社会、南北関係、歴史認識をめぐる問題など、テーマごとに学びます。	
共通 教育科目	保健体育科目 健康科学論	(概要) スポーツ・運動と健康との関係、人間にとって健康とはなにかを、健康の身体的側面の問題や精神的または社会的側面の問題を通して理解することを目指します。 (01クラス 緒方知徳) メディアを通して、様々な健康に関する情報が流れていますが、その中には科学的根拠の全く無い誤った情報も数多く耳にします。本講義では、健康や運動スポーツ活動を科学的に理解し、生涯にわたる健康づくりに繋がる知識の獲得を目標とします。皆さんが健康や運動に関して疑問に思っていることにもできるだけお答えできるような授業にしたいと思います。 (51クラス 森河亮) 健康に関する情報が氾濫しているとも言える今日において、それらの情報の正否は何を基準に判断すれば良いのでしょうか？また自分が今、健康的な生活を営んでいるのかどうか、何を基準に判断すれば良いのでしょうか？これらについての理解をしていないと、自分の健康を維持・増進することはできません。 この科目では、健康を維持・増進するための運動を中心とした基礎的な知識を集積し、それを実行するためには何が必要かを学習します。また、健康に関する最新の話や身近な問題を提供する予定です。	2クラスで運営
共通 教育科目	保健体育科目 運動科学論	スポーツや運動にかかわる諸問題を考える場合、運動をとらえる切り口はいろいろあります。この科目では、スポーツ運動だけでなく日常的な運動も含めた、身体運動における私たちの身体の構造と機能の理解から始め、この側面から人間の運動というものにアプローチしていきます。運動に関するハードウェアとソフトウェアをながめると、あなた自身もつ「すばらしさ」と「かけがえのなさ」が見えてきます。私たちのからだや、運動をめぐるいくつかのことについて考えてみましょう。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	保健 体育 科目	健康科学演習	今日、運動不足やストレスの問題はますます増加の傾向にあり、これらは健康阻害の一因となっています。この科目では、「運動・スポーツ」を通じて、どのように「健康」な状態を生み出していけるのかについて考察します。まずは、健康づくりに関する基礎的な知識を学習した上で、運動時の生理的指標の変化を確認してみましょう。そして、明らかにしたい運動や健康に関連した実験テーマを自分で決め、正しい手続きで数値データを取り、そのプロセスと得られた結果をグラフや表を交えながらきちんと文章で説明しましょう。
共通 教育 科目	保健 体育 科目	運動科学演習	この科目では、人間の運動や運動の学習を材料にして「学問・研究」を行います。スポーツの熟練者は「瞬間的にものを見て取る」ことができるのでしょうか。ターゲットが何色のとき狙いやすいのでしょうか。どんなストレスが反応の速さや強さに影響するのでしょうか。運動がすぐに上達する「秘策」みたいなものはあるのでしょうか。あなたは日常の運動やスポーツについて、不思議だなあと感じていることはありませんか？ また、広島県の高中生バスケットボール国体候補選手や小学生スーパージュニア選手のタイミングコントロール能力の測定・解析も予定しています。 正しい手続きで数値データを取り、あらわれた差が偶然のものではないことを明らかにして、そのプロセスと得られた結果をグラフや表を交えながらきちんと文章で説明してみましょう。
共通 教育 科目	保健 体育 科目	健康スポーツ実習 (エアロビクス)	エアロビクエクササイズを用いて、からだの健康(または、こころの健康、人間関係の健康)のために最適な運動行動とは何かについて学習します。生活や健康に役立つ体力とは何かということを積極的に考え、健康体力づくりの基礎となる有酸素運動の理論をもとに、身近で誰もが楽しめるエアロビクダンスを実施します。音楽のビートに合わせて仲間と楽しく軽快に全身を動かしてみませんか。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	保健 体育 科目	<p>(概要) 現在および将来の自分にとって、特に身体の状態や環境が変わったときに、適度な運動とはどの程度のものなのかを知り、授業以外の場でも自分に運動処方できるようになることを目指します。</p> <p>(01クラス 笠井 達哉) 生涯スポーツとして取り組むことのできる種目「ゴルフ」をとりあげます。 ゴルフの基本的技術の習得を、繰り返し実施します。そして、この過程を介しながらからだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方法を身につけることを目標とします。そして、この行動を身につけることが、社会生活においてどのような意味を持つかを考え、将来の社会生活においてゴルフを行うことの意義を理解することを目的に実施します。</p> <p>(10クラス 緒方 知徳) 生涯にわたって健康でいることは、生活の質(QOL)を高めるうえで非常に重要です。ゴルフは幅広い年齢層に愛好され、生涯スポーツとしても適していますが、マナーが重視されるスポーツでもあります。本授業では、ゴルフの基礎的技術や特性の理解とマナー、エチケットについて学習します。また、ゴルフを通して他者とのコミュニケーションの取り方、自分自身の身体の状態についても学んでいきます。</p> <p>(21クラス 原 妃斗美) 生涯スポーツとして取り組むことのできる種目「ゴルフ」をとりあげます。 ゴルフの基本的技術のグループ練習やゲームを通して、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方法を身につけることを目標とします。</p>	3クラスで運営
		<p>(概要) 現在および将来の自分にとって、特に身体の状態や環境が変わったときに、適度な運動とはどの程度のものなのかを知り、授業以外の場でも自分に運動処方できるようになることを目指します。</p> <p>(07クラス 森河 亮) サッカーを用いて、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。 サッカーは、激しいボディコンタクトが許されており、女性や体の弱い人が参加することは難しいという印象を受けがちなスポーツです。しかし、フットサルに見られるように、①オフサイドをなくす ②ボディコンタクト、対人へのスライディングを禁止する ③交代を無制限にする など、ルール設定を変化させることで、①選手一人のボールタッチ回数が増える ②怪我をしにくい ③室内でも行える などの利点が生じます。このように競技ルールの変化によって、様々な競技レベル・性別・場所などでスポーツの実践が可能になることを体験し、これらのスポーツ活動を自らの心身の健康づくりに役立てられる能力の育成を目指します。また、サッカーはチームスポーツであるため、コミュニケーションスキルの習得も目的としています。</p> <p>(02・03クラス 伊藤 数馬) 健康の維持・増進にとって運動・スポーツ実施が必要なことを我々は十分に理解していますが、必ずしも積極的に実施しているとは言えない状況にあります。そこで、生涯にわたって運動・スポーツ活動に親しむ素養を培うために、実施する種目の基本技術の習得およびルールの理解に重点を置きながら、お互いに協力して楽しく運動・スポーツが行えるよう学習していきます。</p>	3クラスで運営
共通 教育 科目	保健 体育 科目		

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	保健 体育 科目 健康スポーツ実習 (ソフトバレーボ ール)	ソフトバレーボールを用いて、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。ソフトバレーボールは、6人制のバレーボールとは異なり、軟らかいボールを使用し、ネットの高さも低く、4人制で男女ミックス、大人と子供のミックスなど独特の競技方法がとられている特長があり、生涯にわたって行うことができるスポーツです。この授業では、ソフトバレーボールの基本的技術やゲーム戦術、ルールを学び、ソフトバレーボールの競技の楽しさを実感することを目的としています。また、技術練習や戦術練習をグループで工夫して行うことや、ゲームを通じて他者とコミュニケーションを図ることなどの重要性の学習も目的としています。	
共通 教育 科目	保健 体育 科目 健康スポーツ実習 (ソフトボール)	野球・ソフトボールなどの攻守交替型の球技は、サッカー・バレーボールなどと比較すると、特に、攻撃時においてプレイに直接的にかかわることが少なくなる局面があらわれます。チームプレイが必要な集団競技とはいえ、自分の打順が回ってきそうにないインニングには、ともすれば自チームのプレイから注意がそれてしまうことがあります。 この授業では、社会的健康を成熟したチームとして機能することと捉えます。この場合、自他の能力を本質的に理解することが必要とされますが、ここでは、まず他人のプレイに注意を向け、見ることで、そして、すごいな、うまいな、というレベルにとどまることなく、これを分析することに主眼をおきます。幸いにして野球型の種目では、1プレイ1プレイを記録する方法が確立されており、また他人のプレイを観察できる時間的余裕もあります。ゲームにおいては、チームメイトのパフォーマンスを記録し、これを分析し、各人の特性を生かしたプレイについてのコメントや助言を行える関係を形成していきます。 キャッチングやスローイング、バッティングなどの基本スキルは、部分練習も行いますが、多くはシートバッティング（守備位置についた実戦的バッティング練習）の中で習得してもらいたいです。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	保健 体育 科目	<p>(概要) 現在および将来の自分にとって、特に身体の状態や環境が変わったときに、適度な運動とはどの程度のものかを知り、授業以外の場でも自分に運動処方できるようになることを目指します。</p> <p>(17・18クラス 西村 一樹) 卓球を用いて、人間関係の健康のために適切な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。将来に渡って、自己のライフステージや心身の状態に応じて、それぞれに適したスポーツを生活に取り入れ、豊かで健康的なライフスタイルを形成する能力を養うことを目的とします。 卓球という比較的気軽に行える教材を通して、健康増進を図ると共に、スポーツの持つ特性である自然発生的コミュニケーションにより、円滑な人間関係を形成できるようにします。また、技能の向上へ向け、創意工夫しながら挑戦する気持ち、勝利への追求心、共同・協力の精神などの涵養も図っていききたいです。もちろん、スポーツ本来の目的である「楽しさ」も十分に味わってほしいです。</p> <p>(11・12クラス 坂井 学) 卓球を用いて、人間関係の健康のために適切な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。将来に渡って、自己のライフステージや心身の状態に応じて、それぞれに適したスポーツを生活に取り入れ、豊かで健康的なライフスタイルを形成する能力を養うことを目的とします。 卓球という、比較的気軽に行える教材を通して、健康増進を図ると共に、スポーツの持つ特性である、自然発生的コミュニケーションにより、円滑な人間関係を形成できるようにします。また、技能の向上へ向けて、創意工夫しながら挑戦していく気持ち、勝利への追求心、協同・協力の精神などの涵養も図っていききたいです。もちろん、スポーツ本来の目的である、「楽しさ」を十分に味わってほしいです。</p>	4クラスで運営
		<p>(概要) 現在および将来の自分にとって、特に身体の状態や環境が変わったときに、適度な運動とはどの程度のものかを知り、授業以外の場でも自分に運動処方できるようになることを目指します。</p> <p>(13・14クラス 関矢 寛史) テニスは老若男女を問わず自分の体力や性格に合わせて生涯に渡って楽しめるスポーツです。この授業は初心者を対象としたもので、テニスの基礎から試合のルールやマナーまで学びます。そして、自分の体力や性格に合ったプレイを選択し遂行するための素地を養い、健康の維持・増進のための生涯スポーツへとつなげることを目標とします。また、人と協力して練習や試合ができるようになることを目標とします。 また、雨天時にはテニスコートが使用できないため、体育館などで卓球、体カトレーニングなどを行ないます。</p> <p>(51・52クラス 武田 守弘) テニスを用いて、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。</p>	4クラスで運営
共通 教育 科目	保健 体育 科目		

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	保健 体育 科目	健康スポーツ実習 (ニュースポーツ)	
共通 教育 科目	保健 体育 科目	健康スポーツ実習 (バスケットボール)	
共通 教育 科目	保健 体育 科目	健康スポーツ実習 (バドミントン)	4クラスで運営
共通 教育 科目	保健 体育 科目	健康スポーツ実習 (ボディワーク)	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	保健 体育 科目 健康スポーツ実習 (Shudo AP)	プロジェクト・アドベンチャーの手法による体験学習を用いて、人間関係の健康のために最適な言動・行動とは何かを探り、人間関係を主とした環境の変化に適応するための方略を学びます。「Shudo AP」とは、広島修道大学(Shudo)アドベンチャー(Adventure)プログラム(Program)の略です。 人は生きていく上で、何となく新しい人間関係を構築していきます。幼少期、小学校、中学校、高校、大学、社会人、それぞれの時期で新たな人と出会うたびに、新たな人間関係を築いていきます。皆さんのこれからにとっては、卒業後、世代を越えた多様な価値観を持った人々と共に仕事に従事する必要があります。このことを考えると、「社会的に良好な人間関係を築き、グループで同じ目標のもとに課題を解決していく能力」を高めることが重要となります。そのために必要なことは何かということを通して身体活動を行いながら学ぶ科目です。 この科目は、集中講義として行います。日頃の生活から離れ、県外の宿泊所での3泊4日の行程で行います。その宿泊所には、エレメントと呼ばれる特殊な施設があります。大人20名近くが一度に乗れる大きなシーソー、ターザンロープ、大人ひとりだけが通り抜けられるくらい大きな穴の空いた人工のクモの巣、などです。また、命綱を使って行う高さ約10mくらいの施設もあります。グループの状況を見ながら、これらの施設を使って学習を行います。例えば、大きなシーソーでは「一度もシーソーを地面に着けずに全員がシーソーの上に乗るなさい」という課題で課題解決活動を行ったりします。その際に、「全員で意見を合わせるために必要なことは何?」「失敗って大事じゃない?」「チームワークに必要なことは何?」などを考え、その答えのきっかけに気付けるとと思います。命綱を使って行う高所での活動では、「自分に挑戦することの重要性」「お互いを信頼するために必要なことは何?」などに気付けると思います。 世間で「社会人として備えておいて欲しい力」などとして耳にすることがある「コミュニケーション能力」「対人スキル」「主体性」「協力・協調性」などについて、体を動かしながら学べる科目です。	
共通 教育 科目	保健 体育 科目 健康スポーツ実習 (アダプテッド・スポーツ)	アダプテッド・スポーツとは、障害のある人はもちろん、幼児から高齢者、体力の低い人であっても、ルールや用具を対象者の特徴に適合(adapt)することによって展開するスポーツ活動のことです。本授業では、様々なアダプテッド・スポーツのルールを学習し、体験していきます。また、特別支援教育に対応できるように、障害の疑似体験者をインクルーシブしてスポーツを行います。このようなことから、アダプテッド・スポーツを理解し、どのように展開していくと、みんなが楽しむことができるのかということの理解を深めていきます。	
共通 教育 科目	保健 体育 科目 運動スポーツ実習 (アクアティックスポーツ)	スキндаイビングやスクーバダイビングで自由に活動するためには、器材の取り扱いに慣れるだけでなく、水中という特殊な環境が身体に及ぼす影響やダイバーが自然に与える影響についての理解が必須となります。そこでは安全に対する高い意識と自然に対する謙虚な姿勢が強く求められます。 この授業では、フィン・マスク・スノーケル・ウェットスーツをはじめとしたダイビング器材を用いて、スキндаイビングとスクーバダイビングの基本的な技術を身につけるとともに、野外(海)で安全に楽しむために必要な知識・技術・態度を最適にコントロールすることを学ぶことで、生涯にわたってスキン&スクーバダイビングを楽しむ態度やマナーを養成します。	
共通 教育 科目	保健 体育 科目 運動スポーツ実習 (エアロビクス)	エアロビクエクササイズを用いて、自己の身体を最適にコントロールすることを学びます。生活や健康に役立つ体力とは何かということを積極的に考え、健康体力づくりの基礎となる有酸素運動の理論をもとに、身近で誰もが楽しめるエアロビクスダンスを実施します。音楽のビートに合わせて仲間と楽しく軽快に全身を動かしてみませんか。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	保健 体育 科目	<p>(概要) スポーツのスキルを習得するとは、そのスポーツ種目に関する「知覚系ー意思決定系ー反応プログラミング系ーフィードバック系」というシステム全体の最適化を意味しています。この科目ではその学習を行い、各種スポーツ種目で巧みに身体を操作することを習得します。</p> <p>(66・67クラス 原 妃斗美) ゴルフを通じてマナー、自主性や指導性、社会性などを身につけることを学びます。 ゴルフは生涯スポーツとしてとらえられ、ジュニアから高齢者、男女問わず愛好者が目立っています。また、原則的に人間対人間の勝負というより、人間がコースという自然と闘うゲームであるゴルフにおいて自らのプレーを自らのレフリーとなって律するという基本精神について実践を通して学びます。</p> <p>(01・02クラス 笠井 達哉) <授業の概要> ゴルフを通じてマナー、自主性や指導性、社会性などを身につけることを学びます。 <授業の目的と方針> ゴルフは生涯スポーツとしてとらえられ、最近特に女性の愛好者が目立っています。 陸上競技やバレーボール・サッカーなどのスポーツにくらべて、大人も子供もまた90歳にもなる老人でも楽しめるスポーツであるのが一番の大きな特色です。また、どんなスポーツにも必ずと言っていいほどレフリーがいるものですが、ゴルフにおいてはレフリーはいません。そこには原則的に人間対人間の勝負というより、人間がコースという自然と闘うゲームであり、お互いの信頼関係を基本にしたスポーツだからです。自らのプレーを自らがレフリーとなって律するという基本精神が前提となっている紳士のスポーツです。従って、ゴルフの技能の習得を介して、この精神を理解し、それを取得、涵養することを最大の目的にします。</p>	4クラスで運営
		<p>(概要) スポーツのスキルを習得するとは、そのスポーツ種目に関する「知覚系ー意思決定系ー反応プログラミング系ーフィードバック系」というシステム全体の最適化を意味しています。この科目ではその学習を行い、各種スポーツ種目で巧みに身体を操作することを習得します。</p> <p>(15・17クラス 伊藤 数馬) 健康の維持・増進にとって運動・スポーツ実施が必要なことを我々は十分に理解していますが、必ずしも積極的に実施しているとは言えない状況にあります。そこで、生涯にわたって運動・スポーツ活動に親しむ素養を培うために、実施する種目の基本技能の習得を前提として、それを応用・発展させることに重点を置きながら、お互いに協力して楽しく運動・スポーツが行えるよう学習していきます。</p> <p>(57クラス 森河 亮) サッカーを用いて、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。 サッカーは成人(Jリーグ等)の90分間という試合時間の中で、選手一人がボールに触れている時間はおよそ3分にかすぎませんが、その3分で如何に良い技術を発揮するかということでの選手の優劣が評価されるスポーツです。また、自分の意思を伝え、相手の意思を理解するというコミュニケーションスキルも重要なスポーツです。このような特性を持つスポーツ種目を教材として、状況に応じた技術を発揮するための個人技術の習得、攻撃・守備における個人戦術、グループ戦術の理解、コミュニケーションスキルの習得を目的として授業を行います。</p>	3クラスで運営
共通 教育 科目	保健 体育 科目		

授 業 科 目 の 概 要 (人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	保健 体育 科目	<p>(概要) スポーツのスキルを習得するとは、そのスポーツ種目に関する「知覚系ー意思決定系ー反応プログラミング系ーフィードバック系」というシステム全体の最適化を意味しています。この科目ではその学習を行い、各種スポーツ種目で巧みに身体を操作することを習得します。</p> <p>(19・20クラス 船瀬 広三) ソフトボールの実践を通して、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるゲームを最適にコントロールすることを学びます。ソフトボールを楽しむための基本的技術を修得して、生涯にわたりスポーツを楽しむ態度を養成し、チームゲームを通して協調性などの社会的スキルを身につけます。</p> <p>(66・67クラス 西村 一樹) ソフトボールの実験を通して、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーからなるゲームを最適にコントロールすることを学びます。ソフトボールを楽しむための基本的な技術を習得して、生涯にわたりスポーツを楽しむ態度を養成し、チームゲームを通して協調性などの社会的スキルを身につけます。</p>	4クラスで運営
共通 教育 科目	保健 体育 科目	<p>(概要) スポーツのスキルを習得するとは、そのスポーツ種目に関する「知覚系ー意思決定系ー反応プログラミング系ーフィードバック系」というシステム全体の最適化を意味しています。この科目ではその学習を行い、各種スポーツ種目で巧みに身体を操作することを習得します。</p> <p>(06・08クラス 磨井 祥夫) 卓球を用いて、自分の身体、ラケット、ボールをコントロールすることを学びます。 卓球は誰にでも手軽にできるスポーツであり、生涯スポーツとして楽しんでいる人も多いようです。また、競技スポーツとしての卓球はボールスピードが速く、それに対応するための敏捷な動きや持久力も必要となっています。卓球の楽しみ方にはいろいろあります。やさしいラリーが続くことを楽しむこともできますし、敏捷な動きとダイナミックなスマッシュで運動不足を解消することもできます。この授業では卓球を教材として取り上げ、基本的な技術とルールを学び、各自の技能に応じた戦術を考え試合で効果的に用いるようにしていきます。また、練習や試合方法を工夫し、それを積極的に実行することで卓球の楽しさを体験します。</p> <p>実習の前半では、卓球の個々の技術の獲得を図り、ボールをコントロールして、ラリーを続けることができるようにします。また、シングルス・ダブルスの試合がスムーズに進行できるようにします。さらに、ハンディ・キャップの設定により、技能差があってもゲームを楽しめるように工夫します。 後半には、団体戦を取り入れて、チームとしていかに戦うかというチーム戦術を創意工夫できるようにします。また、ルールを変えたゲームを取り入れて、チームとして楽しむことや生涯スポーツとしての卓球も考えていきます。</p> <p>(60・61クラス 坂井 学) 卓球を用いて、自分の身体、ラケット、ボールを最適にコントロールすることを学びます。 卓球は誰にでも気軽にできるスポーツであり、生涯スポーツとして楽しんでいる人も多いようです。また、競技スポーツとしての卓球はボールスピードが速く、それに対応するための俊敏な動きや持久力も必要となっています。卓球の楽しみ方には色々あります。やさしいラリーが続くことを楽しむこともできますし、俊敏な動きとダイナミックなスマッシュで運動不足を解消することもできます。この授業では卓球を教材として取り上げ、基本的な技術とルールを学び、各自の技能に応じた戦術を考え、試合で効果的に用いることができるようにします。また、練習や試合方法を工夫し、それを積極的に実行することで卓球の楽しさを体験します。</p>	4クラスで運営

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	保健 体育 科目	運動スポーツ実習 (ダンス)	
		ダンスを用いて、自己の身体や表現性を最適にコントロールすることを学びます。ダンスは、リズムを動きで表現したりリズムカルな動きを楽しむ「リズム型」や具体的な対象を模倣することを楽しむ「模倣型」、形式をもつリズムカルな動きが特徴の「フォークダンス型」や考えや感情、対象を動きによって表現する「創作ダンス型」などがあります。ここでは、そのようなダンスの基本要素(舞踊身体育成法、リズム取り、動きのスケッチ、即興、構成法など)を学習すると共に、ヒップホップやジャズダンスなどの現代的なダンスの動きを習得し、仲間と楽しくダンスの創作や発表ができるようになることを目的とします。	
共通 教育 科目	保健 体育 科目	運動スポーツ実習 (テニス)	4クラスで運営
		(概要) スポーツのスキルを習得するとは、そのスポーツ種目に関する「知覚系-意思決定系-反応プログラミング系-フィードバック系」というシステム全体の最適化を意味しています。この科目ではその学習を行い、各種スポーツ種目で巧みに身体を操作することを習得します。 (02・03クラス 武田 守弘) テニスを用いて、からだどこを最適にコントロールすることを学びます。 近年、テニスは、季節や年齢を問わない、少人数で可能、コートも普及し安価であるなどの理由から、レクリエーションスポーツの代表となっており、生涯を通じて楽しむことができる競技です。しかし、学校体育の教材として取り入れられることが少ないため、未経験の人が多いため、そこで本授業を通して、スキルの習得、ルールの理解、ゲーム実践を行い、今後自ら積極的にテニスに参加するための動機づけとなることを目標としています。 授業の中でスキルテストを複数回を行い、熟達過程を確認します。また、毎授業終了時には、確認シートに本日の取り組みを記入し、スキルの獲得状況を明確化します。 さらに、団体戦での勝利に向けて、グループ内の相互理解を通して、問題解決能力や団体意識を養うことを目標としています。 なお、雨天時などテニスコートが使用できない場合は、体育館や卓球場などで運動を行います。 (63・65クラス 関矢 寛史) テニスは老若男女を問わず生涯に渡って楽しめるスポーツです。この授業は初心者を対象としたもので、テニスの基礎から試合のルールやマナーまで学びます。また、人と協力して練習や試合ができるようになることを目標とします。 また、雨天時にはテニスコートが使用できないため、体育館などで卓球、体力トレーニングなどを行いません。	
共通 教育 科目	保健 体育 科目	運動スポーツ実習 (バスケットボール)	
		バスケットボールを用いて、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。 チームプレイは、個々のプレイヤーの動作(走る、跳ぶ、止まる、向きをかえる、投げる、捕る、ころがすなど)の相互作用によって成立しています。このときのプレイヤーの関係には、①ボール保持者と非ボール保持者、②非ボール保持者と非ボール保持者という2つがあります。このことはチームプレイには最低3人が必要であることを示しています。現在のバスケットボールのチームプレイは、カットインプレイとスクリーンプレイの少なくとも一方を含んで構成されています。プレイヤーは、カットインをするか、スクリーンをするか、何もしないかによって相互作用を行うのです。授業では、チームとして、カットインやスクリーンを用いてディフェンスラインを破った状態でシュートをするための学習を行います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	保健 体育科目	<p>（概要）スポーツのスキルを習得するとは、そのスポーツ種目に関する「知覚系－意思決定系－反応プログラミング系－フィードバック系」というシステム全体の最適化を意味しています。この科目ではその学習を行い、各種スポーツ種目で巧みに身体を操作することを習得します。</p> <p>（13・14クラス 長谷川 博） バドミントンを用いて、ラケット及びシャトルを巧みにコントロールし、自分の身体を最適にコントロールすることを学びます。また、バドミントンの基礎的な技術、戦術及びルールを学習し、シングルス及びダブルスゲームを楽しめるようになることを目的とします。さらに、授業を通してマナーや協調性などの社会的スキルを身につけることを目的とします。</p> <p>（11・12クラス 緒方 知徳） バドミントンを通して、身体を最適にコントロールすることを学びます。サーブやスマッシュ、ドロップ、ドライブといったバドミントンの個人技術を身につけ、ゲームとしてバドミントンをより楽しむことを目的とします。また、どのようにすればゲームに勝てるかの戦略を考え、シングルスやダブルスゲームを行っていきます。バドミントンでは、「目では見えていけど身体が動かない」、「当てたつもりなのに空振りをした」、「練習しているうちにいつの間にか頭で考える前に身体が動くようになった」などを経験することがあります。本授業では、こういったスポーツで経験する身体と脳の不思議や健康への貢献についても学んでいきます。</p>	4クラスで運営
共通 教育科目	保健 体育科目	<p>バレーボールを用いて、練習方法と指導方法の関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。バレーボールのルールや審判法を学びます。バレーボールのサーブ、レシーブ、パス、スパイク、ブロックなどの基本的技術を習得し、生涯にわたりスポーツを楽しむ態度を養成し、身体運動を通して社会的スキルを身につけます。</p>	
共通 教育科目	保健 体育科目	<p>ボディーワークを用いて、からだの健康（または、こころの健康、人間関係の健康）のために最適な運動行動とは何かについて学習します。授業では、適度な運動を通して気分がすっきりしたり心地よく感じる動きを体感しながら、しなやかな体づくり（滑らかに柔らかかに動ける身体）、きれいな姿勢づくりを目指します。ヨガやクラシックバレエの基礎的な動きを基に、音楽に合わせたゆるやかな動きやリズムカルな動きなど、自分の身体と向きあう課題を行います。誰もが楽しめるボディーワーク、仲間と楽しめるボディーワークを実施します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	保健 体育科目	野外運動実習Ⅰ (キャンプ)	<p>「はじめチョロチョロ、なかパッパ、...グツグツいたら火をひいて、...赤子泣くともフタとるな。」これは、炊飯器のマイクロコンピュータの中に隠されてしまった先人たちの「日常」です。この授業は、山の中で生活することによって、このようなブラックボックスと化した日常を手作業で行います。しかし、これは決して歴史への逆行や単純に「不便さ」を求めるものではありません。それは、「便利さ」をもたらす科学技術へのより深い理解を目指した学習なのです。また、私たちはふだん雑菌の中で生活していることをほとんど気に留めていませんが、山の中では、ちょっと気を許すと、食料は傷み寝床は虫だらけ、ということになってしまいます。ゴミを片付けたり、清潔に整理整頓しておくことは、けっして環境のためだけではありません。環境問題はきつと私たち人間にはね返ってくるということを切実に想い起こさせてくれる科目です。</p> <p>大自然は逆らおうとする者には激しく牙を剥き、友達でいようとする者には優しく応えてくれます。山での生活は、人間がまさに大自然の一部であることを感じさせてくれるでしょう。大自然の懷に抱かれて、PC・スマホゲームやカラオケボックス・テレビ・漫画以外の楽しいことを「同じ釜の飯を喰う」仲間とともにたくさん見つけてみましょう。</p>
共通 教育科目	保健 体育科目	野外運動実習Ⅰ(スキー)	<p>この科目では、冬のスポーツであるスキーをとりあげ、雪の上という日常生活の運動場面と異なる環境における最適な身体の使い方について学習します。これは、各スポーツ実習の授業では習得できない身体のコントロール方法です。初めてスキー板を履く人、スキーを始めたばかりの人について、重心線が常に2本のスキー板の間にある安定したポジションで、スピードコントロールをしながら安全に、山の頂上から麓まで滑って降りられるようになることを目標とします。一方、野外運動実習Ⅱ(スキー発展)においてパラレルポジションでのターンを習得した人については、ブルークポジションで左右のエッジをすばやく切り替えることによる、より短いタイミングでのターンの習得を目標とします。いずれも、しっかりと「谷足にのる」感覚を身につけてください。</p> <p>また、広島近辺のスキー場ではスノーボーダーの数が増え、事故も増えています。そこで、スキーを行うときの安全対策(スキー場でのマナー・コースの選定など)についての知識を実践的に獲得することも目的とします。</p>
共通 教育科目	保健 体育科目	野外運動実習Ⅱ (キャンプ発展)	<p>この科目は、野外運動実習Ⅰ(キャンプ)で行う、テントの設営と撤営、鉈を用いた薪割り、かまどにおける火起こしと炊事、などのいわば理論的側面を主に扱います。「理論」といっても机の上で行うのではありません。理論化するということは、体系的に言語化するという事です。</p> <p>ほかの人に伝えようとしても、内容が十分に理論化されていない場合は、聞いている人が「ん?!」という顔をします。</p> <p>この授業では、テントを張る順番がなぜ決まっているのか、ご飯が炊けるとはどういうことなのか、火や鉈がこの上もなく危険なものとなるのはどういときか、などを体系的に言語化し、「整理」して、キャンプⅠの受講者にわかりやすく「伝達」することの学習を行います。</p> <p>また、Ⅰにはない、ロープワーク、クラフト、ナイフや鉈の手入れ、見えない相手との通信方法などの学習も予定しています。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	保健 体育科目 野外運動実習Ⅱ(ス キー発展)	この科目では、冬のスポーツであるスキーをとりあげ、雪の上という日常生活の運動場面と異なる環境における最適な身体の使い方について学習します。これは、各スポーツ実習の授業では習得できない身体のコントロールです。 スキー発展では、クロスオーバーのあるターンができるようになることを基本とし、そのターンを基にした大回りのパラレルターン・小回りのパラレルターンの習得を目標とします。また、新雪や不整地など様々な状況に合わせた滑り方の学習も行います。さらに、板をずらさないカービングターンについても学習します。 また、広島近辺のスキー場ではスノーボーダーの数が増え、事故も増えています。そこで、スキーを行うときの安全対策(スキー場でのマナー・コースの選定など)についての知識を実践的に獲得することも目的とします。	
主専 攻科目	総人 合文学 科目部	差別問題論 《社会問題としての差別》は、いつか・どこかにあるものではありません。それは、私たちをとりまく具体的な日常の関係性・常識などの中に見ることができるのです。差別問題は社会的なことがらであるにもかかわらず、「傷つく」などといった、個人的な「心(心がけ)」の問題として語られることの方が多く、さらには、非日常的な、私たちから遠いものとして処理されています。ところが、こういったとらえ方自体に差別問題を考えていく際のポイントがあるのです。まずは、「差別とは何か?」から考えはじめることが求められます。 本講義では、部落差別、性差別、障害者差別、民族差別等々の構造を社会科学的に明らかにすることで、上に述べたことを検証していきます。 なお、講義の各時間終了後に感想・意見・質問をコミュニケーションカードに書いてもらい、それに対して次の時間に応えます。また受講生同士の紙上討論を展開していく、といったコミュニケーションシステムをとります。	
主専 攻科目	総人 合文学 科目部	日本文化史Ⅰ 一口に「日本文化」といっても様々なジャンルがありますが、この授業では、学生が資料を入手しづらく自学自習しづらいと思われるジャンルの1つである、芸能に的をしぼって取り上げます。	
主専 攻科目	総人 合文学 科目部	日本文化史Ⅱ 一口に「日本文化」といっても様々なジャンルがありますが、この授業ではⅠをさらに発展させ、学生にとって資料が入手しづらく自学自習しづらいと思われるジャンルの1つである「芸能」に的を絞って取り上げます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	総 合 科 目 人 文 学 部	Media English I	4クラスで運営
		Media English II	4クラスで運営

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	総 合 科 目 人 文 学 部	<p>(概要) ビジネスの世界で使用される英語について学びます。</p> <p>(01クラス 西本 純子) 顧客との電話での対応や次のプロジェクトの打ち合わせといった実務的な場面とレストラン・ショッピングのような日常的な場面で作られる実用英語を、TOEICの各パートの問題を解きながら習得していきます。各章のトピックに関する語彙を確認し、最低各章で使用されている表現は覚えましょう。リスニングセクションとリーディングセクションは、学習が単調にならないように、交互に演習を進めていきます。 リスニングセクションのPart1と2には、直接スピーキングで使えるフレーズが多く出てきますので、イメージしながら単語単位ではなく、使える形で、つまり、フレーズ毎におぼえていってください。 リーディングPart5も、文法問題の確認だけでなく、スピーキングにおいて表現の幅を増やすのに役立ちますので、できるだけ覚えていきましょう。 このように、リスニングセクションとリーディングセクションを、効率よく運動させて総合的に実践的な英語の向上に努めましょう。</p> <p>(02クラス 村上 増美) 本科目は、TOEIC強化科目と位置付けられています。そのため、主に、TOEICスコア向上のための訓練をテキストに沿ってやります。又、時間が許す限り、ビジネス英語についての練習問題もやります。</p> <p>(03クラス 水野 由美) TOEIC対策となりうるリスニング、リーディング教材を用い、ビジネス英語の語彙や表現を学ぶこと、ビジネス英語の運用能力を高めることを目標とします。とりわけ語彙力の強化を図ります。 テキストに添って、リスニング、リーディング問題を解きますが、リスニング問題には、必要に応じて、ディクテーションを加え、内容がわかるように配慮していきたいと考えています。また、リーディング問題は、どこが問題なのか、どこを読めばポイントがわかるのかなどがはっきり理解できるように、説明を加えながら進めていきたいと思ひます。文法の難しいものに関しては、プリントなどで更に強化していきます。語彙力を高める為の小テストも行います。</p>	3クラスで運営
		<p>(概要) ビジネスで使用される英語について学びます。</p> <p>(01クラス 西本 純子) 前期と同様、トピック別にTOEICの各パートを扱いますが、問題を多く解くことによって、より実践的な力を強化します。専門的な英語はTOEICでは要求されません。しかし、実社会で働くことを念頭に置いて、大学生として知っておくべき常識的な用語は習得しておいてください。リスニングセクションとリーディングセクションは、学習が単調にならないように、交互に演習を進めていきます。 読解の苦手な人は、リスニングのPart4のスク립トをしっかり読み込んでください。このPartは、リスニングの向上の演習にとどまらず、リーディングセクションに出てくるトピックについて語っていますので、話題の展開をつかむ練習にもなります。 リーディングPart7は、Part5で学んできた表現がキーフレーズになっていることが多いので、前期習得した知識をもとにして、要点をおさえて長文を速読する力を養いましょう。</p> <p>(02クラス 村上 増美) 本科目はTOEIC 強化科目と位置付けられています。そのため、主にTOEICのスコア向上のための訓練を、テキストに沿って行います。又、時間が許す限り、ビジネス英語についての諸問題もやる予定です。</p> <p>(03クラス 水野 由美) TOEIC対策となりうるリスニング、リーディング教材を用い、ビジネス英語の語彙や表現を学ぶこと、ビジネス英語の運用能力を高めることを目標とします。特に、語彙の強化を図ります。 テキストに添って、リスニング、リーディング問題を解きますが、リスニング問題には、必要に応じて、ディクテーションを加え、内容がわかるように配慮していきたいと考えています。また、リーディング問題は、どこが問題なのか、どこを読めばポイントがわかるのかなどがはっきり理解できるように、説明を加えながら進めていきたいと思ひます。文法の難しいものに関しては、プリントなどで更に強化していきます。語彙力を高める為の小テストも行います。</p>	3クラスで運営

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目	人文学部 総合科目	<p>(概要) 日本国憲法が採用する統治システムの歴史的・思想的背景を明らかにしていきます。</p> <p>(01・02クラス 西村 裕三) まず、憲法の歴史的発展過程を概観し、権力分立制や人権保障の観点から近代立憲主義と現代立憲主義の相違について明らかにします。 次に、憲法を単なる政治的規範としてではなく、裁判規範として具体的な事件に解釈・適用する上で不可欠な制度として、司法審査制(裁判所が法律等の合憲性を最終的に審査する制度)について、それが生まれたアメリカでの歴史的発展過程を概観し、その民主的正当性をめぐる問題を検討します。 その上で、日本国憲法における司法審査制の概要を説明し、裁判所が法律等の合憲性を審査する方法ならびに基準について、具体的な事例を取り上げながら、解説します。さらに、最高裁判所が法律等を違憲とした重要な判例を順次紹介し、最近の注目すべき下級裁判所による違憲判決についても取り上げます。</p> <p>(03クラス 井上 一洋) まず、近代立憲主義について学びます。次に日本の司法審査制の概要を学び、その上で重要判例の検討を通じて日本国憲法が保障する基本的人権についての理解を深めます。</p>	3クラスで運営
主専攻科目	人文学部 総合科目	<p>(概要) 人権保障のために憲法をいかに解釈すべきかについて考えていきます。</p> <p>(01・02クラス 西村 裕三) まず、憲法の歴史的発展過程を概観し、権力分立制や人権保障の観点から近代立憲主義と現代立憲主義の相違について明らかにします。 次に、憲法を単なる政治的規範としてではなく、裁判規範として具体的な事件に解釈・適用する上で不可欠な制度として、司法審査制(裁判所が法律等の合憲性を最終的に審査する制度)について、それが生まれたアメリカでの歴史的発展過程を概観し、その民主的正当性をめぐる問題を検討します。 その上で、日本国憲法における司法審査制の概要を説明し、裁判所が法律等の合憲性を審査する方法ならびに基準について、具体的な事例を取り上げながら、解説します。さらに、最高裁判所が法律等を違憲とした重要な判例を順次紹介し、最近の注目すべき下級裁判所による違憲判決についても取り上げます。</p> <p>(03クラス 井上 嘉仁) わたしたちは憲法で人権保障されていなくても、うまれながらに自由だ! そう考えるのなら、憲法はなぜ人権保障をしているのでしょうか? 憲法は権利の保障のみならず、国家を治める基本的な仕組みも定めています。ひとつの法典に、権利の保障と統治の仕組みが併記されているのはなぜでしょうか? この講義を通じて、国家権力の濫用抑止のための諸原理を考察しましょう。</p>	3クラスで運営
主専攻科目	人文学部 総合科目	<p>ビジネス最前線でプレゼンテーションし、受ける側にある講師が、解説～実習を繰り返し、プレゼンテーションスキルを上げていきます。 ※特にテレビ、web、新聞などを中心に情報伝達のプロモースメディアの伝え方を紹介します。 一方的な「発表」から意思決定者を動かす「プレゼンテーション」に変える手法を体得します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部教育学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
主 専 攻 科 目	総 合 人 文 学 部 科 目	人文学部特別演習 (崩し字解説)	崩し字表記は、決して過去の遺物ではなく、現在でも、市井の店の暖簾や商品の包装紙などに活用されている例がよく見られます。この授業では、古典文学作品の古写本に記された、平仮名を中心とした色々な崩し字を解説するトレーニングを行います。	
主 専 攻 科 目	総 合 人 文 学 部 科 目	インターンシップ	<p>人文学部インターンシップでは、国際交流分野、福祉分野、および地域理解分野にインターンを派遣します。国際交流分野では、国際的な理解・協力を推進するために、国際交流の実態を学ぶとともに、日本を訪れた外国人が日本をよりよく理解するための支援活動にも参加します。福祉分野では、高齢者や障害者といった社会的弱者を支援するために、行政、市民、ボランティアがどのように関わっているのかを学ぶとともに、福祉施設で援助に携わります。地域理解分野では、広島という地域をよりよく理解するために、伝統的な活動の一端を学ぶとともに実地体験します。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 腮尾尚子/6回) 実習前授業(事前指導)</p> <p>(15 腮尾尚子・21 大庭宣尊・44 高田峰夫・79 J.M Ronald/6回)(共同) 実習先の概要に関する説明、実習</p> <p>(15 腮尾尚子・21 大庭宣尊・44 高田峰夫・79 J.M Ronald/2回)(共同) 実習後の授業(事後指導)</p> <p>(15 腮尾尚子・21 大庭宣尊・44 高田峰夫・79 J.M Ronald・68 水野和穂/1回)(共同) 報告会でのプレゼンテーション</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)
主 専 攻 科 目	演 習 専 攻 科 目 群	教育学基礎演習	新聞・雑誌・テレビ・ラジオあるいはインターネット各種サイトなどで報じ・論じられているトピックのうち、直接的に教育、学校などと関連づけられたものでなくとも、気になったものを各自持ち寄り、それらのどのような点が、どのように気になるのかを発表します。発表をうけて、そうしたトピックスが「教育」あるいは「人間形成」にとってどのような意味をもつのかをめぐって討議を進めながら、教育学的問題意識をもって日常世界を読み解く力(教育学的文読能力)を身につけます。	6クラスで運営 共通シラバス
主 専 攻 科 目	演 習 専 攻 科 目 群	教育研究演習 I	教育に関わる者に求められる資質は、既成の知識・技術を伝達する能力がすぐれているだけでなく、むしろそれ以上に、新しく現れてくることに対して、他者とともに興味を持って調査し、分析し、理解していくこととする柔軟な思考力と行動力を持つことです。本演習では、そのような能力を養う基礎として、教育に関する幅広い事象について、学問的に読む・書く・聴く・議論する・解析するという総合力を磨くことをめざします。	14クラスで運営 共通シラバス

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部教育学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
主 専 攻 科 目	演 習 科 目 群 専 攻 科 目	教育研究演習Ⅱ	本演習では、教育研究演習Ⅰに引き続き、教育に関する幅広い事象について、読む・書く・聴く・議論する・解析するという総合力をさらに磨くことをめざします。特に参加メンバー相互間での議論を通じた批判的思考力の育成に重点を置き、3年次以降の専門的な演習、さらに卒業研究へとつなげることを念頭に置きます。	14クラスで運営 共通シラバス
主 専 攻 科 目	演 習 科 目 群 専 攻 科 目	教育学演習Ⅰ	<p>(概要) 教育に関する問題について発表とディスカッションと振り返りを通して、主体的な学びを創っていきます。</p> <p>(01クラス 大庭 宣尊) 現代日本において、どのような教育現象が人々の関心を集め、「問題」として構成されているのか。また、あることがらを「あるべき状態からの逸脱」として問題構成するにあたって、どのような語彙が用いられ、そこにどのようなポリテイクスを観察しうるのか。各自の関心に沿いながら、教育現象の切りとられ方、教育問題の構成のされ方、語られ方を解剖していくとともに、各ケースの間の異同を分析の対象としていきます。 具体的には各自の関心に基づく研究発表とそれに関する討議によって進めていきます。各自は討議で得られた新たな知見・視座をもとに、研究のさらなる深化を計っていきます。</p> <p>(02クラス 岡本 徹) 各自の研究テーマをしぼるべく、各自の興味関心にそって文献や資料を収集し、報告してもらいます。アプローチの視点としては政策論、行政論、制度論などが中心となります。一回の演習で2人の報告を標準とし、合宿なども積極的に行います。</p> <p>(03クラス 旧カリキュラムのみ開講予定)</p> <p>(04クラス 笹尾 省二) 「学校論」をテーマにさまざまな文献を読み、特に歴史的な視点からの教育問題へのアプローチの方法を身につけることをめざします。戦後の日本学校史に関する数種類のテキストを設定し、メンバー各自が読みこんだ上で、担当者が順番に報告を行い、共同討議を進めるといった形をとります。</p> <p>(05クラス 相馬伸一) 20世紀、とりわけ第2次世界大戦後は、「教育爆発」の時代と呼ばれています。実際、私たちの生きる時代に、歴史上はじめて、学校教育を中心とした社会制度としての教育がグローバルな規模で普及しました。教育は無条件に善とされ、知識の普及が社会発展に結びつくと思われてきました。しかし、この「教育信仰」は「教育過剰」を生み、教育は、本来、一人ひとりの人間に自己実現の機会を得させるように助力するべきであるはずが、実際のところは新たな選別・差別化の装置となっています。この過程で、学習者の内発的な意欲が失われてきたことが、今日の教育問題と背景の一つにあげられています。本演習では、教育を学習者の側に立ってとらえなおすことを試みます。</p> <p>(06クラス 森川 潤) ①問題関心・課題意識の発掘 1)ゼミ生は、関心・興味のある問題を10題えらび、レジメを作成し、演習において報告してもらいます。 2)ゼミ生は、10題に関する討議をおし、みずから問題関心、課題意識を発掘します。 3)ゼミ生は、みずからの問題関心、課題意識にそって、先行研究を渉猟します。 4)ゼミ生は、みずからの問題関心、課題意識にそって、論文を選択し、レジメを作成し、演習において説明してもらいます。 5)ゼミ生は、論文の内容に関する討議をおし、問題関心、課題意識を先鋭化させます。 6)ゼミ生は、論文の熟読をくりかえし、半年間の学習成果をレポートとしてまとめます。 ②問題関心・課題意識の先鋭化 ゼミ生は、旺盛な好奇心をもって、みずからの問題関心・課題意識を発掘し、先鋭化させます。</p>	14クラスで運用

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	演 習 科 目 群	<p>教育学演習 I</p> <p>(07クラス 山川 肖美) 本演習では、各自が持っている教育学的関心を発表と討議により深めていきます。それと併行して、卒業論文に援用できる研究方法の提案もします。具体的には、文献研究や事例研究の手法、統計調査収集の方法や解説の仕方を体験的・実践的に学んでもらいます。こうした労作を通じて、卒業論文の作成に資する自律的な学習方法を修得してほしいです。 授業は主に発表と討議の形式で進めていくため、授業の質は発表の出来・不出来が左右するといっても過言ではありません。発表者は責任を持って担当回に臨んでほしいです。納得できるレベルでの発表内容になるためには、授業外での学習活動も重要であり、多くの文献を読み、積極的に教員に助言・指導を求めてほしいです。 なお、各自の教育学的関心をより深めるために、2コマ続きの授業や終日あるいは宿泊つきの合宿なども実施する予定です。</p> <p>(08クラス 木村 恵子) 教育に関する各自の関心や問題意識は本来これまでの学習者としての体験や感覚と密接につながっているものです。自己の教育に関する知識をひろげ興味や関心を深めることが卒業論文のテーマ設定及び展開に重要です。教育に関係した文献をもとに内容を報告したり、討議したりすることを通して、興味関心から課題意識へ深化発展することを目指します。</p> <p>(09クラス 堀田 哲一郎) 教育に関する問題について発表とディスカッションと振り返りを通して、主体的な学びを創っていきます。</p> <p>(10クラス 西森 章子) 各自の研究テーマを絞っていくために、各自の興味関心にそっていくつかの仮のテーマを設定して文献や資料の収集をし、報告してもらいます。アプローチの視点としては、教育方法学が中心となります。歴史的視点、心理学的視点、実践的視点など様々な角度から、自分の興味を掘り起こしてみてください。</p> <p>(11クラス 谷口 直隆) 各自の問題意識に沿って研究テーマを設定し、文献や資料の収集、発表資料の作成を通して研究方法の基礎を身につけます。また討議を通して、ゼミ生が相互の研究を深めていこうとする態度と姿勢を養います。研究テーマ設定の視点として、主に「教育」と「ことば」を扱います。</p> <p>(12クラス 松崎雅広) 現在の教育に関する諸問題の中から特に教育問題に関するテーマを取り上げて、情報収集、討論、発表などを行います。発表は口頭と文書によって行いますが、この活動を通して分かりやすい発表の方法を学びます。</p> <p>(13クラス 光本 弥生) 各自の興味や特性から、学びたい「何か」を見つけ出し、自分と社会との関わりを踏まえながら、教育の現代的課題について考察する洞察力と論理力を習得します。</p> <p>(14クラス 平田 香奈子) 障害のある子どもへの支援について、関心のあるテーマについて、①それがどのような現状にあるのか②どのような点に関心を持っているのか③そのことについてどのような意見を持っているのか、といった内容をまとめ、レジュメを作成します。それらを発表し、お互いに意見を述べます。その中で、自分の関心のあるテーマを追求していきます。文献検索の方法や、研究の進め方についても指導を行います。</p> <p>(15クラス 菅尾 尚代) 現在の教育に関する諸問題の中から各自の関心に沿う学校教育に関するテーマを取り上げて、情報収集、発表、討議などを行います。発表は、口頭と文書によって行いますが、この活動を通して分かりやすい発表の方法を学びます。</p>	14クラスで運用

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	演 習 科 目 群	教育学演習Ⅱ	(概要) 教育に関する問題について発表とディスカッションと振り返りを通して、主体的な学びを創っていきます。
			<p>(01クラス 大庭 宣尊) 現代日本において、どのような教育現象が人々の関心を集め、「問題」として構成されているのか。また、あることがらを「あるべき状態からの逸脱」と問題構成していくにあたって、どのような語彙が用いられ、そこにどのようなポリテクスを観察しうるのか。各自の関心に沿いながら、教育現象の切りとられ方、教育問題の構成のされ方、語られ方を解剖していくとともに、各ケースの間の異同を分析の対象としていきます。 具体的には、各自の関心に基づく個別研究発表とそれに関する討議によって進めていきます。</p> <p>(02クラス 岡本 徹) 各自の研究テーマを決定して文献や資料を収集し、レポートしながら、卒論のテーマを絞り込んでいきます。一回の演習で2人の報告を標準とし、合宿なども積極的に行います。</p> <p>(03クラス 旧カリキュラムのみ開講予定)</p> <p>(04クラス 笹尾 省二) 各自の問題関心にしたいがい、それぞれ研究テーマを設定し、報告と共同討議によって進めます。卒業研究(卒業論文)に向けて、自分の感覚と体験を大切に、常に「なぜ?」という疑問を持つことを心がけ、「これだ!」と思えるテーマを見つけてほしいです。 なお、この時間を利用して、4年生から就職活動の体験談を聞く機会を設けます。</p> <p>(05クラス 相馬伸一) 20世紀、とりわけ第2次世界大戦後は、「教育爆発」の時代と呼ばれています。実際、私たちの生きる時代に、歴史上はじめて、学校教育を中心とした社会制度としての教育がグローバルな規模で普及しました。教育は無条件に善とされ、知識の普及が社会発展に結びつくと思われてきました。しかし、この「教育信仰」は「教育過剰」を生み、教育は、本来、一人ひとりの人間に自己実現の機会を得させるように助力するべきであるはずが、実際のところは新たな選別・差別化の装置となっています。この過程で、学習者の内発的な意欲が失われてきたことが、今日の教育問題と背景の一つにあげられています。本演習では、教育を学習者の側に立つてとらえなおすことを試みます。 この演習は、広い意味での人間関係をととした「学び」を共通テーマとし、演習参加者がそれぞれトピックを決め、それに基づいた発表と討論によって進められます。</p> <p>(06クラス 森川 潤) 問題関心、課題意識の発掘 1)ゼミ生は、関心・興味のある問題を10題えらび、レジュメを作成し、演習において報告していきます。 2)ゼミ生は、10題に関する討議をおし、みずから問題関心、課題意識を発掘していきます。 3)ゼミ生は、みずからの問題関心、課題意識にそって、先行研究を渉猟していきます。 4)ゼミ生は、みずからの問題関心、課題意識にそって、論文を選択し、レジュメを作成し、演習において説明してもらいます。 5)ゼミ生は、論文の内容に関する討議をおし、問題関心、課題意識を先鋭化させます。 6)ゼミ生は、論文の熟読をくりかえし、半年間の学習成果をレポートとしてまとめます。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	演 習 科 目 群	専 攻 科 目	14クラスで運用
			<p>(07クラス 山川 肖美)</p> <p>本演習では、各自が持っている教育学的関心を発表と討議により深めていきます。それと併行して、卒業論文に援用できる研究方法の提案もします。具体的には、文献研究や事例研究の手法、統計調査収集の方法や解説の仕方を体験的・実践的に学んでもらいます。こうした労作を通じて、卒業論文の作成に資する自律的な学習方法を修得してもらいたいです。</p> <p>授業は主に発表と討議の形式で進めていくため、授業の質は発表の出来・不出来が左右するといっても過言ではありません。発表者は責任を持って担当回に臨んでください。納得できるレベルでの発表内容になるためには、授業外での学習活動も重要であり、多くの文献を読み、積極的に教員に助言・指導を求めてほしいです。</p> <p>なお、各自の教育学的関心をより深めるために、2コマ続きの授業や終日あるいは宿泊つきの合宿なども実施する予定です。</p> <p>(08クラス 木村 恵子)</p> <p>教育に関する各自の関心や問題意識は本来これまでの学習者としての体験や感覚と密接につながっているものです。自己の教育に関する興味や関心の所在を見つめ、文献や資料を収集し、報告したり討議したりすることを通して、自分の課題意識の方向性を見定めることをめざします。具体的には個別の研究発表と討議によって進めていきます。</p> <p>(09クラス 堀田 哲一郎)</p> <p>各自の研究テーマをしぼるべく、各自の興味関心によって文献や資料を収集し、報告してもらいます。</p> <p>(10クラス 西森章子)</p> <p>各自の仮のテーマを設定して、分析を進めながら、卒論のテーマとしての妥当性の検討やテーマとするならばどの部分を中心に研究を進めるか等の目途をつけます。アプローチの視点としては、歴史的視点、心理学的視点、実践的視点など様々な角度からみた教育方法学が中心となります。</p> <p>(11クラス 谷口 直隆)</p> <p>「教育学演習Ⅰ」に続いて研究を進めていく上で、研究自体を修正したり検討したりする力を身につけます。研究テーマを設定し、研究計画を立て、研究を進めます。研究の経過や結果をゼミの中で報告し、研究の目的と方法の妥当性などについて検討を行います。また、問題・課題の設定についても見直しを行います。</p> <p>(12クラス 松崎雅広)</p> <p>各自の興味関心により研究テーマを設定します。文献や資料を収集し、報告と発表を行いながら、卒論のテーマを絞り込んでいきます。</p> <p>なお、この時間を利用し、4年生から就職活動の体験談を聞く機会を設けます。</p> <p>(13クラス 光本 弥生)</p> <p>各自の研究テーマを決定して文献や資料を収集し、レポートしながら、卒論のテーマを絞り込んでいきます。また、グループ討議では、要点や目的を意識しながら、他者との違いを明確にしつつ、その時点での結論や意見を導き出すことを目的とします。</p> <p>(14クラス 平田 香奈子)</p> <p>関心のあるテーマについて文献を読み進め、その内容についての「現状」と「課題」についてまとめていきます。各自研究を進めるとともに、授業時には順番に発表を行います。自身の発表時には、レジュメを作成することとします。各自の学習を深め、その成果報告書を年度末に作成します。</p> <p>(15クラス 菅尾 尚代)</p> <p>教育学演習Ⅰで設定した各自の研究テーマに関して、詳細な文献や資料の収集、現地調査等を行い、ゼミの中で発表と討議をし、得られた新たな知見や視座をもとに研究の内容を深めます。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	演 習 科 目 群	専 攻 科 目	教育学演習Ⅲ

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	演 習 科 目 群 専 攻 科 目	<p>教育学演習Ⅲ</p> <p>(12クラス 松崎雅広) 現代の日本社会に起こっている教育に関する諸問題の中から、各自の卒論のテーマを決定して幅広い資料や文献を集めて読み込んでいきます。その結果を、ゼミの中で発表、学生間の討論をします。</p> <p>(13クラス 光本 弥生) 教育学演習Ⅱで絞り込まれた研究テーマに関して、自ら問題を発見し、その問題を客観的に分析していきます。文献や実践現場での情報を収集しながら、問題解決のための仮説を設定します。</p> <p>(14クラス 平田 香奈子) 各自関心を持ったテーマについての文献や資料を収集し、熟読します。教育学演習Ⅰ・教育学演習Ⅱでの学習内容を精査しながら、卒業研究のテーマを絞り込んでいきます。</p> <p>(15クラス 菅尾 尚代) 教育学演習Ⅰ・Ⅱを通して設定した各自の研究テーマに関して、詳細な文献や資料の収集、現地調査等を継続的に行い、ゼミの中で発表と討議をし、さらなる研究の深化を図ります。</p>	14クラスで運用
		<p>教育学演習Ⅳ</p> <p>(概要) 教育に関する問題について発表とディスカッションとふり返りを繰り返しながら自己の関心を深めていきます。</p> <p>(01クラス 大庭 宣尊) 現代日本において、どのような教育現象が人々の関心を集め、「問題」として構成されているのか、また、あることがらを「あるべき状態からの逸脱」として問題構成するにあたって、どのような語彙が用いられ、そこにどのようなボリテックスが観察しうるのか。各自の関心に沿いながら、教育現象の切りとられ方、教育問題の構成のされ方、語られ方を解剖していくとともに、各ケースの間の異同を分析の対象としていきます。</p> <p>具体的には、各自の関心に基づく研究発表とそれに関する討議によって進めていきます。各自は討議で得られた新たな知見・視座をもとに、研究のさらなる深化を計っていきます。</p> <p>なお、これらの作業は、卒業研究作成へとつながっていきます。</p> <p>(02クラス 岡本 徹) 教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して設定した各自の研究テーマに関して、これまでの詳細な文献や資料の収集、現地調査等を基礎にして、その集大成としての論文の完成を目指します。</p> <p>(03クラス 旧カリキュラムのみ開講予定)</p> <p>(04クラス 笹尾省二) 演習Ⅲに引き続き、各自の研究テーマにしたがって、問題意識を深め、先行研究の調査、資料の収集などの作業を行い、卒業論文(特別研究)の内容を確定していきます。それを順次報告し、共同討議に付することによって、各自の卒業論文(特別研究)執筆へ向けて、研究を深めていきます。</p> <p>(05クラス 相馬 伸一) この授業は、教育学専攻必修の演習科目です。 教育学基礎演習、教育研究演習、教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、専攻教育科目等をおしてそれぞれの演習参加者が培った教育研究の手法に基づいて、各自が問題関心に基づいた研究発表を行い、討議していきます。</p>	14クラスで運用

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	演 習 科 目 群	専 攻 科 目	
	教育学演習Ⅳ	<p>(06クラス 森川 潤)</p> <p>①研究課題の明確化 ゼミ生は、一定の研究テーマを選択し、みずからの研究課題をより明確にします。</p> <p>②文献・史資料の焦点化された収集 ゼミ生は、文献・史資料の収集を焦点化します。</p> <p>③研究方法の選択 ゼミ生は、先行研究を渉猟することにより、研究課題に適した研究方法を選択します。</p> <p>④研究内容の深化 ゼミ生は、レジュメにもとづき研究の進捗状況を報告し、討議検討することによって、研究内容のさらなる深化をはかります。</p> <p>(07クラス 山川 肖美)</p> <p>本授業は、卒業研究と連動するもので、教育学演習Ⅲに引き続き、自らの教育的関心を深めるためにゼミでの討議と自己研鑽を重ねます。 教員はゼミでの討議や自己研鑽に対して指導・助言を行います。</p> <p>(08クラス 木村 恵子)</p> <p>教育に関する各自の関心や問題意識は本来これまでの学習者としての体験や感覚と密接につながっているものです。自己の教育に関する興味や関心の所在を見つめ、文献や資料を収集し、報告したり討議したりすることを通して、自己の課題と向き合うことをめざします。「教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」にひき続き、本演習でも、受講生各自が自らのテーマを持ち、そのテーマに関して研究を進め、その成果を発表し、討論していきます。</p> <p>(09クラス 堀田 哲一郎)</p> <p>教育学演習Ⅲで設定した各自の研究テーマに関して、卒業論文の完成に漕ぎ着けます。</p> <p>(10クラス 西森章子)</p> <p>教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して自律的に研究した内容を、卒業論文という形にまとめ上げるための最後の研究活動で構成されます。研究を完成させるための追加的研究調査活動や論文にふさわしい表記方法などの修得も行います。</p> <p>(11クラス 谷口 直隆)</p> <p>「教育学演習Ⅲ」に引き続き、各自の研究テーマにしたがって研究を進め、論文として形にすることを目指します。論文の作成に向けてゼミ内で研究経過や研究結果を報告し、討論を通じて研究を深めます。各自の研究の意義や課題についても考察、検討します。</p> <p>(12クラス 松崎雅広)</p> <p>教育学演習を通して設定した各自の研究テーマに関して、これまでの詳細な調査等を基礎にして、卒業研究を念頭に置き、そのまとめとしての論文の完成を目指します。</p> <p>(13クラス 光本 弥生)</p> <p>これまでの学習の集大成として、各自の問題設定を踏まえ、仮説を設定し、その検証や分析結果の提示を行います。さらに、研究結果を整理・説明し、誰もが納得できる合理的根拠と論理を駆使し、卒業論文としてまとめることを目的とします。</p> <p>(14クラス 平田 香奈子)</p> <p>研究テーマについての資料・文献を読み進め、発表資料の作成・発表・討議を繰り返すことで、卒業論文の構成を検討していきます。最終的には、そのテーマについての問題意識・研究の目的・研究の方法等をまとめ、卒業研究の論文構想をまとめ、発表します。</p> <p>(15クラス 菅尾 尚代)</p> <p>卒業研究を念頭に置いて、これまでの詳細な文献や資料の収集、現地調査等を基礎にして、分析・整理し、その集大成となる卒業論文の完成を目指します。</p>	14クラスで運用

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	演 習 科 目 群	卒業研究	14クラスで運用
		<p>(概要) 4年間の学びを駆使し、データを収集・分析・解釈する総合的な学習力を発揮して各自のテーマについて論文(20,000字程度)をまとめます。</p> <p>(01クラス 大庭 宣尊) 教育学演習Ⅲ・Ⅳと連動して進めます。各自の問題意識をもとにして、自分の作品を、自分で納得いくまでのものにしてもらいます。</p> <p>(02クラス 岡本 徹) 教育学演習Ⅲ・Ⅳと連動しつつ、各自の研究論文の完成に当たり、随時、発表、相互討議、個別指導を行います。</p> <p>(03クラス 旧カリキュラムのみ開講予定)</p> <p>(04クラス 笹尾 省二) 本授業では、教育学演習Ⅲ・Ⅳと連動させながら、教育学専攻での学びの集大成として、各自の教育学的関心を卒業研究(卒業論文)として収斂させていきます。自分にとって有意義な課題を設定した上で、課題に応じた研究方法を選択し、20,000字程度以上の卒業研究(卒業論文)の作成に取り組みます。 前期中に、各自の研究テーマにしたがって、問題意識を深め、先行研究の調査を行い、資料を収集するなどの準備作業をすませ、後期には、具体的な執筆へと進むこと。 各自の研究の計画・方法等については、主に個別指導の形態をとります。</p> <p>(05クラス 相馬 伸一) この授業は、教育学専攻の選択必修科目であり、4年間の学修を集大成するものです。 教育学演習Ⅲ・Ⅳと連動しつつ、各自のテーマに基づいた研究を進めるにあたり、随時、発表・相互討議・個別指導を行います。</p> <p>(06クラス 森川 潤) 卒業研究は、通年集中 4単位科目として位置づけられます。全30週にわたる特別研究は、次の4項目にわたる活動を基軸とし、下記の授業計画のもとに進行します。 1) 研究課題の確定 ゼミ生は先行研究を渉猟しながら、研究課題を確定します。 2) 研究方法の習得 3) 論文作成 ゼミ生は、みずからの研究成果を発表し、他者の意見・批評等を参考にしながら研究の密度をたかめます。 4) 論文の完成 ゼミ生は、12月中旬の完成をめざし、同時に翌年1月の口頭試問(卒論発表会)のための準備にとりかかります。</p> <p>(07クラス 山川 肖美) 本授業では、教育学演習Ⅲ・Ⅳと連動させながら、教育学専攻での学びの集大成として、各自の関心を「卒業研究論文」として収斂させていきます。 自分にとって有意義な課題を設定した上で、課題に応じた研究方法を選択し、執筆枚数50枚以上(原稿用紙400字詰め換算)の卒業研究論文の作成に取り組みます。授業の進め方については、二コマ連続の授業や合宿形式の授業(討論・発表)なども織り込む予定です。</p> <p>(08クラス 木村 恵子) 本授業では、「教育学演習Ⅲ・Ⅳ」と連動させながら、教育学専攻での学びの集大成として、各自の研究関心を「研究論文」として収斂させていきます。自分にとっての有意義な研究課題を設定した上で、課題に応じた研究方法を選択し、執筆枚数50枚以上(400字詰め原稿用紙換算)の「研究論文」の作成に取り組みます。なお、個別面談、集中授業(発表・討論会)なども織り込む予定です。</p> <p>(09クラス 堀田 哲一郎) 教育学演習Ⅲ・Ⅳと連動しつつ、各自の特別研究論文の完成に当たり、随時、発表、相互討議、個別指導を行います。</p> <p>(10クラス 西森 章子) 教育学演習Ⅲ・Ⅳと連動しながら、教育学科での学びの集大成である卒業論文を完成させます。随時、発表、相互討議、個別指導を行います。</p> <p>(11クラス 谷口 直隆) 本授業では、教育学演習と連動させながら、教育学科での学びの集大成として、各自の研究関心を「卒業研究論文」として収斂させていきます。自分にとっての有意義な課題を設定した上で、課題に応じた研究方法を選択し、「卒業研究論文」の作成に取り組みます。なお、個別ゼミや集中的な授業も取り入れます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目 演習科目群 専攻科目	卒業研究	<p>(12クラス 松崎雅広) 各自が選んだテーマを学生自らが主体的に考察し、「卒業研究論文」としてまとめます。論文作成作業は学生本人の責任とし、学生自身によりと異なりますが、ゼミ生全員が集まる日を5回程度設定して、その中で中間発表を行います。本発表はプレゼンテーションソフトを用いて行います。</p> <p>(13クラス 光本 弥生) 幼児教育及びその関連領域における理論的、実践的な研究課題について、教育学演習Ⅲ・Ⅳと連動しながら、学生が主体的に追究していき、幼児教育に関する確かな見識と論理的思考力・課題追究能力を習得することを目的とします。</p> <p>(14クラス 平田 香奈子) 各自研究を進め論文を作成していきます。主に個別指導の形式をとりますが、2か月に一度、中間報告会を実施します。報告会の際には、概要をまとめたレジュメを作成し、その都度研究構想を振り返っていきます。20,000字程度以上の論文作成を目指します。</p> <p>(15クラス 菅尾 尚代) 本授業では、教育学演習Ⅱ・Ⅲと連動させながら、教育学専攻での学びの集大成として、各自の関心を「卒業研究論文」として収束させていきます。自分にとって有意義な課題を設定した上で、課題に応じた研究方法を選択し、執筆枚数50枚以上(原稿用紙400字詰め換算)の卒業研究論文の作成に取り組みます。授業の進め方については、二コマ連続の授業や合宿形式の授業(討論・発表)なども織り込む予定です。</p>	14クラスで運用
主専攻科目	専攻科目A群	教育原理	
		<p>この科目は、教職課程の教職に関する科目(必修)であり、教育学科の基礎講義科目のひとつです。教育問題が話題に上らない日はありません。しかし、それらはともすればセンセーショナルに語られ、一過性のことがらとして忘れられ、また新たな教育問題がとりあげられているということが繰り返されています。</p> <p>この授業では、①そうした一時的な関心から踏みこむこと、そして、②傍観者としてではなく当事者として関わるための意識をどうやって育むかについて、教育学の基礎的な知見と対照させながら講義を進めていきます。</p>	
主専攻科目	専攻科目A群	教育制度論	
		<p>現代の公教育を支える法的構造に基づいて教育制度を理解した上で今日の制度改革を検証します。また、学校での教育課程編成のあり方を、学習指導要領に示された国の基準や教育委員会の示す地方の基準を踏まえながら明らかにし、その今日的な課題を新学習指導要領の研究を通して把握します。</p>	
主専攻科目	専攻科目A群	人権教育論	
		<p>本講義は、差別問題・人権問題が私たちの日常生活と密接に関連しているという事実に着目し、これらの問題に対して教育には何が可能で、何をなすべきかを具体的な状況設定を行いながら検討していきます。その時、「仏つくって魂入れず」といった単なるハウ・ツーではなく、自分はいったい何を伝えたいのか、という問いから出発(もちろん、その問いは大庭自身も免れうるものではありません)することによって、グローバルスタンダードにも通用する差別問題学習＝人権教育をめざします。そのためには、部落差別問題をはじめ様々な差別問題に対する歴史的なまなざし、社会科学的なまなざしとともに、表現力も身につけていかねばなりません。その意味においても、講義の各時間出席確認を兼ねた感想・意見・質問をコミュニケーション・カードに書いてもらい、それらに対して次の時間に応えるというコミュニケーション・システムをとるのですが、この感想・意見などを疎かにしないようにしましょう。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目	専攻科目A群	教育哲学	学び(学習)は、あらゆる教育活動の前提です。どれほど教育の内容や方法に工夫がこらされ、教師や親が熱意や愛情を注いでも、主体的な学びがない限り無意味です。しかし、近代の教育学は、学校教育制度の確立とともに発展したこともあって、とすれば教える側のニーズに対応してきたことは否めません。しかし、人類の歴史において教えることが常に教育の中心だったわけではありません。この授業では、教育を学ぶ側からとらえなおすを試みます。前半では「学ぶ私」、後半では「学びの関係の創造」に焦点を当てます。
主専攻科目	専攻科目A群	教育社会学	「自分とは何か」また「社会はいかにして可能なのか」。ひとは、どのようにして「自分」を、「他者」を認識し、日々の相互作用を行えるようになるのか。自己-他者の関係のあり方、そこからさらに社会的関係へと視線を拡大させていく時、教育という営みはその像を結びはじめます。教育が「社会的な営み」であることが確認できれば、例えば「教育達成」などにしても、単に個人的なことがらとしてではなく、社会・文化的な文脈の中で考察していくことが求められるということが了解できます。
主専攻科目	専攻科目A群	教育文化史	東アジア世界は、四大文明発祥地のひとつである中国北部を中心に形成された歴史的文化圏です。東アジア世界に共通する最大の文化的特徴は、漢字、儒教、律令制、仏教です。日本の教育文化は、古代から近世にかけては東アジア世界において中国の影響のもとで育まれます。本講義は、東アジア世界という自立した文化圏における日本の教育文化の史的展開をあとづけします。
主専攻科目	専攻科目A群	教育史	古代以来、東アジア文化圏に属した日本は、日米和親条約の締結(1854)以降、欧米近代世界に後発国として包摂されます。明治維新後、幕藩制国家から近代天皇制国家へと移行し、西欧近代をモデルとして上からの近代化を推進します。その基盤になったのが学校教育です。本講義では、明治新政府が移植構築した学校教育が開明的な欧化主義と伝統的な儒教主義との相克のなかで、どのように展開したか検討します。
主専攻科目	専攻科目A群	教育政策論	政治的意思としての教育政策は、行政施策として展開され具体化されます。この視点から、教育に関する事象を理解するための基礎となる知識を整理します。 近年の教育改革は広範多岐にわたり、しかも急激な変化をもたらすものがあり、公教育が大きく変貌しています。これら改革の狙いや性質を分析する視点を築く手がかりを得ることをもめざします。
主専攻科目	専攻科目A群	生涯学習論 I	本講義では、次の2つの柱を設定しています。 1つ目の支柱は、生涯学習の学習論と学習論の実践への応用可能性について模索することです。生涯学習研究において学習論は必須研究課題だと認識されつつも、政策や実践を後追する形で紹介・研究されてきた感が否めません。本講義では、政策を裏付ける学習論のみならず、政策提言あるいは普遍理論の性格を持つ学習論についても論及したいです。2つ目に支柱は、学習論の観点から日本の生涯学習政策や実践を捉え直すことにおきます。政策ならびに実践の到達点を明らかにしたのち、学習論の観点から今後の日本の進むべき方向を模索します。 なお、社会教育主事課程や学芸員課程等に必修の科目であるため、これらの資格を意識した授業内容も盛り込みます。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目	専攻科目A群	生涯学習論Ⅱ 本授業は、生涯学習の実践的展開に目を向けます。主になる柱は次の2点です。受講生と共に考えていきます。 (1) 現在、生涯学習を展開・支援する機会にはどのようなものがあるか。 (2) これから、生涯学習はどこに向かおうとしているのか。 生涯学習はみんなの知らないあるいは気づいていない世界。想像力を働かせて欲しいです。また、少なくとも本講義受講中は、生涯学習を実践している場に目を向けて欲しいです。	
主専攻科目	専攻科目A群	社会教育計画Ⅰ 本授業では、社会教育計画の基礎理論や構造を学んだ後、いくつかの自治体の社会教育計画ないしは生涯学習推進計画を取りあげて分析・考察を加えます。その後、特定の自治体の社会教育計画をベースとして、自分たちで独自の社会教育計画案をデザインします。本授業を通じて、社会教育計画の基本的な考え方と自治体計画としての意味を理解してほしいです。	
主専攻科目	専攻科目A群	社会教育計画Ⅱ 本授業では、社会教育計画についての理解を深めた後、社会教育計画に基づく年間事業計画や個別事業計画の策定の理念と手法を、実践的に学びます。	
主専攻科目	専攻科目A群	中等教育方法論 中・高の教員を目指す学生の必修授業科目です。教育方法の実践と思想に学びながら、「教えること」と「学ぶこと」についての知見を深めます。さらに、授業構成の理論、教育メディアの活用、学習集団づくり、学習形態の転換、評価活動の展開、指導案の作成等に関わる教師の実践的力量的基礎が習得できるよう、具体例に言及しながら、教育的タクトの観点から展開します。	
主専攻科目	専攻科目A群	初等教育方法論 初等教育の教員を目指す学生に対する必修授業科目です。教育方法の実践と思想に学びながら、「教えること」と「学ぶこと」についての知見を深めます。さらに、授業構成の理論、教育メディアの活用、学習集団づくり、学習形態の転換、評価活動の展開、指導案の作成等に関わる教師の実践的力量的基礎が習得できるよう、具体例に言及しながら、教育的タクトの観点から展開します。	
主専攻科目	専攻科目A群	特別支援教育概論 国内外における障害児教育の歴史的変遷と最近の動向、特別支援教育が求められてきた背景と制度の概要や課題について概説した後、統合教育をめぐる様々な論点について考察します。	
主専攻科目	専攻科目A群	重複・発達障害概論 重複障害の心理・生理・発達の特性と、特別支援教育における取り組み内容を学びます。障害が重複することによって生じるさまざまな制約を理解し、ニーズに応じた支援の実際について知ることを目的とします。 発達障害のある子どもたちが経験する困難を、その背景にある認知特性との関係で理解・支援する視点を身につけることを目的とします。発達障害は、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、自閉症スペクトラム障害(ASD)について、医学的および教育的定義を、その変遷も含めて紹介します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目	専攻科目B群 教育学特論Ⅰ(教職 教養研究)	<p>教員に求められている「教職教養」についての専門的知識を深めます。グループに分かれ、領域別にそれぞれの内容や今日的動向について研究し、プレゼンテーションを行います。その際、関連する事象、事項等についても言及します。あくまでも学生たちの主体的取り組みを重視しますが、担当教員は相談や質問に答えたり、必要に応じて補足的な解説を行います。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(21 大庭宣尊・25 岡本徹・12 平田香奈子/1回) (共同) オリエンテーション</p> <p>(21 大庭宣尊/4回) 道徳教育・人権教育・特別支援教育・キャリア教育</p> <p>(25 岡本徹/7回) 教育法規の仕組み、教育法規1・2(理念編・教員編・その他)、教育行政の仕組み、中央教育審議会答申、学習指導要領、その他の領域</p> <p>(12 平田香奈子/3回) 教育相談、問題行動1・2</p>	オムニバス方式
主専攻科目	専攻科目B群 教育学特論Ⅱ (初等・教科内容研究)	<p>小学校教員として求められている専門的知識や実践的指導力を深めます。各教科ごとのグループに分かれて学生自身が各テーマについて研究し、プレゼンテーションを行い、関連項目の知識を深めます。この活動を通して、小学校各教科の指導内容に関する確実な知識の定着と、授業を行うために必要な実践的指導力を獲得できるようにします。</p>	共同
主専攻科目	専攻科目B群 教育学特論Ⅱ (中等・教科内容研究)	<p>中学校社会科、高等学校地歴科の教員免許取得の先にある、教員として日々授業を実践するための、専門的な指導力の養成を行います。</p> <p>具体的な内容としては、地理・歴史・公民の3分野についてグループ別の内容研究を行い、他の受講者に詳しく解説します。あくまで学生たちの主体的な取り組みを重視しますが、担当教員は相談や質問に答えたり、必要に応じて補足的な解説を行います。</p> <p>このような活動を通じて、指導内容についての確実な理解と、それを授業として構成するための基礎的な力を獲得できるようにします。</p>	
主専攻科目	専攻科目B群 教育学特論Ⅱ (幼児・教科内容研究)	<p>幼稚園教諭および保育士として求められている専門知識や実践的指導力を深めます。少人数グループに分かれて内容研究を行い、他の受講者に対しての解説を通して関連項目の知識を深めます。加えて、各活動の実技課題の分析を行い、演習と解説を通して実践力を深めます。これらの活動を通して、幼児の教育および保育指導内容に関する知識の定着と指導を行うために必要な実践力を獲得できるようにします。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目	専攻科目B群 教育学特論Ⅲ(体育実技指導研究)	この授業では、小学校教員に必要な実技トレーニングと、器械運動・水泳・ボール運動について、教員採用後に必要となる指導法などを講義します。	共同
主専攻科目	専攻科目B群 教育学特論Ⅳ(ひろしまの教育)	広島県では、ひろしま未来チャレンジビジョンに基づいて特色のある教育施策が展開されています。また、広島市ではひろしま型カリキュラムに基づいた教育が実施されています。これらについての理解を深めます。 また、広島県内には多くの教育文化的な施設を保有しています。それらは地域の住民にとって文化的な財産であると同時に、学校教育においては、質の高い教育を実現するために効果的な教材であり、多くが各学校の教育活動で活用されています。本授業では、大学の所在地である広島市内に絞り文化施設や教育施設について見学し、学校教育の果たす役割や効果について学びます。	共同
主専攻科目	専攻科目B群 教育学特論Ⅴ(野外活動指導法)	この講義では実際に野外で活動を行うことによって、自然への接し方や自然の成り立ちを学び、その中の遊び方を体験して、子どもたちを指導する能力を高めてもらいます。自然の美しさ、楽しさなどに感動すると同時に自然の成り立ち、変化などを理解し、その中での行動の技術、不測の事態への対応のしかたなどを学ぶことを目指します。また、野外活動の企画の方法、共同作業の進め方、子どもたちの引率・誘導の方法なども学びます。さらに、暑さや雨などの困難にも耐える技術や精神力を身につけることも目標のひとつです。	
主専攻科目	専攻科目B群 教育学特論Ⅵ(絵画表現)	絵画は、線と形と色彩のバランスで成立します。これまでの歴史の中で、数多くの絵画が描かれてきました。しかし、その可能性は未だ無限に広がっています。それは、モチーフや技法は同じであっても、時代や制作者はその時にしか存在せず、全く同じ物は二度とないからです。単に上手い下手に囚われることなく、自分の気持ちと素直に向き合い、必然性を持った表現方法を模索し自分を表現することを実制作から体験します。様々な画材や技法、用具について知識の習得を目指しつつ、写実的表現、抽象的表現の基礎について制作を通して理解を深めることを目指します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目	専攻科目B群 教育学特論Ⅶ(レクリエーション)	<p>学校教育現場では、4月の学級開き、キャンプ実習などの野外での活動、クラス活動、などの場面でレクリエーション活動が行われていると思います。その多くは「明るく楽しい雰囲気づくり」「盛り上がるため」「気分転換」などが目的とされています。しかし、同じレクリエーション活動でも手法を変えれば、児童たちに「コミュニケーション」「協力」「リーダーシップ」「人の多様性」などについて考えさせ、学ばせることができます。この科目では、単に「楽しむだけ」のレクリエーション活動ではなく、「楽しくて学びがある」レクリエーション活動について学んでいきます。</p> <p>なるべく多くの種類のレクリエーション活動を紹介するとともに、それに関する留意事項についても学習する予定です。受講生の皆さんは、実際に自身の体を動かしてレクリエーション活動を行いながら学んでいきます。</p> <p>この科目で扱うレクリエーション活動は、プロジェクト・アドベンチャーの手法に基づく体験学習法をもとに進めていきます。この手法は、全国各地の青少年教育施設や学校教育施設で用いられており、将来、教員を目指している学生にとっては、非常に参考になると思います。</p>	
主専攻科目	専攻科目B群 教育学特論Ⅷ(音楽理論とピアノ実技)	<p>毎回の授業は、講義と実技演習とで構成します。</p> <p>講義では、基礎的な楽典事項について説明を行い、音楽的知識の習得を目的とします。</p> <p>実技では、各々個人のレベルに応じた作品を取り上げ、更には弾き歌いや伴奏付け等も含め、ピアノ演奏表現の基礎的技法の習得を目指します。</p>	共同
主専攻科目	専攻科目B群 教育学特論Ⅸ(音楽理論とピアノ実技)	<p>毎回の授業は、講義と実技演習とで構成します。</p> <p>講義では、一般的な楽典事項について説明を行い、総合的な音楽的知識の習得を目的とします。</p> <p>実技では、各々個人のレベルに応じた作品を取り上げ、更には弾き歌いや伴奏付け等も含め、ピアノ演奏技法の習得を目指し、音楽表現に必要な感覚や感性を育むことを目的とします。</p>	共同
主専攻科目	専攻科目B群 教育学特論Ⅹ(発声法)	<p>歌唱共通教材を中心に取り上げ、音楽理論を学び、その曲に適した発声、表現を生かして自らが演奏出来るようにすると共に、合唱指導、指揮法に関する基礎的な技法を習得することを目的とします。またソプラノリコーダーで簡単な曲を演奏出来るようにします。</p>	
主専攻科目	専攻科目B群 社会教育演習	<p>本演習は、生涯学習論や社会教育計画で修得した専門的な理論及び知見を踏まえつつ、第一に、社会教育実践について、社会教育法やその他の関連諸法を手がかりとしてその在り方を考察します。第二に、社会教育の今日的実践的な課題をグループ毎に設定・考察し、改善策を導出します。</p> <p>以上の過程を通じて、社会教育の専門職に必要な基礎的現代的な知識と考え方を修得していきます。</p> <p>*社会教育主事任用資格の取得を希望する者は前期あるいは後期に本演習を受講することが必要です。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目 専攻科目B群	社会教育実習	社会教育主事として地域社会教育施設の運営や事業の策定を行うことができるように、それらにかかる基本的な考え方や技能を、実践から修得するために本授業があります。 実習を通じて、座学で学んだ生涯学習・社会教育の理論と地域社会教育の実践とを切り結ぶ視点を自分なりに見出して欲しいです。また、本実習では、社会人としての素養も問われることとなります。実習に際して十分に自覚を持ってのぞむべきことは言うまでもなく、自らの現在そして今後を考える材料を得て学内指導に戻ってきて欲しいです。	
主専攻科目 専攻科目B群	学校教育インターンシップ	広島市立、廿日市市立および呉市立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校および特別支援学校で各教科・領域や部活動の指導補助など、各園・校が必要とする教育活動の支援活動を行うことにより、実際の教育現場に関する理解を深め、教育学理論との接合をめざします。実習の形式・内容等は受け入れ校との関係によって多様なものとなります。 なお、学校現場での活動が主となるため、教育補助者としての自覚と責任をしっかりと持つ必要があります。	共同
主専攻科目 教職専門科目群	教職入門	本講義では、教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する学習を通して、自分が本当に教師という仕事に情熱をもって取り組むことができるかどうかを考える機会を提供します。自分の描いてきた教師像、子ども像、学校という場を現実のそれらと比較して、これからの教育に関する研究の視点を再構築してもらいます。	
主専攻科目 教職専門科目群	教育心理学Ⅱ	中学・高校の教員免許状を取得しようとする学生に対する必修授業科目です。中等教育学校現場で有用な実践力の基礎を学びます。「教育心理学Ⅱ」では、講義とグループ学習・全体討論を組み合わせてすすめていきます。履修者は、グループ学習・全体討論の場で活発な意見交換をすることにより、講義で学んだ知識をより確かなものとし、さらに、教育の現場で求められるコミュニケーション能力を養うことを目指します。 1. 教育心理学に関する基礎的な知識を活用しながら、中等教育学校現場での今日的課題について考えます。 2. 中等教育学校現場で求められる「実践力」とは何かについて心理学的見地から考えます。 3. 「生きる力」を育む教育とはどのようなものかについて心理学的見地から考えます。	
主専攻科目 教職専門科目群	中等社会科教育法Ⅰ	中学・高校時代の経験から、社会科、特に地理・歴史分野については、暗記するだけの教科とのイメージが強いだろう。しかし、社会科とは、本当にそういう教科だろうか。 そこでまず、そもそも社会科とは何か、なぜ学校で社会科が教えられるのか、という根本的な部分から社会科について考えてみたいと思います。そして次に、地理・歴史分野について、社会科の授業をつくりあげていくためのいろいろな考え方を学んで、各自なりの「社会科観」を育ててもらえるようにします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 中等社会科教育法Ⅱ	中学校社会科公民分野は、その配当時期が高校受験と重なる3年生ということも相まって、地理・歴史分野にくらべて存在感がうすいものとなってしまっています。しかし、公民分野は、我々の日々の生活に最も身近な内容を扱うものであり、その意味で、社会科という教科の存在意義に直接かかわる分野だと言えます。 そこで、まず現行の公民分野のもつ問題点について考え、次に公民分野の授業をつくりあげていくためのいろいろな考え方を学んで、それにより各自なりの「社会科観」を育ててもらえるようにしたいです。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 社会科・地理歴史科教育法	これまで行われてきた社会科の枠組みにおいて高校地理歴史科も行われるべきだという基本認識に立って、高校地理教育、日本史教育、世界史教育の目的、カリキュラム、授業構成の講義を通して、地理歴史科教師に必要な教授能力を育成します。 そのために、教育原理や授業原理にもとづいて地理教育、歴史教育の目標、カリキュラムに関する類型化を施すとともに、その類型化にしたがって実際の地理授業や歴史授業を視聴したり指導案を分析したり作成したりします。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 社会科・公民科教育法	本講義は中学校社会科教員免許状を取得しようとする学生に対する選択授業科目です。公民分野に必要な教授能力を育成するために、教材研究、授業分析及び授業構成に関する個々人の研究・指導力を培います。 とりわけ、教授実践に重点化するために、特定単元の教材研究、授業分析、授業構成を各人が追求し、よりよい公民授業を創造することをめざします。 この目的のために、公民科を社会的教科と捉え、公民科の目標、カリキュラム、教材研究、教科書研究、授業分析について講義し、公民授業についての見方を提示します。それとともに、公民授業を演習形式で各自作成します。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 中等道徳教育論	道徳とはいったい何なのか。そもそも、道徳を教えるなどということは可能なのだろうか。こうした問いへの答えを、倫理学、心理学、社会学、教育学などの知見に沿いながら、道徳教育についてのさまざまな考え方、教育現場において生起する諸問題、あるいは道徳教育の歴史といった諸側面からアプローチし、考えていきます。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 中等特別活動論	特別活動は、教育課程に規定された教育活動であり、授業時間割に位置づけて指導する必須の科目です。と同時に、学校教育の中で児童生徒の全人格的で健全な成長発達をすすめていく上で、意図的計画的な学校年間計画(学年年間計画・学級年間計画)をもって活動を組織運営していく体験的実践的教育活動です。 また、特別活動は、主要教科と呼ばれる学力よりも軽視されがち傾向がありますが、今日的児童生徒の課題実態や未来を創造する生きる力の育成を考える時、それらの解決・改善と同時に向上・充実を図る教育的な役割は大きいものと考えます。 こうしたことから、特別活動の特質たる目標・内容・方法などについて、理論と実践化の両面から理解が図られるようにしたいと思います。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部教育学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	中等生徒指導論	<p>「生徒指導」は、学習指導と並び立つ全生徒を対象にした教育活動で、学習指導要領に示されている「生徒指導の意義」をふまえて実施される学校教育において重要な教育機能の一つです。生徒の人格形成を促す上で大きな役割を担っている「生徒指導」の理論と実際について、基本的な知識理解が図れるようにします。</p> <p>また、生徒指導に関する今日的な課題に関心と将来の展望をもって、教育専門職として生徒指導に求められる資質や能力に資する意欲や態度を培うことができるようにしたいと思います。</p>	
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	中等教育相談	<p>中・高の教員を目指す者に必要な教育相談全般についての知識と基礎的能力の育成を目指して講義を中心に行っていきます。</p> <p>大きな柱としては、</p> <p>①学校における教育相談の意義</p> <p>②教育相談の基礎となるカウンセリングの理論と技法の習得</p> <p>③教育相談の遭遇する諸問題と連携</p> <p>以上3つの柱を軸として、基礎的な知識とそれを踏まえた教育相談的な関わりのセンスを習得することを目指します。</p>	
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	中等教育実習事前事後指導	<p>中等教育実習Ⅰ・Ⅱへの参加に際して、まずその実習の意義を前もって理解しておく必要があります。そのため、随時の事前指導を行います。なお、その一環として、3年次に協力校における観察実習指導を行います。(詳細については、中等社会科教育法Ⅰ・Ⅱの授業時に指示します。)</p> <p>また、実習後には、その体験によって得られたものを再確認することにより、免許状取得に向けて、教員として求められる諸能力の定着をはかることをめざして、事後指導を行います。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	<p>(概要) 中学校教員を目指す者に対して、必要となる知識と技術を中心に実習を行います。</p> <p>(01クラス 笹尾 省二) 現在の中学校、高等学校教員には、まず教科の授業を担当する能力が求められるのはもちろんですが、それにとどまらず、生徒指導や学校の管理・運営など、多方面にわたる職務を担当する能力が必要とされます。 教育実習は、教員免許状取得のための課程の最終段階として、学校の教育活動を教員の立場から体験することにより、そういった能力の獲得をめざすものです。 具体的には、実習校において、生徒の学校生活、指導教諭による授業実践や生活指導その他の諸活動、さらには、学校管理・運営等について観察を行い、それらの実態・意味などについての理解を進めます。また、指導教諭のもと、教材準備、学級運営、生徒指導等の補助にあたり、実際に体験します。</p> <p>(02クラス 戸出 朋子) 本科目は、大きく次の三つの枠組みからなります。 1. 教育実習事前指導 2. 教育実習 3. 教育実習事後指導 教育実習Ⅰは、とくに中学校教員を目指す者に対して、必要となる知識と技術を中心に実習を行います。実習参加の直前には学習指導案の作成やその他の実践的な指導が行われます。教育実習終了後は、事後指導を通して反省点を確認します。 実習校において、生徒の学校生活、指導教諭による授業実践や生活指導その他の諸活動、さらには、学校管理・運営などについて観察を行い、それらの実態、意味などについて理解を深めます。 また、指導教諭のもとで教材準備、学級運営、生徒指導などの補助に当たり、実際に体験します。</p>	2クラスで運営
		<p>(概要) 中学校、高等学校教員を目指す者に対して、必要となる知識と技術を中心に実習を行います。</p> <p>(01クラス 笹尾 省二) 現在の中学校、高等学校教員には、まず教科の授業を担当する能力が求められるのはもちろんですが、それにとどまらず、生徒指導や学校の管理・運営など、多方面にわたる職務を担当する能力が必要とされます。 教育実習は、教員免許状取得のための課程の最終段階として、学校の教育活動を教員の立場から体験することにより、そういった能力の獲得をめざすものです。 具体的には、実習校において、生徒の学校生活、指導教諭による授業実践や生活指導その他の諸活動、さらには、学校管理・運営等について観察を行い、それらの実態・意味などについての理解を進めます。また、指導教諭のもと、教材準備、学級運営、生徒指導等の補助にあたり、実際に体験し、その後、これらの体験で得られた理解をもとに、実際の授業実践を行います。</p> <p>(02クラス 戸出 朋子) 本科目は、大きく次の三つの枠組みからなります。 (1) 教育実習事前指導 (2) 教育実習 (3) 教育実習事後指導 教育実習Ⅱは、中学校および高等学校の英語教員を目指す者に対して、必要となる知識と技術を中心に実習を行います。実習参加の直前には学習指導案の作成その他の実践的な指導が行われます。教育実習終了後は、事後指導を通して反省点を確認します。</p> <p>(03クラス 河内 満) 教育実習は、教職課程の最終仕上げにあたる科目です。教育実習の中心は、専門教科での授業実習であるが、ホームルーム活動・クラブ活動等を含めた学校全般を通して、実践的、多面的に学校教育を学びます。 「商業科教育法」「教育方法論」「職業指導」等の教職に関する科目で学んだことの集大成でもあることをよく自覚し、教育実習体験を通して教師として教壇に立つことの意義と役割について体得します。 教育実習期間は、通常6月前後の2週間です。</p>	
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	<p>日本の古代～近世における歴史的な諸特質について概説します。 各時代に関する歴史研究は、戦前から戦後社会の各時期・各段階において、その当時の研究者や人々の切実な問題意識のあり方によって、関心の対象や深さにさまざまな違いがあらわれてきました。 そのため、歴史におけるある時点の「常識」(たとえば教科書の記述などがそれにあたります)が、歴史研究の進展などによって非(否)「常識」へと変化したケースも多々あるのです。 そのような歴史研究の成果をふまえて、本講義では古代から近世の日本社会の特色を多面的に考察し、歴史意識と現代的課題への理解力を養成することを目的としています。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	日本近代史を中心にその近代化のあり方について概説します。 (授業の展開上、導入的に日本近世史の内容も一部含みます。) 日本近代史の諸特質は、今まさにわれわれが存在する現代社会との「連続性と非連続性」をもっているといわれます。 また、各時代に関する歴史研究は、戦前から戦後社会の各時期・各段階において、その当時の研究者や人々の切実な問題意識のあり方によって、関心の対象や深さにさまざまな違いがあらわれてきました。 そのため、歴史におけるある時点の「常識」(たとえば教科書の記述などがそれにあたります)が、歴史研究の進展などによって非(否)「常識」へと変化したケースも多々あるのです。 そのような歴史研究の成果をふまえ、本講義では、「近代化」をめざした日本が歩んだ道を考察し、それが世界の歴史においていかなる意味をもったのかという視点も加えつつ、歴史意識と現代的課題への理解力を養成することを目的としています。	
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	この科目は、社会科の教員免許などの資格を取得しようとする学生のためのものです。ただしそれ以外にも、東アジア世界への関心などから、中国という国の歩みに興味があるという学生も大いに歓迎します。 日本にとって、いまや世界にとって、「中国」は非常に存在感のある国となりました。しかしながら、ともすると我々はこの大国に対して極めて皮相的で画一的なイメージを先行させてしまいがちです。とにかく広大な「中国」は、多くの民族、複雑な環境、多様な文化を内包しており、この世界を少しのぞき込んでみると、そこには我々を引きつけてやまない魅力と、日本との関わりをはじめ様々なことを考えさせてくれるきっかけがあるのです。 この科目では、年代にすると紀元前2000年ごろから現代に至るまで、中国がたどってきた履歴を通史的にながめ、今日の中国がどのような歴史的土壌の上に成立した国であるのかを考えます。一般的に概論や概説というと、文字資料からの知見をもとにした平板な叙述に陥りがちですが、この科目ではそれだけではなく、各地に保存されている文物や考古学調査によって新たに発掘されたモノ資料も積極的に利用しながら、各時代の特色をより具体的に把握してもらうことに努めます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目	教職専門科目群 東洋史概論Ⅱ	この科目は、社会科の教員免許などの資格を取得しようとする学生のためのものです。ただしそれ以外にも、東アジア世界への関心などから、中国という国の歩みに興味があるという学生も大いに歓迎します。本授業は、前期の「東洋史概論Ⅰ」を基礎編とすると、その発展編にあたります。ただし「概論Ⅰ」を受講せずに、本授業のみを受講する人にもわかるように「概論Ⅰ」の内容も振り返りながら授業を進めることにします。 「概論Ⅰ」では中国史を通史として概観しますが、本授業では中国史を彩るいくつかの特徴的なトピックを取り上げて、少し細かくそれらの歴史をたどってみます。時に応じて、中国の文化と日本の文化などを比較検討するなどして、それぞれの文化の共通性や独自性にも着目してみたいと思います。	
主専攻科目	教職専門科目群 西洋史概論Ⅰ	先史時代から現代に至る西洋の歴史を概観します。重要な事柄について時代を追って見てゆきますが、その時々々の社会のあり方、人びとの考え方といったことにも触れてみたいのです。西洋史を理解する鍵となるキリスト教については、特に詳しく論じます。	
主専攻科目	教職専門科目群 西洋史概論Ⅱ	前近代を中心に、ヨーロッパの人たちがどのように生きていたか、詳しく見てゆきます。時系列に沿って進めるのではなく、各回一つのテーマを取り上げ、様々な角度から検討を試みます。	
主専攻科目	教職専門科目群 人文地理学Ⅰ	地理学は最も古い学問の一つでもあり、新しい学問でもあります。 人文地理学は地球表面上において展開する人間活動の諸現象を地域的に空間的に理解する学問であり、研究対象は産業や人間生活など多様です。 日本や諸外国における文化現象を捉え、その背景やメカニズムについて学習することによって、地域的背景を基礎とした文化について人文主義地理学や社会地理学などの近年の地理学の新しい動向から考えることを目的とします。 授業内容には、教員免許取得との関連から、高等学校地歴科地理や中学校社会科の教員になるための必要知識を習得するための基礎的内容を含みます。	
主専攻科目	教職専門科目群 人文地理学Ⅱ	都市構造(インナーシティや郊外地域)の変化や人々の生活行動に着目して、都市社会地理学の概説を行います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	自然地理学	<p>本講義では、人間生活の土台といえる、日本各地で一般的に認められる山地・平野・変動地形などの地形の成り立ちと、そこに住む人々の特徴的な暮らしについて解説します。特に、地形と人々の暮らしの関係は、現代社会においては「自然災害」として「負」の側面が強調されがちですが、本講義では、両者の関係の「正」の面といえる、地形を活かした暮らしを取り上げ、物事の多面的な見方・考え方を教示します。</p> <p>授業では、地図作業を積極的に取り入れることで、専門的な用語による理解にとどまらない、地形に関するイメージの知識の理解や、地形図から地形を認識できる能力を習得することをめざします。</p>
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	地誌 I	<p>「世界地誌」はアネクメーネ（永続的居住困難地域）である南極大陸以外の、人間活動が大いに展開しているエクメーネの大陸別地誌について主に扱います。すなわち、(1)アフリカ、(2)アジア、(3)ヨーロッパ、(4)北ユーラシア、(5)北アメリカ、(6)南アメリカ、(7)オセアニアの順に、それぞれ、位置と自然（地形、気候等）、産業（農林水産業、鉱工業）、人口と集落（村落、都市）、（大陸内の）地域区分とその特性、日本との関係の5項目について基本的にみていきます。各大陸の主要観点は次の通りです。</p> <p>(1)アフリカ…熱帯大陸、高原大陸としての特徴。貧困問題。</p> <p>(2)アジア…数多くの大山系、モンスーンアジアと乾燥アジア。巨大人口の存在。</p> <p>(3)ヨーロッパ…高緯度地域にあるが、稠密な人口密度と都市網。</p> <p>(4)北ユーラシア…寒冷半乾燥地域が広大で人口希薄。豊富な地下資源。</p> <p>(5)北アメリカ…高度に進展した農業、工業、都市化。</p> <p>(6)南アメリカ…熱帯大陸。モノカルチャ（単一生産）問題。</p> <p>(7)オセアニア…乾燥大陸。企業的穀作、牧畜と地下資源。</p>
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	地誌 II	<p>「日本地誌」は日本全体の特徴（自然環境と人文環境）について深くふれたのち、7つの地方ブロック毎、すなわち九州、中国・四国、近畿、中部、関東、東北、北海道の順に、それぞれの地域的特色について扱っていきます。この場合、各地方別地誌の基本的項目は、位置と歴史的背景、自然的基礎、人口、村落と都市、第1次産業、第2次産業、交通・観光、（地方ブロック内部の）地域性と地域区分、の各項目です。</p> <p>以下、それぞれの地方別地誌についての主要な視点・留意点について列挙しておきます。</p> <p>(1)九州…（九州本島の）北高南低、西高東低型の人口・工業・都市の分布。亜熱帯気候の沖縄の特色。</p> <p>(2)中国・四国…近畿と九州の回廊的性格。瀬戸内、山陰と南四国。</p> <p>(3)近畿…西日本の中核的地域。大阪大都市圏。</p> <p>(4)中部…日本アルプス。日本海側、内陸部、太平洋側。関東と近畿の中間にある位置的有利性。</p> <p>(5)関東…日本の中心。東京大都市圏。</p> <p>(6)東北…日本海側と太平洋側の違い。米の単作地帯。</p> <p>(7)北海道…日本の高緯度地域。冷涼な気候と広大な人口密度希薄地域。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	人間観の思想	
		日常生活のなかで私たちが何かするとき、意識的にせよ無意識的にせよ、その行動は何らかの価値観に基づいています。その価値観の基礎となるのが、「人間とは何か?」という問いに対する回答、つまり人間観です。人間は意味を求める存在であり、古今東西、人間観をめぐって多様な思想を生みだしてきました。この授業では、人間観の論争点となるポイントをとりあげて考察し、人間観についての知識を増やすことにとどまらず、各自がどのような人間観の持ち主であるのかを考え、どのような人間観を持つべきなのかを考えてもらうことをめざします。	
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	哲学概論Ⅰ	
		岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書、2003年）を精読することで、西洋哲学の大きな流れを学びます。 学生は単に講義を「聴く」だけではありません。事前にテキストを読みこんでくることが要求されます。授業は、学生がテキストを読み込んでいることを前提として展開されます。	
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	哲学概論Ⅱ	
		私たちが日常生活においてしがっている「常識」は、思考や判断のための「出発点」です。しかし「哲学者」と呼ばれる人たちは、常識を出発点とみなすことに満足せず、常識自体を思考や判断の対象としました。これはある意味で「非常識」な営為ですし、常識的な言葉づかいでは遂行しにくい企てでもあります。哲学者の著作が理解しにくいのは、そのためです。この講義では、以上をふまえたうえで、哲学においてどういうことが考えられてきたかをできるだけ噛み砕いて紹介していきます。	
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	倫理学概論Ⅰ	
		西洋倫理学の基本的事項について見ます。西洋の倫理学説は、大きく見て、「義務倫理学」の立場か「価値倫理学」の立場をとります。両者の相違についてまず見、それに当てはめながら代表的な倫理学説について検討します。	
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	倫理学概論Ⅱ	
		私たちは日常生活を営む中で、様々な困難に直面します。そのとき私たちは生きていく上で考えずにはいられない「問い」と出会います。この授業では、日常生活の身近な問題を取り上げ、その「問い」について倫理学の代表的な考え方をもとにみなさんと一緒に考えていきたいと思えます。	
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	法律学概論	オムニバス方式
		法律学といってもさまざまな法律があります。憲法、民法、刑法といった知名度の高い法律や法分野もあれば、行政法、会社法、労働法といった身近ではありますがなじみの薄い法律や法分野もあります。また、法律学と隣接領域（歴史学、社会学、思想史など）と結びついた分野や、一国の領域を超えた国際的な法現象を扱う分野もあります。こうしたさまざまな法律や法分野の姿をできるだけ簡明にその特徴を浮き彫りにできるように講義していきます。 (オムニバス方式/全15回) (73 矢野達雄/3回) 法学基礎を内容とし、法学入門、裁判規範と法、法体系、法の継受、法の分類、法解釈学などを講じる。 (43 鈴木正彦/4回) 民事法分野を内容とし、民法の基本、契約、当事者、法律行為、商法、会社法などを講じる。 (96 山崎俊恵/3回) 刑事法分野を内容とし、刑法の基礎、犯罪と刑罰、刑事手続き、裁判員制度などを講じる。 (70 村上博/5回) 行政法分野を内容とし、法治主義、行政作用、行政事件訴訟、行政組織、公務員、地方自治などを講じる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目 教職専門科目群	政治学概論	本講義は、「政治学」の要点について学ぶことを目的とします。政治学はよりよき政治とは何かを探求し、政治の根源的な問いについて検討する「政治哲学」と、政治現象の因果的説明に関心を持つ「政治科学」に大きく二分されます。「政治学概論」ではそれぞれに重要なトピックを取り上げ、政治学の輪郭を把握してもらうことを目指します。 本講義は2つの柱を設けて進めていきます。 ①政治哲学の重要なトピックを知る(第2回―第6回) 「政治哲学」の領域において重要なトピックが何かを知り、それに関する知識を身につけてもらうことを目指します。 ②政治制度とアクターのあらましを知る(第7回―第14回) 「政治科学」の領域において重要な政治制度とアクターについて概要を理解することを目指します。	
主専攻科目 教職専門科目群	国際法	国際法の基本構造を検討しながら現代の国際社会において国際法がどのように機能しているのか、最近の具体的事例にも言及しながら講義します。	
主専攻科目 教職専門科目群	国際政治学Ⅰ	本講義の国際政治学は、国際社会を理解しようとする知的営為の蓄積を修得し、それを土台に世界に自らの意見を発信する力を身につけることを課題としています。つまり国際政治学理論を基礎に、創造性と想像力を発揮して自分なりの意見を作り上げ、それを的確に世界の人々に伝える力が大事となります。そのための学びの一つとして、ここでは具体的な問いとそれに関連する理論に焦点をあて、国際政治学の専門的知識を修得して行きます。	
主専攻科目 教職専門科目群	国際政治学Ⅱ	国際社会の秩序とダイナミズムを考察します。国際社会の秩序は細谷雄一著『国際秩序』(中公新書)に基づいて、またそのダイナミズムは三上貴教編『映画で学ぶ国際関係Ⅱ』(法律文化社)に基づいて検討していきます。 毎回、テキストの重要項目を理解し、キーワードを確認します。これらは知識として身につけます。加えて、テキストに関連した問いについて受講生自らが考えます。これにより創造力と国際政治をみる鋭い眼を涵養します。	
主専攻科目 教職専門科目群	現代経済入門Ⅰ	テキストブック(理論)と世の中の動き(現実)との結びつきを重視しながら、経済学の基礎を学びます。 テキストを解説する講義形式で授業を進めます。新聞記事等の解説も行います。	
主専攻科目 教職専門科目群	現代経済入門Ⅱ	テキストブック(理論)と世の中の動き(現実)との結びつきを重視しながら、経済学の基礎を学びます。 テキストを解説する講義形式で授業を進めます。新聞記事等の解説も行います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目	教職専門科目群 教職実践演習(中・高)	この科目の履修を通じて、将来教員として務めるために、自己にとって何が課題であるのかという自覚のうえに、必要とされる知識や技能を補うことを可能とする学習能力を獲得させることをめざします。そのため、少人数クラスによる演習形式で、具体的な事例研究にもとづくグループ討論やロールプレイング、実地見学、各教科内容の模擬授業の実施など、実践的な学習を行わせます。また、そのような集団的な活動とは別に、必要に応じて、履修カルテにもとづく個別指導を行います。	5クラスで運営 共通シラバス
主専攻科目	教職専門科目群 教職実践演習(幼・小)	これまでの学びや体験を記録したポートフォリオに基づいて各自の課題を全体に公開して、課題の共有をはかります。その後、仲間との意見交換、指導教員のアドバイス等によって各自の課題解決をはかり、教員としての資質と能力や実践的指導力の向上をはかります。 2回の発表の時間は1人10分を予定しています。各自の考えや意見を全体で共有するために、発表は土曜日(9:00~16:00)に行う予定です。第1回のガイダンスと第4~6回、第12~15回の授業は全体(1クラス)で行い、その他の時間はテーマごとに3クラスに分かれて少人数で行います。授業終了は12月中旬を予定しています。土曜日の発表は10月11日と12月13日を予定していますが、正式な日時は第1回目の授業で伝えます。	4クラスで運営 共通シラバス
主専攻科目	教職専門科目群 初等教育実習事前事後指導(小)	教育実習にむけて、教師として必要とされる知識・技能等の確実な習得に努めるとともに、教育実習の意義を知り、心構えをもちます。 また、教育実習後については、実習報告に加え、教師の仕事に実際にふれた体験を通して、教師とはいかにあるべきかについて理解を深めます。	共同
主専攻科目	教職専門科目群 初等教育実習事前事後指導(幼)	教育実習の意義・目的・内容についての理解を深め、観察実習・参加実習の方法や実習ノートの書き方、実習生としての心構え、園児への理解、接し方など実習上の留意事項などを指導します。さらに、指導実習の内容と方法、指導案の書き方、実習の評価と反省を行います。まとめとして教育実習の総括と今後の学習の目標を明確にし保育者になるための自覚を高めます。	共同
主専攻科目	教職専門科目群 初等教育実習 I	小学校教員には教科学習を指導する能力が求められるほかに、児童に安心した学校生活を保障するための学級経営力が求められます。本授業では、実習校の指導教諭による学級経営、授業実践、生活指導など児童の学校生活全般の観察、さらには、学校管理・運営等について観察を行い、それらの実態・意味などについての理解を深めます。	
主専攻科目	教職専門科目群 初等教育実習 II	小学校教員には教科学習を指導する能力が求められるほかに、児童に安心した学校生活を保障するための学級経営力が求められます。本授業では、実習校の指導教諭による学級経営、授業実践、生活指導など児童の学校生活全般の観察、さらには、授業実践を通してそれらの実態・意味などについての理解を深めます。また、指導教諭のもと、教材準備、学級運営、生徒指導等を実際に体験します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	初等教育実習Ⅲ	幼稚園教諭二種免許状取得希望者を対象とし、幼稚園現場での実践体験を通して、教育・保育理論を主体的に再構成し、指導計画の立案や環境構成力など幼児の成長・発達を促す基礎的な実践的指導力を習得するとともに、教師としての人格形成課題を自覚することを目的とします。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	教育心理学Ⅰ	初等教育の教員免許状を取得する学生に対する必修授業科目です。個々の子どもにとって最適な成長の場を整えていくために必要な、発達のメカニズムや学習の諸相、教育場面での個人差などについての講義を中心に、広い意味での学校教育に関わる問題を取り上げてゆきます。 講義期間の前半で、教育心理学に関する基礎的な知識の習得を目指し、後半ではそれらの知識を活用しながら、初等教育学校現場での今日的課題について、学生自身が考え、互いに意見を出し合える機会を提供します。グループ単位でのディスカッションや全体の場での発表の機会を設けることにより、学習の定着を図るとともに、教育の現場で求められるコミュニケーション能力の育成を図ります。 初等教育学校現場で有用な実践力の基礎を築くことを本講義のねらいとします。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	生活科教育法	「生活科教育内容論」と関連づけ、小学校低学年児童の思考と行動の特性について実例を用いて解説します。児童の概念知識の発達に生活的概念と科学的概念の間を往復しながら児童自身が自己の有用性に気づいて発達させるものであることを理解し、教師は児童の有用感を把握し、生かしながら授業を設計する立場にあることなどを解説します。 生活科の授業実践事例を検討することを通して授業構成原理を探究し、授業研究に必要な力量を育成するとともに、指導技術の向上を図ります。事前に、生活科の授業の見方、評価・支援の仕方について解説した上で、実際の小学校もしくはビデオにて生活科の授業を参観します。事後、疑問点、改善点などについて創造的に検討します。 グループ毎に単元及び活動内容を定め、学習指導案をグループで作成します。その指導計画の中から個々が本時を選び各々が本時案を作成します。生活科学習指導案に基づいて模擬授業を行い、事後、疑問点、改善点などについて創造的に検討します。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	音楽科教育法	小学校音楽科教育の指導案の立案・作成に関する基礎を学び、講師による実践事例などを参考にしながら各分野の指導案を立案・作成し、学生間で模擬授業を行います。その後、その振り返りをディスカッションを通して行います。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	図画工作科教育法	小学校学習指導要領(図画工作科偏)に沿って図画工作科教育の意義や目的を学びます。また、図画工作科教育の歴史、子どもの発達段階、表現と鑑賞の関係など、図画工作科の授業展開の基礎・基本を学習指導要領も踏まえて学習し、実際の模擬授業を通して指導案の作成～評価のあり方までを総合的に学習します。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	体育科教育法	本授業は、小学校教育における新任の教師として体育授業を実践するのに必要な力量形成を意図しています。体育授業設計能力(体育授業デザイン能力)、体育授業運営能力(体育授業マネジメント能力)、体育授業実践能力(基礎的教授技術)、運動観察・分析能力、体育授業評価能力(体育授業アセスメント能力)の5つの能力を講義で理解し、模擬授業や授業観察で習得します。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	家庭科教育法	小学校家庭科の学習指導要領をもとに、歴史的変遷をたどることで教科の特徴を概観するとともに、家庭科授業の目標、内容、教材、学習指導法について学びます。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	国語科教育法	小学校国語における「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各学習領域についてとりあげます。 国語科教育の理論とその歴史：小学校国語科の扱う内容、実践研究史について学びます。 国語科教育の実践演習：過去の実践例の検証、現行の教科書教材を用いての学習指導案作成、模擬授業を行います。 授業全体を通じて、まず学生自身の読みやことばに対するあり方について目を向け、その問い直しの作業を行います。 またそれぞれの実践の目的と方法について具体的に考え、実践を見る目と、実践構築力を養うことを目指します。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	初等社会科教育法	まず、そもそも社会科とは何か、なぜ学校で社会科が教えられるのか、といった根本的な地点から社会科について考え、次に社会科の授業を作り上げていくためのいろいろな考え方を学んで、各自なりの「社会科観」を育てます。 その上にたつて、教材研究、学習指導案の作成の練習を行い、模擬授業の実施、その反省の機会を設けることで、実践的な能力を身につけます。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	算数科教育法	本授業では、内外の調査研究の結果に基づき、算数科教育の今日的課題を概観した上で、算数科教育の目標、指導内容、指導方法および評価方法について、具体的な実践事例に即して解説し、授業づくりをすることにより、算数科教師として必要な実践的能力の基礎を養います。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	理科教育法	日本の理科教育の歴史、理科の教授学習論、理科の授業づくり、評価の目的と方法など、小学校の教員として必要な理科教育の基礎理論と知識・方法について講義します。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	初等英語教育論	児童英語教育や言語習得に関する研究が盛んに行われるようになってきましたが、初等英語教育に関する研究はまだ未熟であり、これから急速に発展・変化していくと思われます。本授業では初等英語教育における最新の実践や研究などを概観しつつ、小学校の教室内において活用できる英語科教育法に関する知識および英語力を習得することを目指します。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目 教職専門科目群	初等道德教育論	幼児期から児童期までの道德性の発達過程を概観するとともに、道德に関する国内外の主要な理論を紹介し、道德性についての基本的な理解を図ります。この理解に基づいて、小学校における道德教育の意義やねらい、内容、指導方法等について、具体的な実践事例を活用しながら、道德の授業に必要な基礎的知識や能力の育成を目的とします。	
主専攻科目 教職専門科目群	初等教育相談	初等教育の教員を目指す者に必要な教育相談全般についての知識と基礎的能力の育成を目指して講義を中心にしていきます。 大きな柱としては、 ①学校における教育相談の意義 ②教育相談の基礎となるカウンセリングの理論と技法の習得 ③教育相談の遭遇する諸問題と連携 以上3つの柱を軸として、基礎的な知識とそれを踏まえた教育相談的なかわりのセンスを習得することを目指します。	
主専攻科目 教職専門科目群	初等生徒指導論	生徒指導の本質、生徒指導を支える基礎理論、生徒指導の方法とあり方などについて理解を深めるとともに、子どもたちの発達を支援するための生徒指導のあり方について、学生自身が考え、さらに、実践に移すことのできる力を養うことを目指します。 授業では、グループ単位でのディスカッションや全体の場での発表の機会を設けることにより、「個人⇒集団⇒個人」のプロセスを経て学習の定着を図るとともに、教育の現場で求められるコミュニケーション能力の育成を図ります。 生徒指導の現状をめぐる問題と今日的課題を指摘しながら、生徒指導が人間の生き方や自己実現にかかわる重要な教育活動であることへの理解を深めるとともに、生徒の多様化に対応できる教員としての指導力を培うことが本講義のねらいです。	
主専攻科目 教職専門科目群	初等特別活動論	初等教育教員としての基礎的知識・態度を養う科目として、教育課程の領域に位置づく特別活動について、「小学校学習指導要領 第6章 特別活動」に示される目標・内容・指導計画の作成や内容の取り扱いについて講義するとともに、学級活動や学校行事に関する指導計画の作成実習を通じて、特別活動を進める実践的指導力の基礎を培います。	
主専攻科目 教職専門科目群	初等教育(国語)	この科目は、小学校教諭免許課程の「国語」の教科に関する科目(必修)であり、教育学科の専攻科目の一つです。小学校教諭となるのに求められる大学学部レベルの知識の修得が、この科目の課題です。 授業においては、「話す・聞く・書く・読む」領域および「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」とのかかわりを考えながら、語彙、表現、文法などの国語の知識また国語教育に必要な事項を13のトピックとして取り上げて論じていきます。	
主専攻科目 教職専門科目群	書写	小学校国語科書写における低・中・高学年の各指導事項にそって、技能理論の講義及び毛筆実技、硬筆実技の実践を行います。その際、児童の実態を紹介しながら、指導方法や評価のあり方についても検討します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目 教職専門科目群	初等教育(社会)	この科目は、小学校教諭免許課程の「社会」の教科に関する科目(必修)であり、教育学科の自専攻科目のひとつです。小学校教諭となるのに求められる大学学部レベルの知識の修得が、この科目の課題です。授業においては、現代の社会生活の基礎的構造を理解するためのトピックを13あげ、それぞれトピックに関連した小学校社会の学習内容を大学学部レベルの発展的内容と関連させつつ論じていきます。なお、第2回～第6回、第8回～第13回では、毎時間、課題を出し、授業の前半では、その発表を5人程度のグループで行います。	
主専攻科目	初等教育(算数)	小学校算数科の指導内容である4領域「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の学習指導を通して児童の数理認識を育てる上で必要となる数学的背景、数学的知識・技能、数学的な考え方についての理解を深めるとともに、受講生自身の数学的な思考力・判断力・表現力を高めます。	
主専攻科目	初等教育(理科)	小学校理科で学習する内容は、エネルギー・粒子概念・生命・地球の4つの柱で構成されています。それぞれの領域から具体的なテーマを選んで、授業の作り方、指導方法などについて、実習を中心にして授業を行います。実験や実習などの活動は、5人程度の班に分かれて行います。	
主専攻科目	初等教育(生活)	生活科及び関連する教科の歴史を概観し生活科の理論的基底を考察すること、生活科の活動を経験したり授業設計・評価の過程を体験したりすることを通して、生活科教育についての理解を深め、総合的、実践的な力量を育成します。就学前教育から小学校教育への接続及び3年生以降の学習との関連における課題を分析し、生活科教育の役割、他教科の学習につながる学びの力を育成する生活科の役割について解説します。また、生活科の学習材に実際に触れたり、活動を体験したりすることを通し、生活科の内容と児童の気づきの質を高める適切な指導法について自ら考え、学び取ります。	
主専攻科目	初等教育(体育)	小学校で体育科を指導するために必要な運動領域と保健領域の基礎知識を学習します。学習を通して、子どもの心身の発育・発達を促し生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるための具体的な運動内容や健康・安全についての理解を深めます。	
主専攻科目	初等教育(音楽)	小学校学習指導要領音楽編の解説を交えながら、小学校音楽科教育の目的や内容、実践上の留意点について理解します。特に、「表現―歌唱、器楽、音楽づくり―」や「鑑賞」といった各領域・分野の内容を学習することで、音楽そのものの基礎的な知識や表現・鑑賞の能力を培い、音楽そのものや小学校音楽科教育への理解を深めます。	
主専攻科目	初等教育(図画工作)	小学校学習指導要領(図画工作編)に沿って図画工作科教育の目標や内容を学びます。また、表現の内容や鑑賞の内容などの構成、各学年の目標や内容について具体的な題材を取り上げながら、図画工作科教育の基礎・基本的な内容の理解を図り、教師としての資質や能力の向上を目指します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 初等教育(家庭)	小学校で家庭科を指導するために必要な4領域(家族、食物、被服、住居)の基礎知識を学習します。被服においては、ミシンを用いて、簡単な裁縫の技能の獲得も目指します。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 保育原理	保育の歴史や制度を踏まえつつ、人間の発達保障に深くかかわる保育の意義と本質を理解し、その基本的な概念や知識の習得を図るとともに、保育施設における保育目的、方法および施設設備のあり方について理解を深めます。さらには、現代の保育課題についての知識を深め、自らの保育観形成の基礎を培うことを目的とします。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 保育者論	激動する現代社会のなかでの教育・保育の諸問題を意識しつつ、今日求められている保育者の資質・能力が何であるかを理解し、保育職の意義、使命・服務規程、役割を把握します。さらに保育者の職務内容、仕事を概観して、保育者としての力量形成の課題と研修の必要性と仕組みを把握します。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 児童家庭福祉論	少子化社会の理解や、子育て支援としての家族支援、次世代育成支援という視点を大切にしながら、児童福祉の意義、歴史的展開、サービスの現状と課題、専門職としての保育士の役割等を理解します。具体的内容としては、児童の権利、児童福祉の意義及び歴史的展開過程、法律や制度、機関や施設、少子化と子育て支援サービス、児童虐待やひとり親家庭等の現代社会における児童福祉の課題、専門職と専門援助技術、保育士の他機関との連携、児童と家族に対する相談援助活動等の理解です。集団討議なども取り入れ、多面的な理解をめざします。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 社会福祉論	社会福祉は、常にその時代、時代の社会的変動と深く結びついて展開してきています。本授業では、そうした歴史的発展段階を踏まえながら、それぞれの時代の生活者としての人々の暮らしに着目し、生活上の課題、多様なニーズの動向を捉えながら、それらと保育実践との関わりを明確にし、その実践を支える基盤となる価値、理念の体系を学習することを目的とします。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 相談援助演習	保育所における相談援助活動は、子ども、保護者等の人権に十分配慮して援助関係を形成しながら、相談者自身が自分で問題解決を図れるよう援助することが重要であります。最近では保護者の育児不安等による児童虐待が社会的問題となっていることから、相談援助に必要な知識や技術について、児童相談の事例をとおして考え、理解を深める内容とします。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 社会的養護論	家庭の養育との関連の中で、特に社会的養護を中心としながら、児童養護について理解します。具体的内容としては、児童養護の理念、養護問題の歴史的展開過程、社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、養護問題の今日の特徴、社会的養護における児童の権利擁護や児童観、問題発生構造、里親制度や児童養護施設等の各種児童福祉施設における援助の実態とその基本原理、施設の運営管理、スーパービジョンやチームワーク、保育士の資質や専門性等の理解です。集団討議なども取り入れ、多面的な理解をめざします。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	幼児発達心理学	保育では、今ここに存在している子どもを理解、把握し、援助することが求められます。そして、子どもの現在の姿は、その子どもの過去、将来の姿と深く関連しています。そこで本講義では、子どもの発達とは何かを考えつつ、胎児期、新生児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の各発達段階の特徴を中心に論じ、子どもを理解するための基礎的知識を生涯発達の視点から提示します。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	幼児心理学演習	幼児心理学演習では、子どもの発達が、子どもの日々の生活や遊びのなかで、具体的な学びの過程を経て、どのように展開していくのかを保育実践と関連させて考察します。最後に、保育者として子どもの発達を援助するための視点やかかわりに関して、乳幼児期に特徴的な発達課題と関連させながら考えを深めていきます。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	子どもの保健Ⅰ	子どもたちの身体や心がどのように発達していくのか、各発達段階にはどのような特性があり、どのような支援や配慮が求められるのか、正しい知識を身につけていきます。また、その発達が保障されるために、保育現場ではどのような保育が展開されているのか、どのような実践が行われているのかについて学びます。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	子どもの保健Ⅱ	子どもたちにおきやすい事故や病気、その発達的特徴や対応について学びます。また、病気への対応や投薬、事故への対応などにおける、保育の実践から、配慮すべき事項について考えます。さらに、保育現場と家庭、地域とが、どのようにつながり、子どもの発達をサポートしているのかについて学びます。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	子どもの保健演習	家庭や保育の場で、子どもの成長・発達を促す関わりができるような知識や技術などを理解します。健康な子どもの日常生活援助(食事、授乳、睡眠、排泄、衣服の着脱、清潔)、健康状態の観察、異常の早期発見などが行えるために知識と技術を習得します。また、子どもによく見られる病気や症状を理解し、その対処法や看護を学びます。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	子どもの食と栄養	健康な生活の基盤としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深めることを目標とします。子どもの栄養に関する基礎的事項として栄養素の種類と機能、栄養状態の評価、食事摂取基準、献立作成・調理の基本などについて学びます。乳児期の授乳と離乳、幼児期の食、学童期の食、生涯発達と食など、子どもの発達段階に応じた食生活の意義ならびに実際について学習します。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	家庭支援論	社会状況の急激な変化によってもたらされた、少子化・子育て不安・マルトリートメント・ドメスティックバイオレンスなどの家庭に関わる問題状況に対する国内外の政策的・実践的取り組みの現状を理解し、これからの子ども・家庭福祉およびその支援のあり方を具体的に考えます。
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	保育課程論	保育所保育および幼稚園教育の目的や内容について実践的、総合的に理解を深めるとともに、保育課程・教育課程編成の原理、指導計画作成の手順を具体的に学習し、実際に指導計画やカリキュラムを作成します。保育の計画、実践、評価、改善といった過程の全体構造を把握し、保育内容の充実と質の向上に向けた保育の計画と評価の意義やそのあり方について理解します。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目 教職専門科目群	保育内容総論	保育現場では、保育の目標を達成するために、数々の保育活動・内容が展開されています。本科目では、主には「保育所保育指針」における保育内容とそのねらいについて理解し、その構造と「健康」「言葉」「環境」「人間関係」「表現」といった各領域について、それぞれの目的と相互関連性について学習します。そして、それらの理解のもとに保育実践における総合的な指導・援助の組み立てについて学習します。	
主専攻科目 教職専門科目群	保育内容(言葉)	「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」に掲げられた領域「言葉」の考え方を学び、自分自身の「言葉」についての捉え方を振り返ります。その上で、乳幼児にとっての「言葉」がどのように大切なかを考えます。さらに、そうした「言葉」を育てていくために、保育者はどのようにしてかかわっていくことができるのか。状況や人間関係、およびそれぞれの人物像などから考察していきます。	
主専攻科目 教職専門科目群	保育内容(健康)	幼稚園教育要領及び保育所保育指針を理解し、保育の基本と健康の関係を明らかにします。今日の子どもの現状を理解しながら、乳幼児の心と体の発育・発達の特性や身体の成長に関して理解します。そして「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことをめざして、保育の具体的な内容や指導・援助の仕方など保育者としての知識・認識を深めるとともに、基礎的能力を養います。	
主専攻科目 教職専門科目群	保育内容(人間関係)	子どものさまざまな生活場面での「人とのかかわり」の育ちについて、保育理論と保育実践との統合という観点から検討します。特に、子どもにとっての「人間関係」の意味と自我形成、保育の基本と領域「人間関係」との関連性、領域「人間関係」のねらいと内容、子どもの「生活」と人とのかかわり、子どもの遊び集団と人とのかかわり、人とのかかわりと保育者の指導・援助などの事項を検討・考察することで、「人とのかかわり」に関する基礎的指導力の形成を目標とします。	
主専攻科目 教職専門科目群	保育内容(環境)	幼稚園教育要領・保育所保育指針について、より理解を深め、子どもにおける「身近な環境とのかかわり」の育ちについて理解することを目的とします。なお、本講義では、特に領域「環境」の基本理念と子どもが環境とのかかわる意味に関して詳述する予定です。さらに、子どもの主体的・能動的な生活と領域「環境」とのかかわり、子どもの成長・発達と領域「環境」との関係、幼稚園や保育所において実践される領域「環境」の具体的な指導事例などの考察を通して理論と実践の橋渡しができるよう講義する予定です。小学校生活科への連携の視点も重要です。	
主専攻科目 教職専門科目群	保育内容(音楽的表現)	この授業は、幼児教育における音楽的活動・指導の現状と課題を認識しながら、幼児の音楽的発達を保障する音楽的活動・指導を行うために必要となる知識と技能を、理論と実践の両側面から習得することを目的としています。なお、到達目標は以下の通りです。 (1) 子どもの音楽的発達について理解すること。 (2) 幼児音楽教育の歴史や幼稚園教育要領・保育所保育指針の内容を理解すること。(3) (1)と(2)を反映させた音楽活動の指導案を作成し、模擬保育として実践することができ、かつ他人の模擬保育に対し適切な評価ができること。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 保育内容(造形的表現)	幼児期に見られる独特の表現、感性、好奇心は造形表現上にも強く表れます。保育者としてその援助にあたる時、それらを受けとめる柔軟性や専門性、指導力が問われます。幼児一人一人が豊かで伸び伸びと造形活動を展開することができるための基礎的・基本的な知識や理論、実践力の習得を目的とします。到達目標は、幼児期における造形表現の特性の理解とし、教材研究や指導方法についての具体的・実践的な考察を深め、指導力を身に付けます。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 保育内容(身体的表現)	保育内容「表現」領域のうち、身体的表現に関わる基本的な考え及びねらい・内容についての概説や実技を通してその理解を図るとともに、具体的な指導方法について、指導案の作成及び模擬保育を実施しながら理解を深めることを目的とします。「ねらい・内容・方法・評価」の一貫性のある指導案の作成やそれを基にした模擬授業においては、小集団を単位としたワークショップや相互評価のための討論を中心とした授業形態で行います。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 乳児保育演習	乳児保育の概念、乳児保育の制度と現状について理解し、現代の乳児保育の果たす役割および課題について学習します。さらに、乳児の発達を踏まえた保育の方法について修得します。また、乳児を集団で保育することについて、現場での具体的課題について討議しながら、問題解決の方法について考察します。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 障害児保育演習	障害のある、または保育の中で「ちょっと気になる」子どもの保育は、一人ひとりに応じた、丁寧な支援が求められます。その計画・実践においては、保育者が正しい知識と柔軟な発想・豊かな感受性を持ち、保育を工夫・充実していくことが大切です。本講義では、受講生自身が発達や障害についての理解を深め、その支援の方法について考える力を身につけることを目的とします。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 社会的養護内容	社会的養護としての児童福祉施設等による養護の実践を理解させます。児童福祉施設などを利用している児童の立場をロールプレイで学んだり、生活プログラムを作成したりするなどの演習をとおして、日常的に展開されている具体的な児童の生活や援助者の援助方法について理解します。また、児童の心身の成長や発達を保障し援助するために必要な知識や技能、児童観や施設養護観を理解します。具体的内容としては、家庭環境により家庭で生活することができない児童の理解、心身に障害があるために専門的なケアを必要とする児童の理解等を深めていきます。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 保育相談支援	子育て支援センターや、保育現場において、保育者が相談を受ける様々な課題について、保護者に対してどのような支援や指導を行っているのか、関係する職種や機関との連携を踏まえながらの相談と支援の具体的内容と方法について学習します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	音楽表現技術Ⅰ 幼児に豊かな音楽的表現活動を指導する際に不可欠な音楽の基本的な知識の技能を習得させるために、主として授業内容を次のように構成します。(1)受講生の音楽の習熟度に応じたピアノ独奏・連弾曲や童謡・歌曲(のピアノ伴奏)をそれぞれ演奏することで、ピアノの演奏技能の基礎を習得します。(2)上記の楽曲を演奏する中で、必要な楽典の知識や読譜力の基礎を習得します。	共同
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	音楽表現技術Ⅱ 「音楽表現技術Ⅰ」の授業で習得した知識と技能をふまえて、さらに豊かな音楽的表現を実現させるために、主として授業内容を次のように構成します。(1)受講生の音楽の習熟度に応じた童謡・歌曲を演奏することで、「弾き歌い(ピアノを弾きながら歌うこと)」の技能の基礎を習得します。(2)上記の楽曲を演奏する中で、楽典の知識と読譜力を習得します。	共同
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	図画工作表現技術 描いたり、作ったりする造形活動は、人間の本能であるとの理念に立って、人間が本来もっている造形表現の楽しさや喜びを味わうことをねらいとします。多様な表現方法、手段があることを実際の造形活動を通じて理解するとともに、各個人、それぞれの個性、興味、特性の違いによる多様な価値観の理解も深めます。表現や鑑賞を通して、美的感覚を高め創造力を豊かにしていくと共に、保育者としての必要な造形活動の知識と基礎技能を習得しつつ、また、幼児の造形表現とその発達を理解して、子どもの伸び伸びと広がる創造の世界の表現援助についても理解させます。	
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	体育表現技術 子どもたちの成長において体を使って遊ぶことは大きな意味を持っています。本授業では、子どもたちの豊かな遊びの創造に貢献し、子どもたちと共に体を使って遊ぶことを楽しむことのできる保育者になるために、今日の子どもたちを取り巻く生活環境や生活様式の変化が引き起こすさまざまな問題や課題を知り、今日の子どもたちの発達の特徴に応じた遊びについて考え、実践を通して理解を深めていきます。受講者自身が体力向上に努めることも目指し、子どもの姿を踏まえた保育を展開するための技能を習得します。	
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	保育実習Ⅰ(保育所) 大学で履修した知識や技術を基礎とし、実際に乳幼児と接する中で、対象者についての理解を深め、保育所の役割及び保育士の職務内容や役割について体験的に理解、把握します。それらを通して、保育の理論と実践の関係について総合的な視点を学びます。	
主 専 攻 科 目	教 職 専 門 科 目 群	保育実習Ⅰ(施設) 大学で履修した知識や技術を基礎とし、利用者の方と接する中で、対象者についての理解を深め、児童福祉施設の役割及び保育士の職務内容や役割について体験的に理解、把握します。それらを通して、保育の理論と実践の関係について総合的な視点を学びます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 保育実習Ⅱ(保育所)	保育実習Ⅰをふまえ、保育活動に参加し乳幼児と関わりることによって、保育についての総合的な理解を深めます。さらに、実際に保育を計画し、立案・実践・評価する経験を通して、保育技術の習得と保育理論と実践との関係についての考察を深めます。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 保育実習Ⅲ(施設)	保育所以外の児童福祉施設、その他の社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得します。また、施設や家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力をつけていくとともに、子育てを支援するために必要とされる能力をつけていきます。具体的には、養護技術の習得や、発達の程度や生活環境にともなう児童の個別的ニーズの把握とその対応、児童の家族とのコミュニケーション、地域社会との連携、児童の最善の利益の具体化、保育士の倫理、その施設のもつ養護機能とその社会的機能等の理解です。実習を通して自己の課題を明確にしていくことが求められるため、実習後の討議も重視します。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 保育実習指導Ⅰ(保育所・施設)	保育実習Ⅰ(保育所・施設)の目的、意義、内容について理解を深めます。各自の実習目的の明確化、実習記録の書き方、実習時の保育活動についての準備を行い、一人ひとりが主体的に、効果的に実習を行うための基礎知識の習得と実習に向けての心構えを養うことを目的としています。実習後は、実習での評価、反省をもとに、保育士としての自らの人格形成課題を自覚すると共に各自の学習課題の明確化を図ります。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 保育実習指導Ⅱ(保育所)	保育実習Ⅱの目的・意義・内容について理解を深めます。これまでの実習経験を振り返りながら自らの学習課題を見出し、保育実習Ⅱでの学習課題を設定します。さらに、実習を主体的・効果的に実施するために保育と保育指導に関わる知識・技術の習熟を図ります。実習後は、実習で明らかとなった自己の課題と保育の現代的課題について、グループで協同的に検討を行い、現代の子ども福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、今後の自己の学習課題を広角的な視野から明らかにし、その学習計画を作成します。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 保育実習指導Ⅲ(施設)	保育実習Ⅲの目的と内容、意義について考えます。居住型児童福祉施設や、通所型児童福祉施設を利用する、子どもたちの姿やニーズ、また、国や自治体における、施設利用のための制度や支援システムについて把握することを目的とします。また、それぞれの施設の役割と特性、保育者の働きについても学習します。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 保育実践演習	大学での授業や保育実習等での経験をふまえ、①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係力、③乳幼児理解、④保育内容の指導力など保育者として必要な知識・技能についての理解を深め、保育の場で適切に指導できる実力を身につけることを目標とします。 大学2年間で学んだ学習知と保育実習等で得られた実践知との更なる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する保育者としての資質の構築とその確認を行います。授業では、グループに分かれての演習を中心に、講義、ロールプレイング、模擬授業、近隣園や地域での調査・観察等も組み合わせ、実際の保育現場を想定した課題を分析、考察、解決します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 知的障害者の心理・ 生理・病理	知的障害がある人の心理・生理・病理的特徴などについて概説します。その中で、知的障害者の定義や原因について論じ、併せて知的障害者の運動・言語・社会発達と障害について言及します。知的障害者の主な病理例をあげ、教育上のニーズと支援について、それぞれ概説します。 (オムニバス方式/全15回) (12 平田香奈子/5回) 心理分野 (13 三木由美子/5回) 生理分野 (235 吉長成恭/5回) 病理分野	オムニバス方式
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 肢体不自由者の心理・生理・病理	肢体不自由者を理解する上で、一番必要な人間の体のしくみについて説明します。次に、人間の行動を、解剖学的、生理学的、心理学的観点から解説し、肢体不自由者の状態像を考察していきます。このような基本的なことを理解した後、具体的な医療的ケア、疾患等について概説します。 (オムニバス方式/全15回) (12 平田香奈子/5回) 心理分野 (13 三木由美子/5回) 生理分野 (235 吉長成恭/5回) 病理分野	オムニバス方式
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 病弱者の心理・生理・ 病理	病弱・身体虚弱の定義、病弱の原因疾患やその治療、病弱者の悩みや不安、病弱児の病気理解について概説します。さらに、保護者の心理、支援における配慮事項、自己管理支援の在り方など、病弱・身体虚弱の生理・病理にも触れながら、病弱者の心理的側面について論述します。 (オムニバス方式/全15回) (235 吉長成恭/5回) 病理分野 (深澤(矢内)美華恵/5回) 生理分野 (中内みさ/5回) 心理分野	オムニバス方式
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 知的障害教育学	知的障害者教育の特徴として挙げられる、教科の内容の独自性、指導法としての領域・教科を合わせた指導など、指導内容・指導方法に関する独自性について、意義及び実際に指導を展開する上での留意点を、歴史的背景を踏まえながら概説します。	
主 専 攻 科 目	教職専門科目群 知的障害指導法	知的障害のある子どものコミュニケーション、学習、生活技能等の指導法や不適応行動への対応などを、具体的事例を通じながら、その特性からくる配慮について説明します。発達検査等の結果の読み取り方、使い方にも触れます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目 教職専門科目群	肢体不自由の教育と指導	肢体不自由教育のこれまでの歩みや、特別支援学校(肢体不自由)における教育の実際を紹介します。その上で、今後の肢体不自由教育、肢体不自由教育の蓄積を生かした特別支援教育の充実に向けた課題を提示し、改善策について議論します。さらに、肢体不自由教育の歴史や現状を理解した上で、今日的課題に対する改善策について考察します。	
主専攻科目 教職専門科目群	病弱の教育と指導	病弱教育の歴史をふまえ、今日の病弱教育の対象・場とそれぞれの場の特徴を概観し、病気療養者にとっての教育の意義を説明します。病気療養者の心理特性に配慮した教育内容・教育方法・教育課程を概説します。	
主専攻科目 教職専門科目群	特別支援教育課程論	学習指導要領の制定史と対応させながら、障害児教育課程の変遷について理解させるとともに、学習指導案の構成について理解し、工夫して作成できるように指導していきます。障害児の思春期・青年期についての教育・発達の面からのとらえ方、創造的な実践構成内容の課題、高等部教育課程の変遷と条件整備上の課題、高等部卒業後の生涯学習の展開例について講述します。	
主専攻科目 教職専門科目群	視覚障害概論	視覚障害教育の概要と特徴を理解するために、視覚障害教育のあゆみ、盲学校、弱視特別支援学級および通級による指導の特徴、生理・病的な知見及び心理的な知見を理解した上での子どもの状態の把握、視覚障害に対する学習上の配慮や工夫等について概説します。	
主専攻科目 教職専門科目群	聴覚障害概論	聴覚障害教育のあゆみについてまず概観し、さらに、聴覚障害の生理、病理、心理の基礎を学びます。そして、早期教育の意義とコミュニケーション方法について概説します。次に、聴覚障害児および言語障害児の発達とその支援について説明し、さらに学力形成と授業の進め方について検討します。	
主専攻科目 教職専門科目群	特別支援教育実習事前事後指導	特別支援学校での実習の意義や、実習上の必要な事項について確認します。児童生徒への支援的対応、一日の生活の流れ、興味関心をはじめ、実習時期が児童生徒にとって、どの時期、どの位置にあるのかなどを理解し、指導計画や支援案づくりの資料を得ます。また、実習における自己目標の設定、日誌への記入、指導計画作成についても理解します。事後指導では、特別支援教育の意義や課題について、意見交換を行い、実習の振り返りを行います。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目 教職専門科目群	特別支援教育実習	特別支援学校における授業の指導計画、教材・教具、指導方法の工夫などを通して、特別支援学校教員としての資質や技能を習得し、また幼児・児童・生徒との関わりを通して、知的障害児・肢体不自由児・病弱児についての理解を深めます。現場での実践を通じて、他機関との連携や進路指導等についても学びます。	
主専攻科目	関連学科科目 心理学概論Ⅰ	本講義では、生物学的な視点から人間行動を説明する適応論について解説します。進化や遺伝子に関する基礎を学び、ヒトの行動がどのような生物学的な基盤を持つかを解説します。古い社会科学(「標準社会科学モデル」)では、人間行動はその全てが文化や社会によって説明できるとされてきたが、そのような考え方は既に否定されています。文化や社会が人間行動に影響を与えているのは確かですが、行動遺伝学や進化心理学などの様々な研究によって、人間行動の進化的基盤が明らかにされてきました。講義では、こうした研究の一端を紹介し、進化や適応という視点から人間行動を説明することの意義について学習します。	
主専攻科目	関連学科科目 心理学概論Ⅱ	心理学は今まで、良い意味でも悪い意味でも、“心”という事象を詳細に定義せず使用してきました。しかし、近年の脳科学の発展やロボット工学の進歩は、“心”の再定義を迫っています。本講義では、このような状況を踏まえつつ、心理学とはどのような科学であるのか、またその効用と限界は何かについて考察します。具体的には、①心とは何か?、②心の働きを科学的に(あるいは論理的に)理解するとはどのようなことか?、③われわれの日常生活において遭遇する出来事について、心理学的な立場からはどのような考察を与えられるのか(与えられないのか)また与えるべきなのか?、などを論じます。そして、そのことによって、人文学部心理学専攻が目指す、“日常の様々なことがらに対して「心理学的な発想、分析そして解決」のできる人間”に履修者が近づくことを目論んでいます。	
主専攻科目	関連学科科目 ヒロシマ文化論Ⅰ	ユネスコの世界遺産登録(文化遺産・自然遺産・複合遺産)は2013年6月現在で981件。日本には17件(文化遺産13件・自然遺産4件)あり、うち2件は私たちに身近な広島県内にある厳島神社(廿日市市宮島町)と原爆ドーム(広島市中区)です。 世界遺産は観光面では高い関心を集めていますが、遺産登録の経緯や遺産の持つ歴史、現状、保存・保護の地道な営みは残念ながら見過ごされがちです。とくに世界遺産に関係する地方自治体・地域住民と遺産との関わりにはほとんど目を向けられません。 前期のヒロシマ文化論Ⅰは、国際的にも知名度の高い広島と近郊にある世界遺産2件の登録前後の歴史を通して、日本の文化財保護のあり方と世界遺産との関係、遺産登録の大きな目的である「保存と継承」について多角的に考えたいと思います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目	関連学科科目 ヒロシマ文化論Ⅱ	<p>最近、広島都市圏に暮らす若い人たちが、総じて「広島」をあまり知らないという声を聞きます。歴史が嫌いとか苦手な人が多いのかもしれませんが。関係者の話を聞く限りでは、日本史教科書の年号丸暗記の体験が影を落としているように思えます。</p> <p>人口118万の政令指定都市広島は、広島湾岸の太田川デルタの南下とともに、城下町から発展しました。瀬戸内海の穏やかな気候・風土に恵まれ、製造業・流通業を柱に多くの事業所が立地し、海陸交通の結節点・支店都市として活況を呈しています。</p> <p>そうした広島の歴史については、これまで歴史学(文献史学・民俗学・考古学)の多様な角度から研究が行われ、その豊かな成果は書籍や文化施設で公開され、私たちの今日と将来への指針ともなっています。</p> <p>この後期授業は、都市広島の歴史を考える素材として広島城を取り上げます。教科書的な丸暗記は一切必要ありません。広島城の盛衰を通して都市広島の歩みを探ります。「奥深い歴史を考える」には一面的な知識や知識量ではなく、持っている知識をどう使うかが重要です。</p> <p>歴史は覚えるものではなく考えるものです。授業を通して皆さんの学問的好奇心を刺激したいと思えます。</p>	
主専攻科目	関連学科科目 社会心理学	<p>人間は社会的動物であると言われます。人間は社会のサポートなくして人間として育つことはできず、成長した後も数多くの社会的影響を受けます。本講義の目的は、こうした人間の社会性が、1) どのような形で人間の心に備わっており、2) いかになり成立可能なのかを知ることにあります。</p>	
主専攻科目	関連学科科目 認知心理学	<p>認知心理学という学問分野の特色は、人間の諸活動を情報処理という観点から捉えなおすところにあります。本講義では、人の様々な活動に通底する情報処理機構について「情報の統合」という過程に着目して検討します。授業では可能な限り多くの心理学的な現象を紹介し、実際に体験してもらいます。それに基づき、日常生活や授業における経験と認知心理学的理論(モデル)との異同を認識してもらい、両者の有機的な結びつけを促します。</p>	
主専攻科目	関連学科科目 発達心理学	<p>本講義では、人の心の働きが年齢を重ねることや経験を積むことによってどのように変化するかについて概説します。発達を誕生から死までのプロセスとみなす生涯発達心理学の視点に立ち、胎児期から老年期までの発達的特徴を説明します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目	関連学科科目	臨床心理学 あなたは健康ですか？幸せですか？自他ともに信頼できますか？そもそも、健康とは何でしょう？幸せとは？信頼とは？これがテーマです。 私は、約20年間、非行臨床、病院臨床に携わり、社会のうねりに翻弄される人々のこころの叫びとからだの悲鳴を聞いてきました。21世紀に入って、皆さんを取り巻く社会情勢(環境)はさらにめまぐるしさを増し、先の見えないストレスフルな状況になっています。いずれ皆さんはこのような社会に否応なしにさらされることとなります(いや、既にさらされているかも知れません)。 本講義では、癒しの時間と空間、そして情報を提供できればと思っています。その中から、皆さん自身が、現代社会を如何に生きていくか、そのためにはどうすればいいのかを学び、実践してもらいたいと考えています。	
主専攻科目	関連学科科目	知覚心理学 私たちは日常生活の中で、特に意識することなく外界の情報を処理して知覚的世界を作り上げています。しかし、その知覚的世界は必ずしも物理的世界と同じではありません。本講義では視覚の複雑な働きを概説し、適宜、体験も通してその役割の理解を深めます。発達の偏りをアセスメントする上でも、知覚心理学の知識は役立つと考えています。	
主専攻科目	関連学科科目	生理心理学 現在までに得られている脳神経科学研究の成果を基に、刺激と脳と行動との関係について理解することを目標とします。刺激と行動の関係を考える行動科学の立場を明確にしなが、生体から測定される従属変数としての生理学的指標を、具体的な実験研究例を引用して紹介します。授業内容は刺激に対する自律系の反応を扱った研究紹介とそこから考えられる特性を講義します。さらにヒトと動物の脳波分析を中心に論文を紹介して、睡眠と覚醒および認知情報処理と事象関連電位等の分析について講義する予定です。テーマをより深めた専門的授業とする予定です。授業テーマの項目を中心に扱う予定です。	
主専攻科目	関連学科科目	パーソナリティ心理学 人は自分や他人の行動や行動の原因について関心を持っています。 これは多様な個人差が人の行動に認められるからですし、また一つの行動についてもさまざまな説明が可能であるからでしょう。 本講義では人格(パーソナリティ)に関する研究を紹介し、さまざまな側面からの人格の理解について考えます。 主たる項目として以下の内容を予定しています。 (1) 人格とは何かー人格の意味 (2) 人格の考え方ー人格理論ー (3) 人格は何によってきまるかー発達と形成ー (4) 人格の生理学的基礎ー脳と人格ー (5) 人格のとらえ方ー測定と診断ー (6) 適応ー健康な人格ー	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	関 連 学 科 科 目	心理療法 世界には数多くの心理療法が存在しており、その数は300を超えられていると言われています。その中から、「家族療法」と「システムズアプローチ」を取り上げます。「家族療法」は家族をシステムとして捉え、家族に起こるさまざまな問題（不登校、非行、摂食障害、心身症、神経症、人格障害など）を家族とともに解決していく方法です。一方、「システムズアプローチ」は、対象をシステムとして捉えるアプローチで、個人の心理療法だけでなく、人を対象とするあらゆる領域で有効に用いることのできる方法です。この講義では、基礎の理論や具体的な治療の方法からその応用まで幅広くお話しいたします。心理療法について深く理解していただくために、いろいろな方法を羅列的に説明するのではなく、これらの方法を詳しく理解していただいた上で、いろいろな事例の解説を行います。一つの方法を詳しく知ることにより、事例の理解を深めることができ、それにより『心理療法』についてきちんと理解していただけると考えています。	
主 専 攻 科 目	関 連 学 科 科 目	健康心理学 健康心理学は、人生の質（quality of life）を高めることを目的にした新しい心理学ないし行動科学で、基礎研究と実践という2つの領域があります。健康に関連するさまざまなテーマについて行動科学的見地から学習し、基礎研究に基づいた実践活動のあり方を理解することを目的とします。また、授業を通して自らの健康観を見直すこともねらいとします。	
主 専 攻 科 目	関 連 学 科 科 目	メディア論Ⅰ 地元の中国新聞社で記者生活を40年続けました。その経験を、若い世代に伝えていきたいと考えています。現在は、情報社会と言われています。現代人は情報の波に流され、操られているのではないかと私はそんな危惧を抱いています。情報社会を生き抜くには、情報の本質をとらえることが必要になっていきます。そのためには、メディアの本質についてもっと知る必要があります。新聞社の現場で見聞きしたことを事例に挙げながら、新聞、テレビを中心にしたメディアの問題点を探っていきます。	
主 専 攻 科 目	関 連 学 科 科 目	メディア論Ⅱ 地元の新聞社で記者生活を40年続けました。その経験を、若い世代に伝えていきたいと考えています。メディアが伝えていることは「真実」だろうか。この疑問から入っていきたいと思います。メディアが送り出す情報を、建設的に「批判」でき、メディア社会と積極的につき合うための能力を養うことが目的です。そのためには、まずメディアを知る必要があります。さまざまなメディアを取り上げ、その本質に迫る努力をしていきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目 関連学科科目	ジャーナリズム論Ⅰ	地元の中国新聞社で記者生活を40年続けました。その経験を、若い世代にどう伝えるかを考えています。 現代社会では、日々さまざまな問題が起きています。しかも、日本だけではなくグローバルな展開を示すのが特徴です。その問題点を一つ一つ取り上げて、ジャーナリズムの核心に迫っていく努力をします。見たり、聞いたり、体験したことを踏まえながら、共に考えていく講義にしていきたいと思います。 その日のニュースを流し、簡単なニュース解説をします。出席カードの備考欄を活用して、書く訓練もします。	
主専攻科目 関連学科科目	ジャーナリズム論Ⅱ	地元の新聞社で記者生活を40年続けました。その経験を若い世代にどう伝えるかを考えています。 氾濫する情報の本質をどうとらえていくかは、受け手側の力量になってきます。つまりメディアリテラシーが、これからの社会で重要です。大きな出来事の一つ一つ取り上げながら、何が問題でどうとらえればいいのか、などについて考えていきます。	
主専攻科目 関連学科科目	比較社会論	私たちの社会が世界とどうつながっているのかについて知り、グローバル化がすすむ世界における諸問題について、その背景にある社会の違いを考慮しつつ、解決方法にアプローチします。	
主専攻科目 関連学科科目	共生社会論	私たちの社会が世界とどうつながっているのかについて知り、グローバル化がすすむ世界における諸問題について、多文化共生社会実現のための解決方法にアプローチします。	
主専攻科目 関連学科科目	現代社会論A	本講義では、近代社会の転換期を迎えている現代社会に生起する問題群を理解するための基本的な社会理論を考察します。とりわけ、ポストフォーダイズム、新自由主義、グローバリズム、新資本主義というイデオロギーによって方向付けられている現代社会が抱える問題群を提示し、批判的に考察するための社会理論について検討します。	
主専攻科目 関連学科科目	現代社会論B	現代社会に生起している諸現象・諸問題を社会構造の変動と価値変容と関連づけて考えます。とりわけ、現代社会に生起している社会現象や社会問題を取り上げ、それらの背景として潜在化しているグローバリズム・個人化・リスク社会化・新自由主義などの問題群に関して考察します。	
主専攻科目 関連学科科目	社会意識論A	社会意識とは、ある社会集団の成員に共有されている意識(心性)であり、さまざまな階級・階層・民族・世代・職業などの社会集団ごとに、それぞれの客観的な存在条件によって規定されます。本講義では、社会意識研究の理論的枠組みと社会意識に関連する概念について学ぶことを目的とします。さらに、現代社会における社会意識の形成及び変容過程を、具体的な社会現象をとりあげて分析していきます。尚、講義内容に関連した映画もしくはドキュメンタリーを事例として使用する予定です。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目 関連学科科目	社会意識論B	社会意識とは、ある社会集団の成員に共有されている意識(心性)であり、さまざまな階級・階層・民族・世代・職業などの社会集団ごとに、それぞれの客観的な存在条件によって規定されます。本講義では、現代社会における社会意識の形成及び変容過程を、ファッションや家族、生殖技術など、様々な社会現象や社会集団をとりあげて分析していくことを目的とします。なお、講義内容に関連した映画もしくはドキュメンタリーを事例として使用する予定です。	
主専攻科目 関連学科科目	文化社会学A	音楽、ダンス、映画、文学等の表現文化や思想、学問、社会運動を通じて展開する文化の政治を社会的に分析するための理論的な方法を議論するのが本講義の目的です。分析の素材として取り上げるのは、植民地主義(これには奴隷制や人種差別、民族的ジェノサイド等も含まれる)との闘いのプロセスで生まれた黒人文化です。ポール・ギルロイによれば、黒人文化を貫く重要なテーマのひとつは、「苦しみのなかで存在すること」であり、本講義においても、このテーマを現代社会学が追究すべき課題のひとつと位置づけて議論をすすめていきます。	
主専攻科目 関連学科科目	文化社会学B	音楽、ダンス、映画、文学等の表現文化や思想、学問、社会運動を通じて展開する文化の政治を社会的に分析するための理論的な方法を議論するのが本講義の目的です。分析の素材として取り上げるのは、植民地主義(これには奴隷制や人種差別、民族的ジェノサイド等も含まれる)との闘いのプロセスで生まれた黒人文化です。ポール・ギルロイによれば、黒人文化を貫く重要なテーマのひとつは、「苦しみのなかで存在すること」であり、前期に引き続き後期も、このテーマを現代社会学が追究すべき課題のひとつと位置づけて議論をすすめていきます。その際、後期は特に、アメリカ社会学の誕生に深く貢献した黒人社会学者、W・E・B・デュボイスの理論を中核的な分析の道具として応用していきます。	
主専攻科目 関連学科科目	コミュニティ論A	本講義は、家族の問題を中心に扱うことにします。現代社会においては、家族のありようは流動的に変化しています。大きな問題としては、少子化や高齢化が取り沙汰されていますが、その他にも家族という社会単位に影響を与える問題は多数存在し、むしろ従来の家族ではない「家族」、すなわち「新しい」家族が出現しています。いや、むしろそうした家族形態は、以前から存在していたでしょうが、家族社会学の視点では周縁化されてきたものです。この講義では、そうした「新しい」家族に焦点をあて、それが社会において形成されるプロセスやより大きな社会構造との関連性について考察していきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目	関連学科科目	コミュニティ論B	社会学でもこれまでに「コミュニティ」という概念はしばしば用いられてきました。しかし、この概念がどのようなものを意味するのかがいまひとつ明確になってはいません。そこで、本講義では、とりあえず「コミュニティ」の意味内容をそれほど厳格に定義することをせず、「なんとなくコミュニティらしきもの」という程度の意味として「コミュニティ」をとらえながら、むしろその内容それ自体に目を向けていくなかで、コミュニティがどのようなものから構成され、社会においてどのような意味をもつのか、を問うことをひとつの目的とします。また、もうひとつの目的は、コミュニティらしきものに対してさまざまな切り口からアプローチすることで、多様な形で存在するコミュニティ像を浮かび上がらせることです。
主専攻科目	関連学科科目	コミュニケーション論A	日常生活においてことさら意識することなく行っているコミュニケーションについて、さまざまな視点を通して今日の問題について検討します。「コミュニケーション論A」では対面的コミュニケーションを中心に学び、さらにITという言葉に代表される情報化はコミュニケーションのあり方にどのような影響を与えるのかについて考えます。
主専攻科目	関連学科科目	コミュニケーション論B	日常生活においてことさら意識することなく行っているコミュニケーションについて、さまざまな視点を通して今日の問題について検討します。「コミュニケーション論B」ではメディアを介したコミュニケーションのあり方について学び、さらにITという言葉に代表される情報化はコミュニケーションのあり方にどのような影響を与えるのかについて考えます。
主専攻科目	関連学科科目	サブカルチャー論A	一般的には「ダサイ」と思われているおたくが、実は、自分のファッションやスタイルに強いこだわりを持っているということ、皆さんはご存じでしょうか。こだわりを持っているにもかかわらず、なぜおたくは、「ダサイ」と思われてしまうのでしょうか。おたくのこだわりの対象が、アニメや漫画、ゲームだからではありません。おたくが、おしゃれな人と同じアイテムを身につけていたとしても、おたくは「ダサイ」と思われてしまうのです。「ファッション」の意味を知ること、その理由は見えてきます。この講義は、おたくを中心とするサブカルチャーを題材に、「ファッション」を考える視点を学んでいきます。
主専攻科目	関連学科科目	サブカルチャー論B	おたくや腐女子と呼ばれる人々／現象は、独特のサブカルチャーを形成し、時代により様々に解釈されてきました。講義では、個々のおたく観・腐女子観を超えて、漫画、アニメ、ゲーム、インターネットなどに代表されるおたく・腐女子を通じてサブカルチャーを考えます。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目	関 連 学 科 科 目	国際社会学A 現代はグローバル化の時代と言われて、すでに久しくなります。グローバル化は、まさに国際社会学の中心的なテーマですが、他方、グローバル化とは何か、という点については専門家の間でも必ずしも合意があるわけではありません。それどころか、大きな意見の隔たりがある場合さえも見受けられます。 この授業では、グローバル化の中の経済グローバル化に焦点を当て、それを詳しく検討することで、逆にグローバル化について迫ってみようと思います。 扱うトピックは、経済を中心にするとはいえ、国家から消費まで非常に多岐に渡ります。幅広いトピックに目配りする柔軟な姿勢で授業に臨んでください。	
主 専 攻 科 目	関 連 学 科 科 目	国際社会学B 現代はグローバル化の時代と言われて、すでに久しくなります。グローバル化は、まさに国際社会学の中心的なテーマですが、他方、グローバル化とは何か、という点については専門家の間でも必ずしも合意があるわけではありません。それどころか、大きな意見の隔たりがある場合さえも見受けられます。 この授業では、グローバル化の中での「人の移動」に焦点を当て、それを詳しく検討することで、グローバル化について考えてみようと思います。 扱うトピックは、人の移動を中心にするとはいえ、国家から都市、観光、アイデンティティまで非常に多岐に渡ります。幅広いトピックに目配りする柔軟な姿勢で授業に臨んでください。	
主 専 攻 科 目	関 連 学 科 科 目	社会安全政策論 「社会安全政策」は、学問的には必ずしも定着しているものではないですが、ここでは、我が国の「治安」を中心に、私たちが社会生活をしていく上で、様々な危険から逃れ、安全で安心できる生活を送るにはどうしたらよいか、ということを考えます。 社会の安全を脅かす原因は多種多様ですが、「世界一安全な国、日本」と言われてきた我が国において、その治安の良さを支えてきた要素がなぜ大きく崩れたのかの要因についてつぶさに分析し、その対応について検討を加えていこうとするものです。 本講義の特徴は以下の通りです。 ○時事的なテーマを適宜取り上げます ○実社会に出てからも役立つ情報を提供します ○法律改正の論点等についても適宜紹介します	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目	関連学科科目 公共政策論	<p>現代社会における複雑な諸相の中で、公共性はさまざまな形態や意味を帯びて現れています。 国家の見地から主張される(国家的)「公共性」と、市民の普通の利益として要求される(市民的)「公共性」とが対立する場面、さらに前者、後者のそれぞれの中で異なった「公共性」が成り立つ場面などもあります。 この講義では公共性の一般的な内容の提示と問題状況の認識に立って、環境問題と公共性、情報関係と公共性及び文化と公共性など公共性が論議される諸局面を取り上げ、実践の場 に立って具体的に講義を行います。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(163 高崎義幸・118 大田晋/1回)(共同) 社会(人口、経済、生活環境)と福祉—高齢社会と福祉—</p> <p>(118 大田晋/2回) 社会保障制度、ひとりでは対処できない危機、医療、介護、年金、社会的危機として</p> <p>(181 中尾正俊/3回) 都市といわゆる公共交通—戦前戦後・モータリゼーションの進展—、 路面電車と街づくり～軌道系公共交通機関を中心にした広島の交通計画の推移、 路面電車と街づくり～路面電車からLRTシステムへ</p> <p>(207 福田康浩/3回) 放送メディアの公共性、メディアと倫理、放送のリスク</p> <p>(124 小田政治/3回) 飽食ニッポンの周辺、安全から安心・問われる「食」の安全性、「食」と「農」—「地産地消」運動</p> <p>(163 高崎義幸/3回) 公共政策とは何か、.公共政策と市民生活 —福井県の原子力発電所を事例に—、市民による合意形成と公共政策</p>	オムニバス方式
自由選択科目		他学部他学科の授業科目につき省略	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おう
の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おう
類を作成する必要はない。